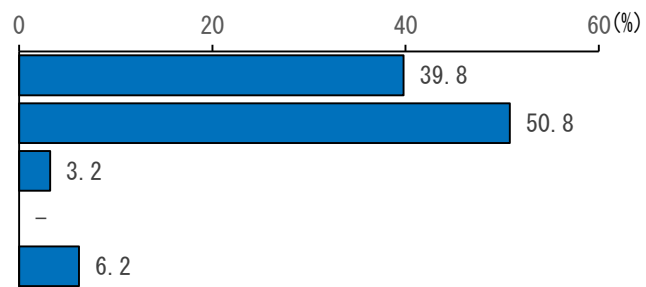


第2章 調査結果の詳細

1. あなた自身のことについて

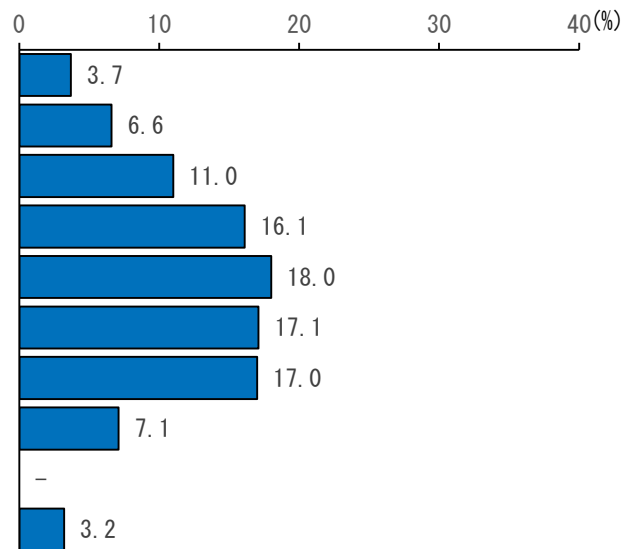
(1) 性別

	基数	構成比
男	592	39.8%
女	755	50.8%
回答しない	48	3.2%
不明	0	0.0%
無回答	92	6.2%
全体	1,487	100.0%



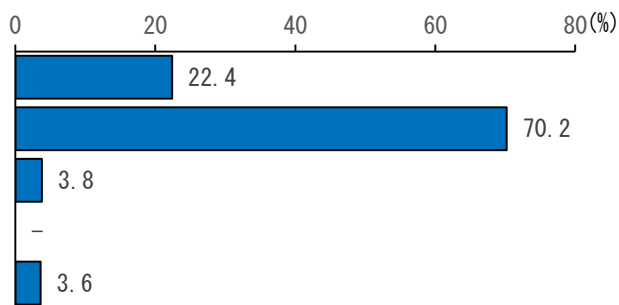
(2) 年齢

	基数	構成比
10代	55	3.7%
20代	98	6.6%
30代	164	11.0%
40代	240	16.1%
50代	268	18.0%
60代	255	17.1%
70代	253	17.0%
80歳以上	106	7.1%
不明	0	0.0%
無回答	48	3.2%
全体	1,487	100.0%



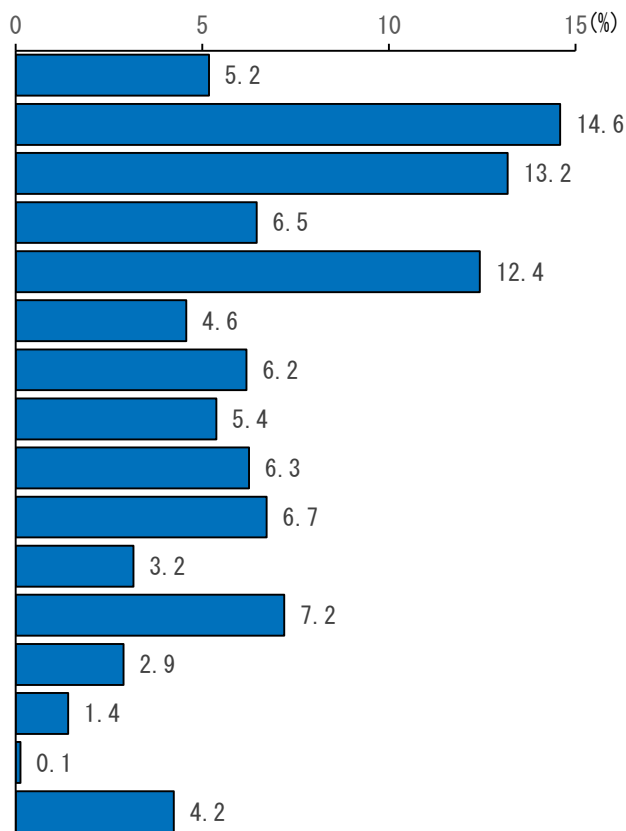
(3) 婚姻状況

	基数	構成比
独身	333	22.4%
既婚	1,044	70.2%
回答しない	56	3.8%
不明	0	0.0%
無回答	54	3.6%
全 体	1,487	100.0%



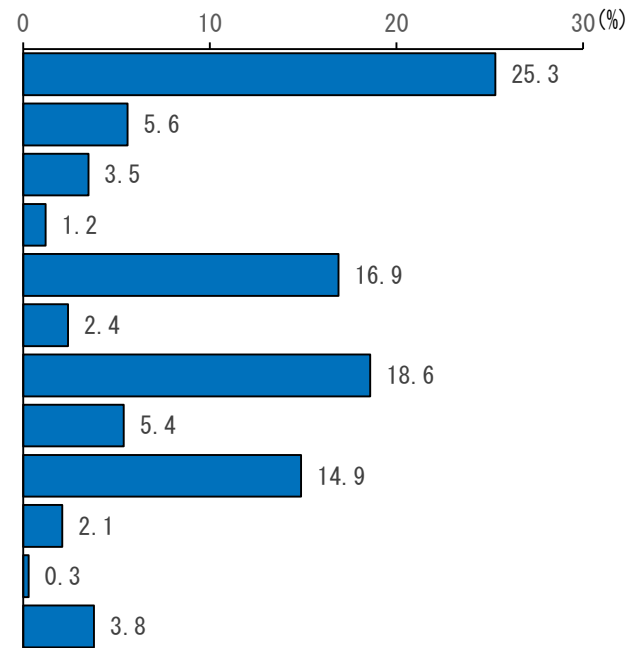
(4) 居住地区

	基数	構成比
片瀬	77	5.2%
鵜沼	217	14.6%
辻堂	196	13.2%
村岡	96	6.5%
藤沢	185	12.4%
明治	68	4.6%
善行	92	6.2%
湘南大庭	80	5.4%
六会	93	6.3%
湘南台	100	6.7%
遠藤	47	3.2%
長後	107	7.2%
御所見	43	2.9%
わからない	21	1.4%
不明	2	0.1%
無回答	63	4.2%
全 体	1487	100.0%



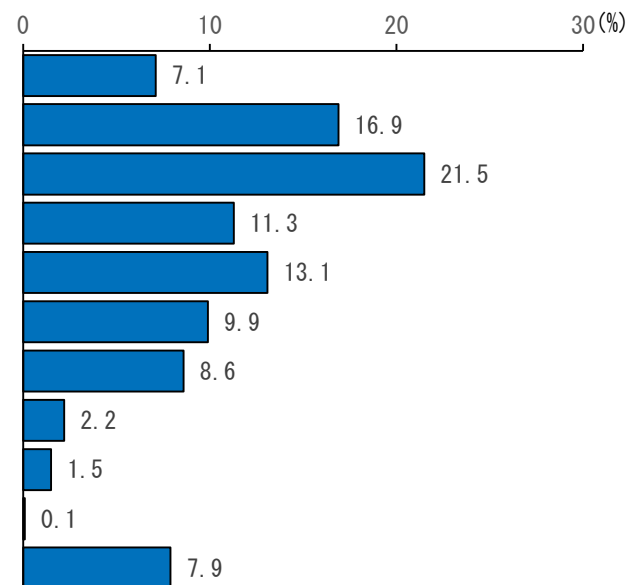
(5) 職業

	基数	構成比
会社員	376	25.3%
自営業・家族従業者	83	5.6%
公務員	52	3.5%
団体職員	18	1.2%
派遣・契約社員、パートタイム従業者、アルバイト	252	16.9%
会社役員・団体役員	36	2.4%
主婦・主夫	276	18.6%
学生	81	5.4%
無職(主婦/主夫、学生を除く)	221	14.9%
その他	31	2.1%
不明	5	0.3%
無回答	56	3.8%
全 体	1,487	100.0%



(6) 世帯全体の年間収入

	基数	構成比
150万円未満	105	7.1%
150万円以上～300万円未満	252	16.9%
300万円以上～500万円未満	319	21.5%
500万円以上～600万円未満	168	11.3%
600万円以上～800万円未満	195	13.1%
800万円以上～1,000万円未満	147	9.9%
1,000万円以上～1,500万円未満	128	8.6%
1,500万円以上～2,000万円未満	33	2.2%
2,000万円以上	22	1.5%
不明	1	0.1%
無回答	117	7.9%
全 体	1,487	100.0%

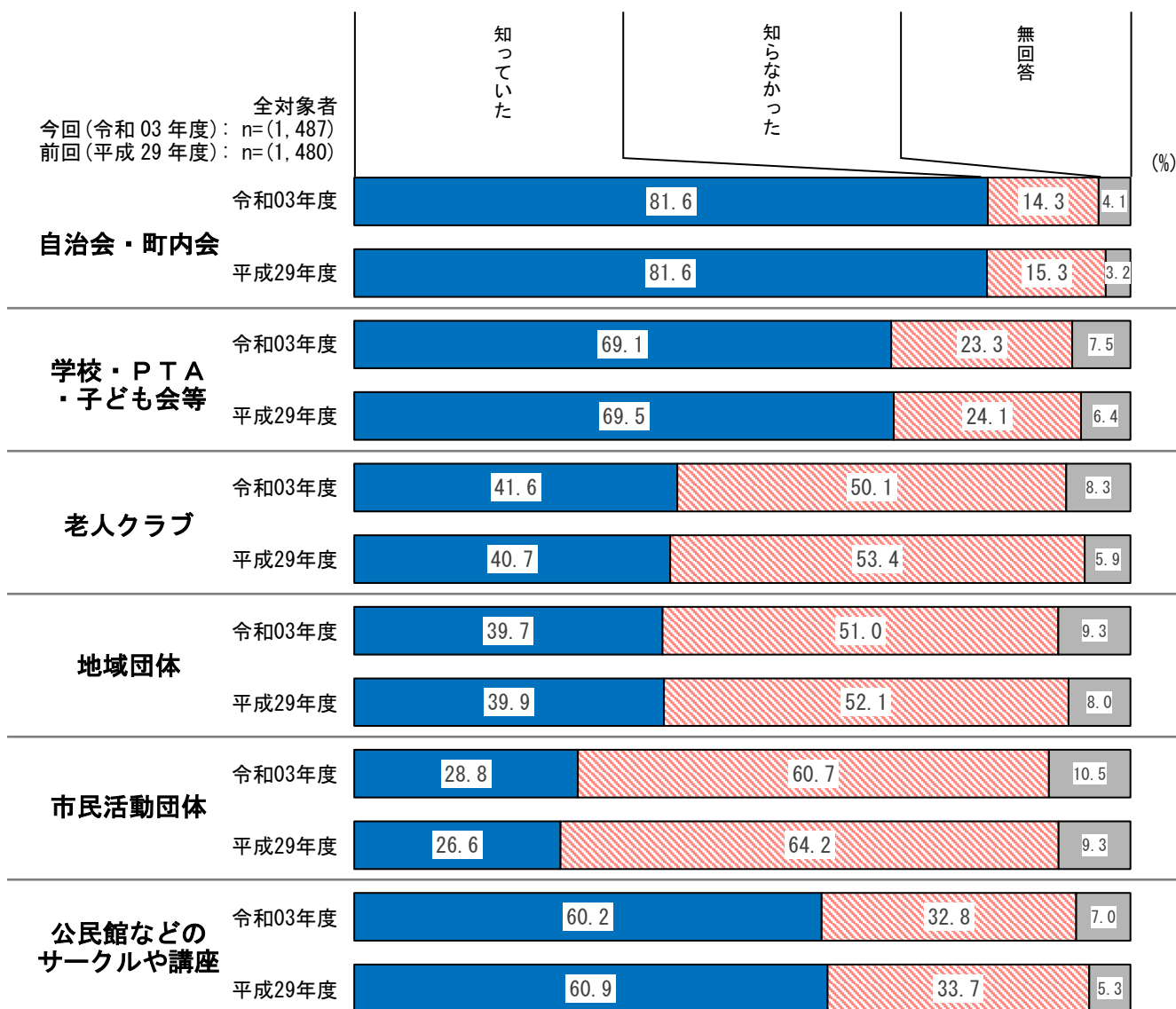


2. 地域活動について

(1) 地域活動の周知状況

問1-1 次の地域活動のうち、このアンケートが届く前からその活動の存在を知っていたかどうかをお選びください。(一つに○)

【図表1：地域活動の周知状況】

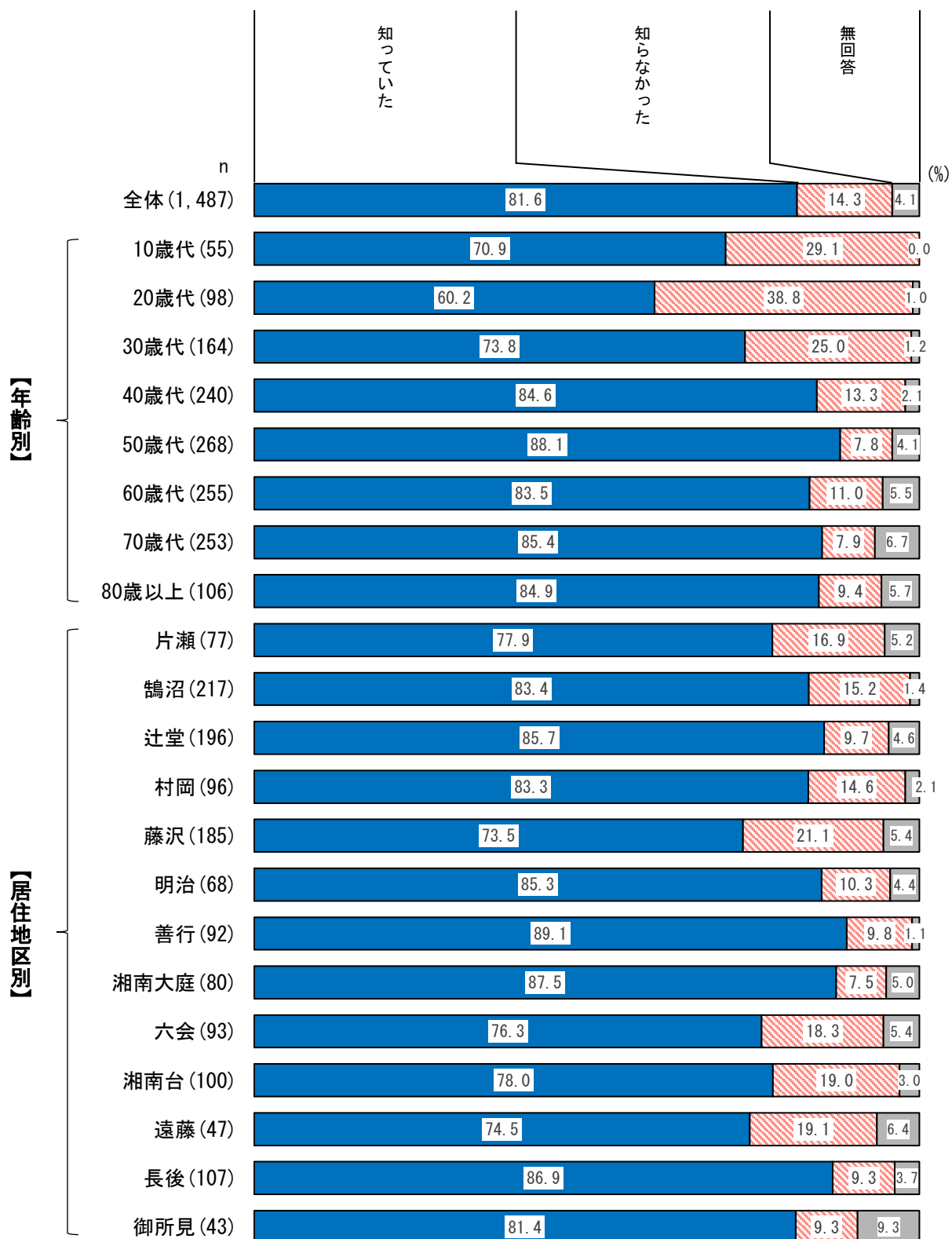


地域活動の周知状況について、「知っていた」割合は「自治会・町内会」が81.6%、次いで「学校・PTA・子ども会等」(69.1%)、「公民館などのサークルや講座」(60.2%)と、前回調査と同じ順となっている。

また、「知らなかった」の割合についても「市民活動団体」(60.7%)、「地域団体」(51.0%)、「老人クラブ」(50.1%)が前回調査に引き続き「知らなかった」の割合が5割を超えている。

前回調査(平成29年度)と比較すると、「市民活動団体」以外の地域活動については「知っていた」割合が僅かに減少、または変動無しとなり、「市民活動団体」のみ2.2ポイント高くなっている。

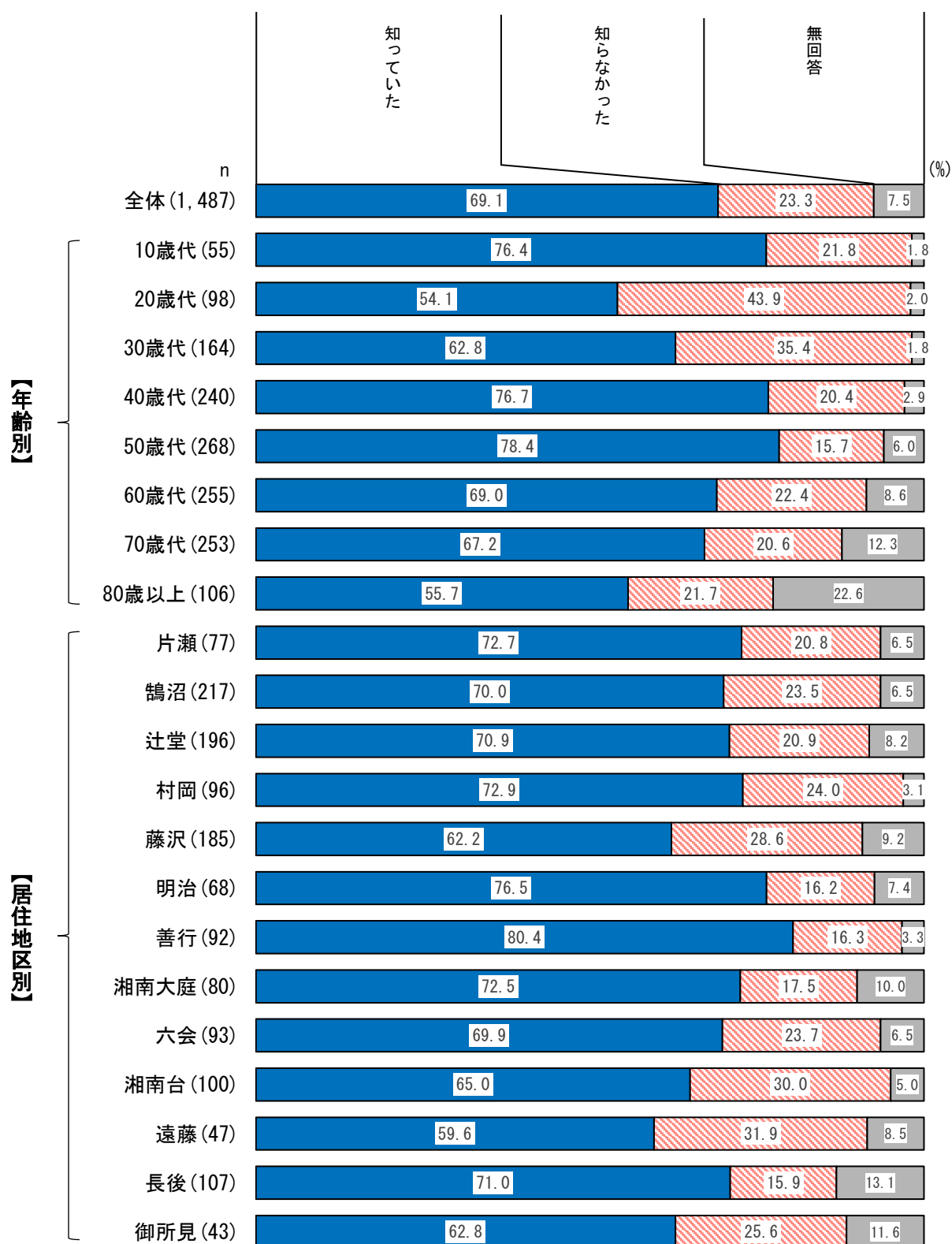
【図表2：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況①】自治会・町内会



「知っていた」の割合を年齢別にみると、おおむね年代が上がるにつれて高くなる傾向があり、50歳代が88.1%と最も高くなっている。

居住地区別では、善行（89.1%）、湘南大庭（87.5%）、長後（86.9%）、辻堂（85.7%）、明治（85.3%）などで「知っていた」割合が高くなっている。

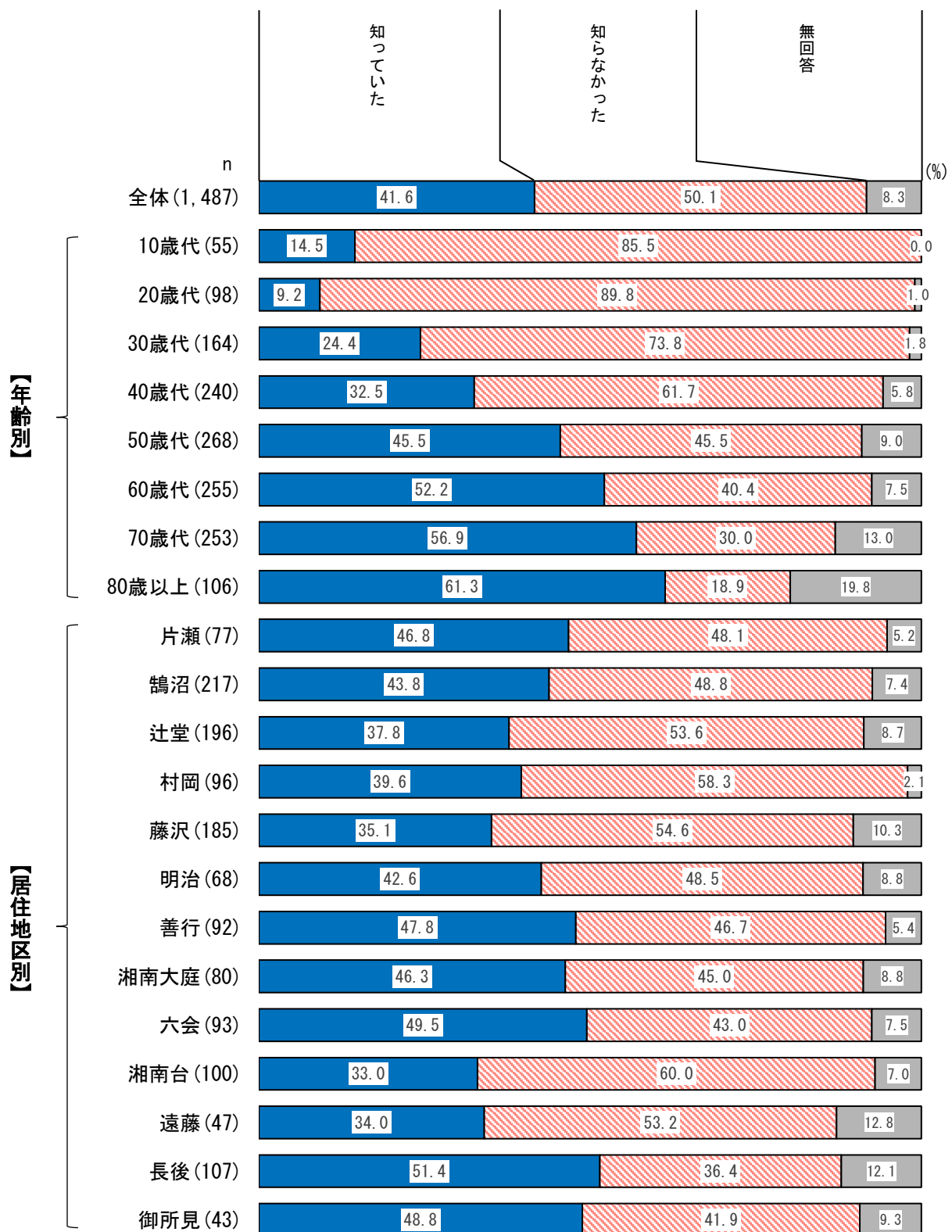
【図表3：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況②】 **学校・PTA・子ども会等**



「知っていた」の割合を年齢別にみると、50歳代（78.4%）と40歳代（76.7%）、10歳代（76.4%）が8割近く、次いで60歳代が69.0%となっている。

居住地区別では、善行（80.4%）、明治（76.5%）で「知っていた」割合が75%以上となっている。

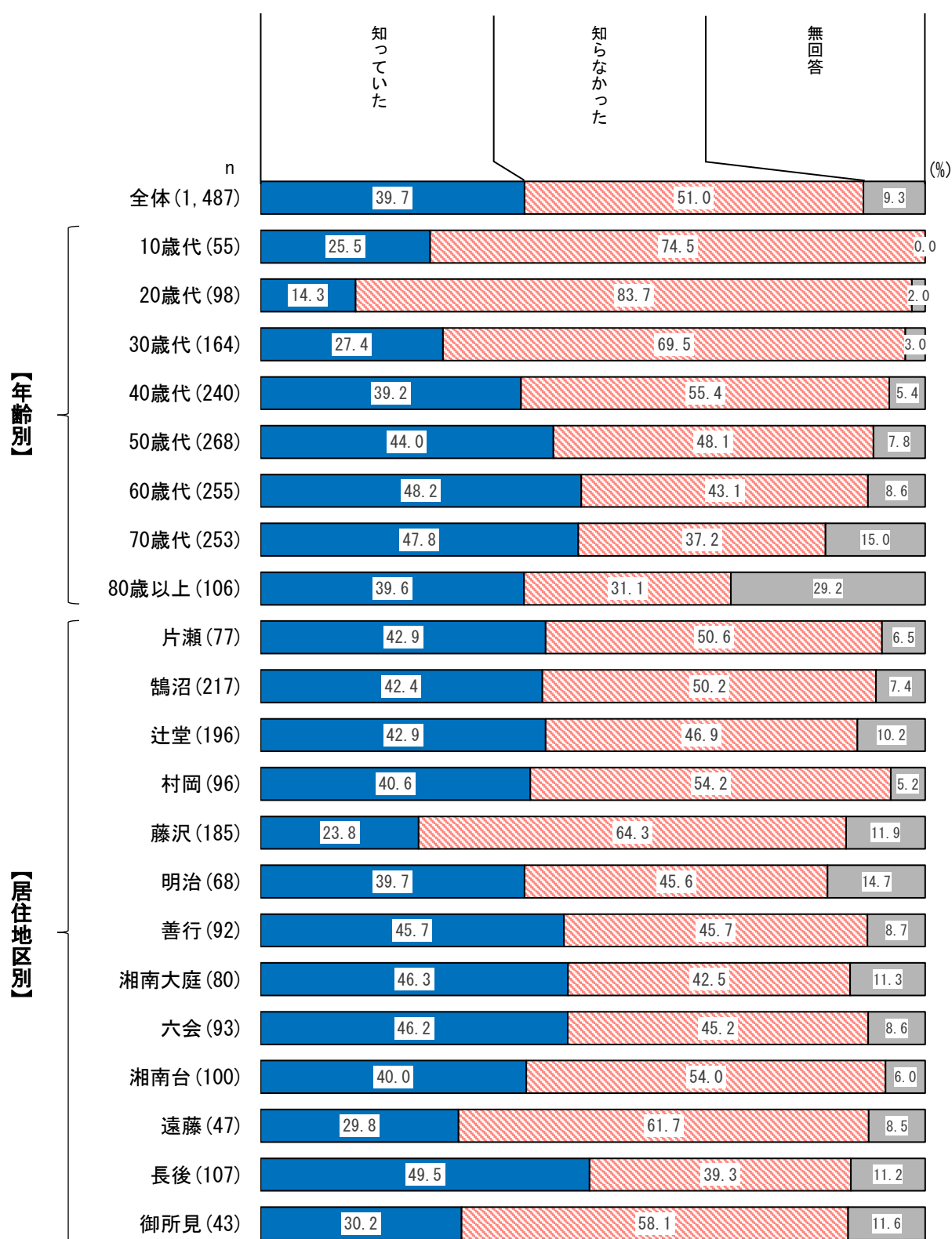
【図表4：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況③】老人クラブ



「知っていた」の割合は、年代が上がるにつれて高くなり、80歳以上で61.3%、70歳代で56.9%となっている。

居住地区別では、長後（51.4%）のみ「知っていた」割合が5割以上となっている。

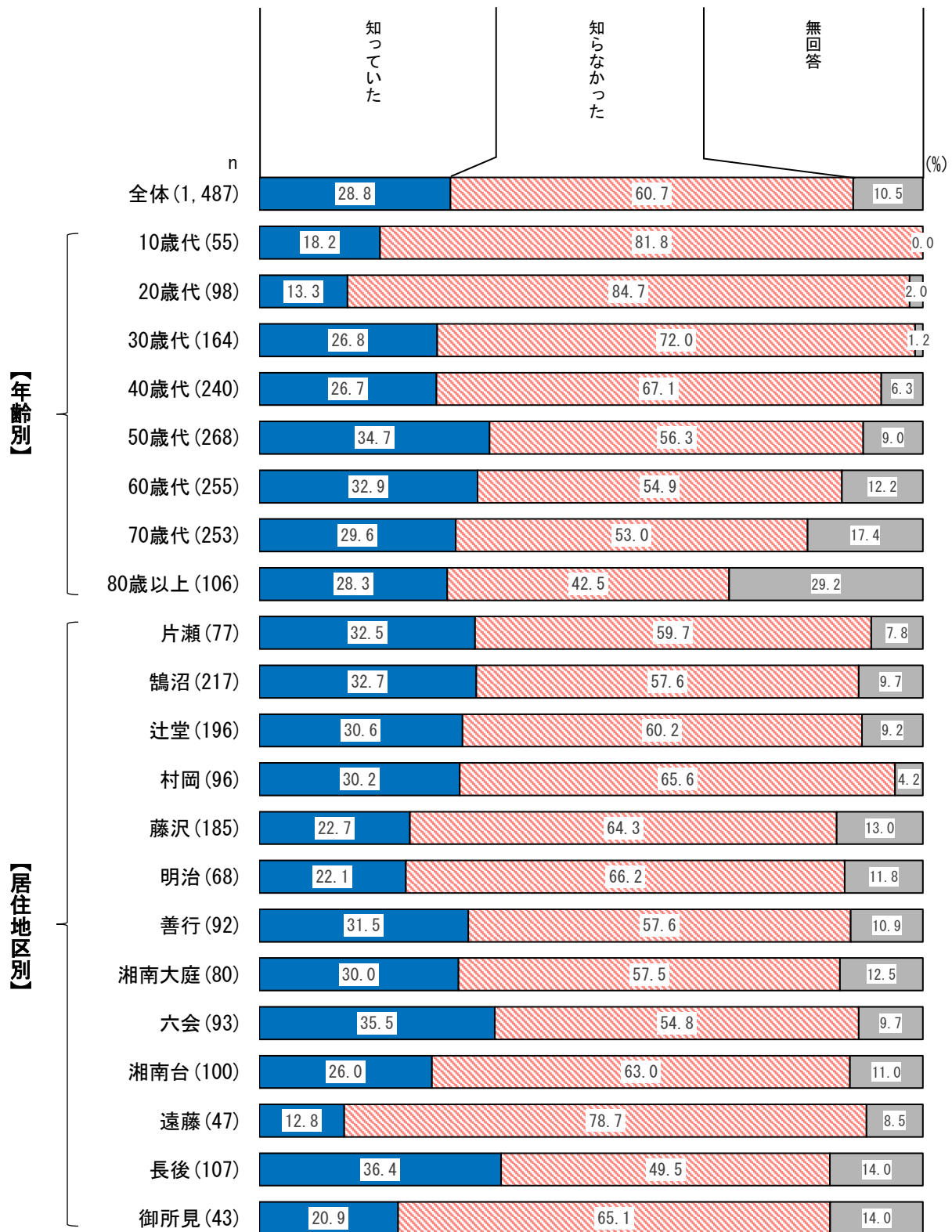
【図表5：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況④】地域団体



「知っていた」の割合を年齢別にみると、60歳代（48.2%）が5割近く、次いで、70歳代（47.8%）、50歳代（44.0%）の割合が高くなっている。

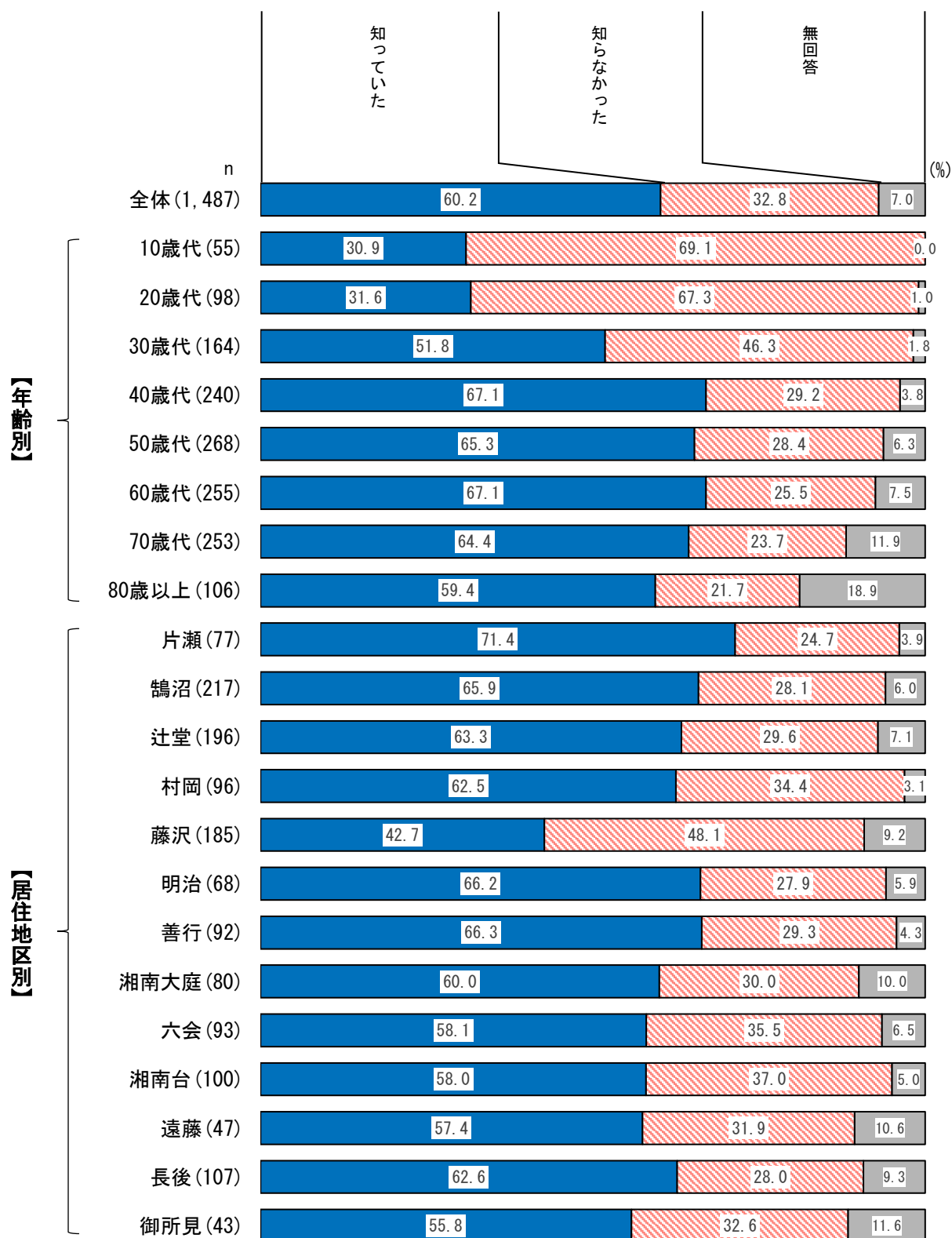
居住地区別では、長後（49.5%）で「知っていた」割合が最も多く、次いで、湘南大庭（46.3%）、六会（46.2%）、善行（45.7%）等で「知っていた」割合が高くなっている。

【図表6：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況⑤】市民活動団体（NPOを含む）



「知っていた」の割合を年齢別にみると、50歳代（34.7%）と60歳代（32.9%）で3割を超えている。居住地区別では、長後（36.4%）、六会（35.5%）、鵜沼（32.7%）の順で「知っていた」割合が高くなっている。

【図表7：年齢別・居住地区別／地域活動の周知状況⑥】 公民館などのサークルや講座



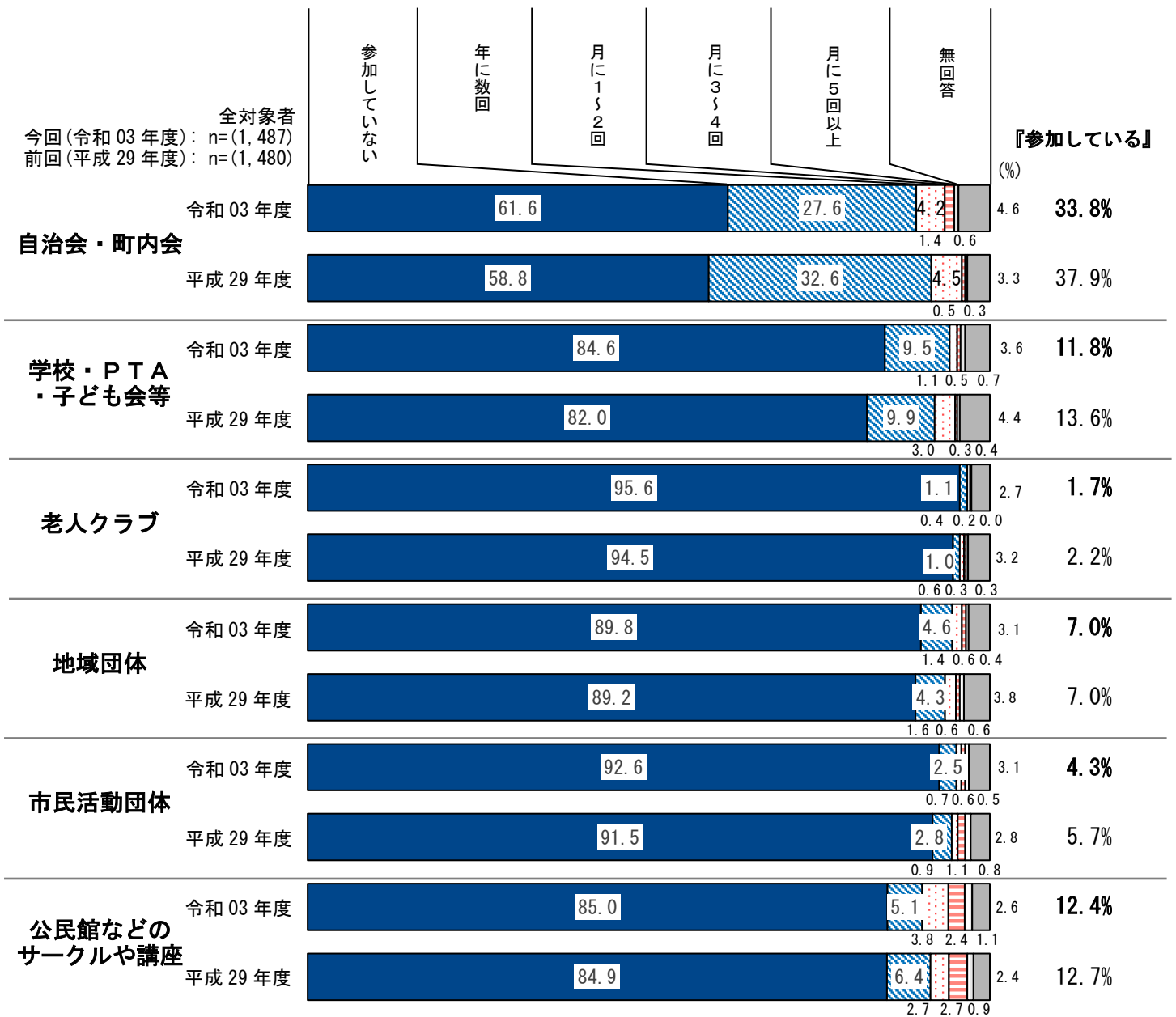
「知っていた」の割合を年齢別にみると、おおむね年代が上がるにつれて高くなる傾向ではあるが、最も「知っていた」割合が高い年齢は40歳代(67.1%)及び60歳代(67.1%)となっている。

居住地区別では、片瀬(71.4%)、善行(66.3%)、明治(66.2%)、鵜沼(65.9%)などで「知っていた」割合が高くなっている。

(2) 地域活動への参加の頻度と参加理由

問1-2 あなたの地域活動への参加の頻度をお選びください。(一つに○)
 また参加の理由についてお選びください。(あてはまるものすべてに○)

【図表8：地域活動への参加の頻度】



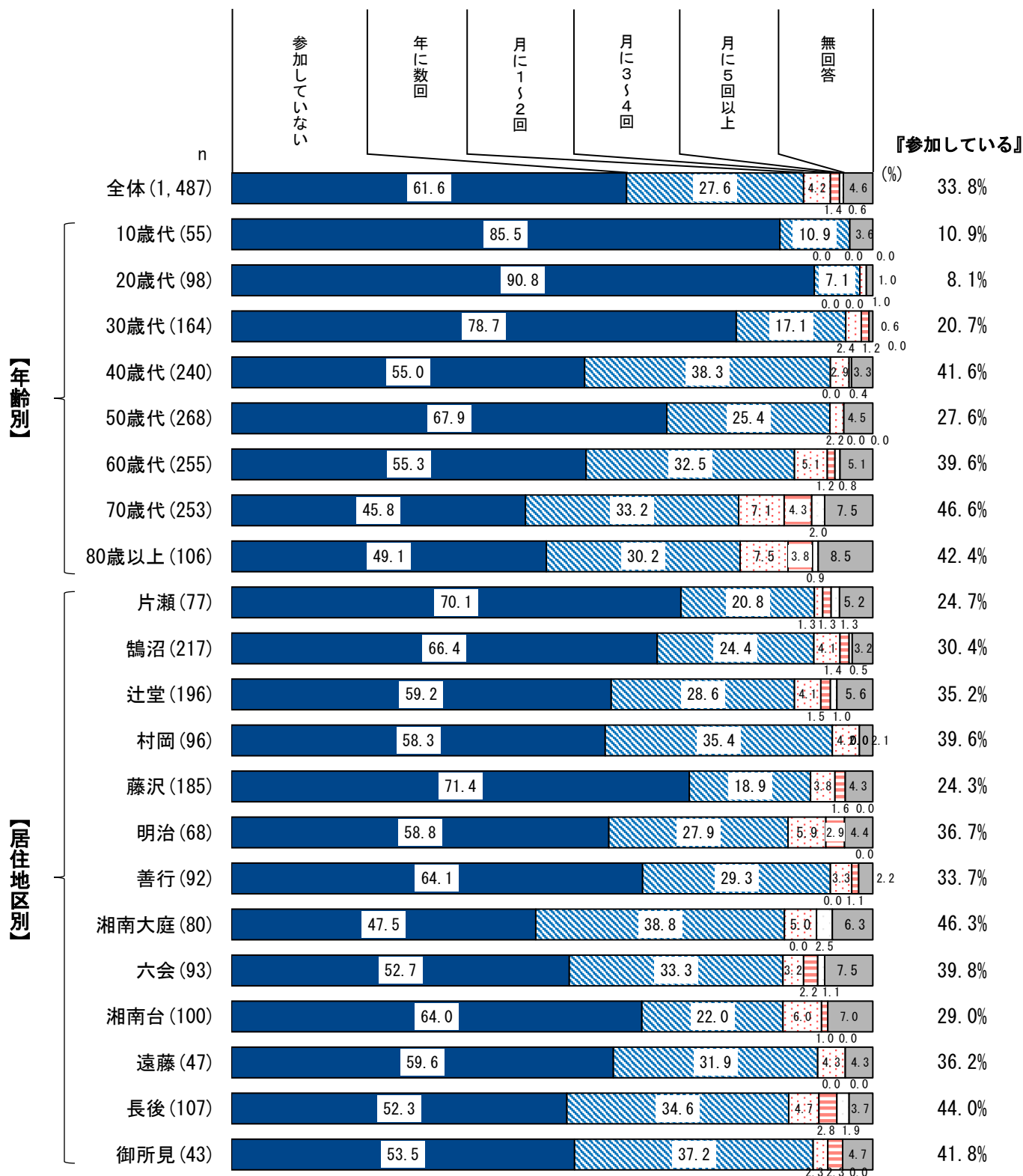
※『参加している』の数値は「年に数回」「月に1~2回」「月に3~4回」「月に5回以上」の合計値である。

地域活動への参加状況について、「月に5回以上」「月に3~4回」「月に1~2回」「年に数回」を合わせた『参加している』割合は「自治会・町内会」が33.8%で最も高いものの、「参加していない」は6割以上となり前回調査を上回っている。

それ以外の活動についても「参加していない」割合は高く、「老人クラブ」(95.6%)、次いで「市民活動団体」(92.6%)、「地域団体」(89.8%)、「公民館などのサークルや講座」(85.0%)、「学校・PTA・子ども会等」(84.6%)の順となっている。

前回調査(平成29年度)と比較し、『参加している』の割合は減少傾向である。

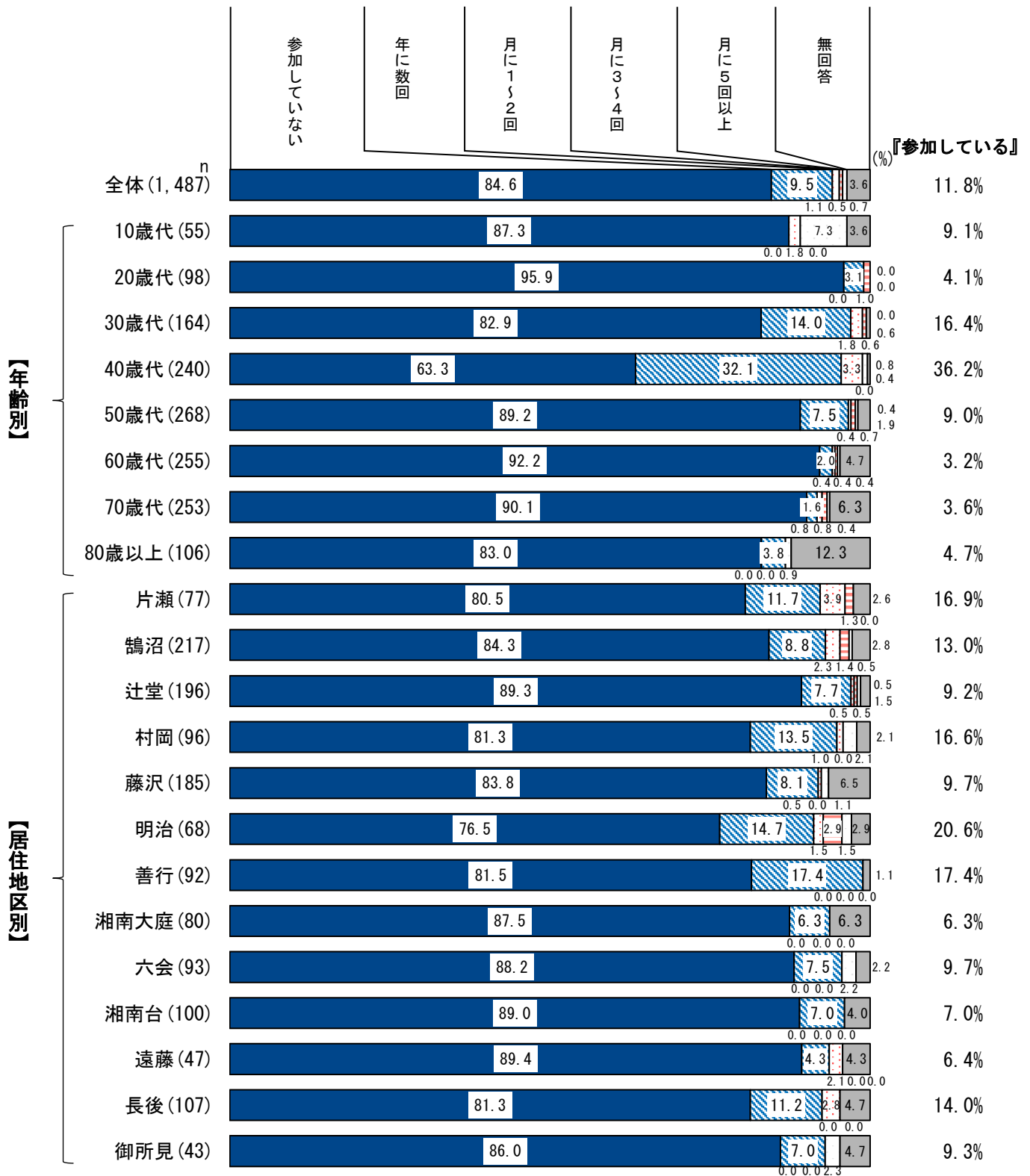
【図表9：年齢別・居住地区別／参加の頻度①】自治会・町内会



『参加している』割合を年齢別にみると、70歳代（46.6%）や80歳以上（42.4%）で割合が高くなっている。一方、「参加していない」割合は、20歳代（90.8%）や10歳代（85.5%）で高くなっている。

居住地区別に『参加している』割合をみると、湘南大庭（46.3%）、長後（44.0%）などで高い一方、「参加していない」割合は、藤沢（71.4%）や片瀬（70.1%）などで高くなっている。

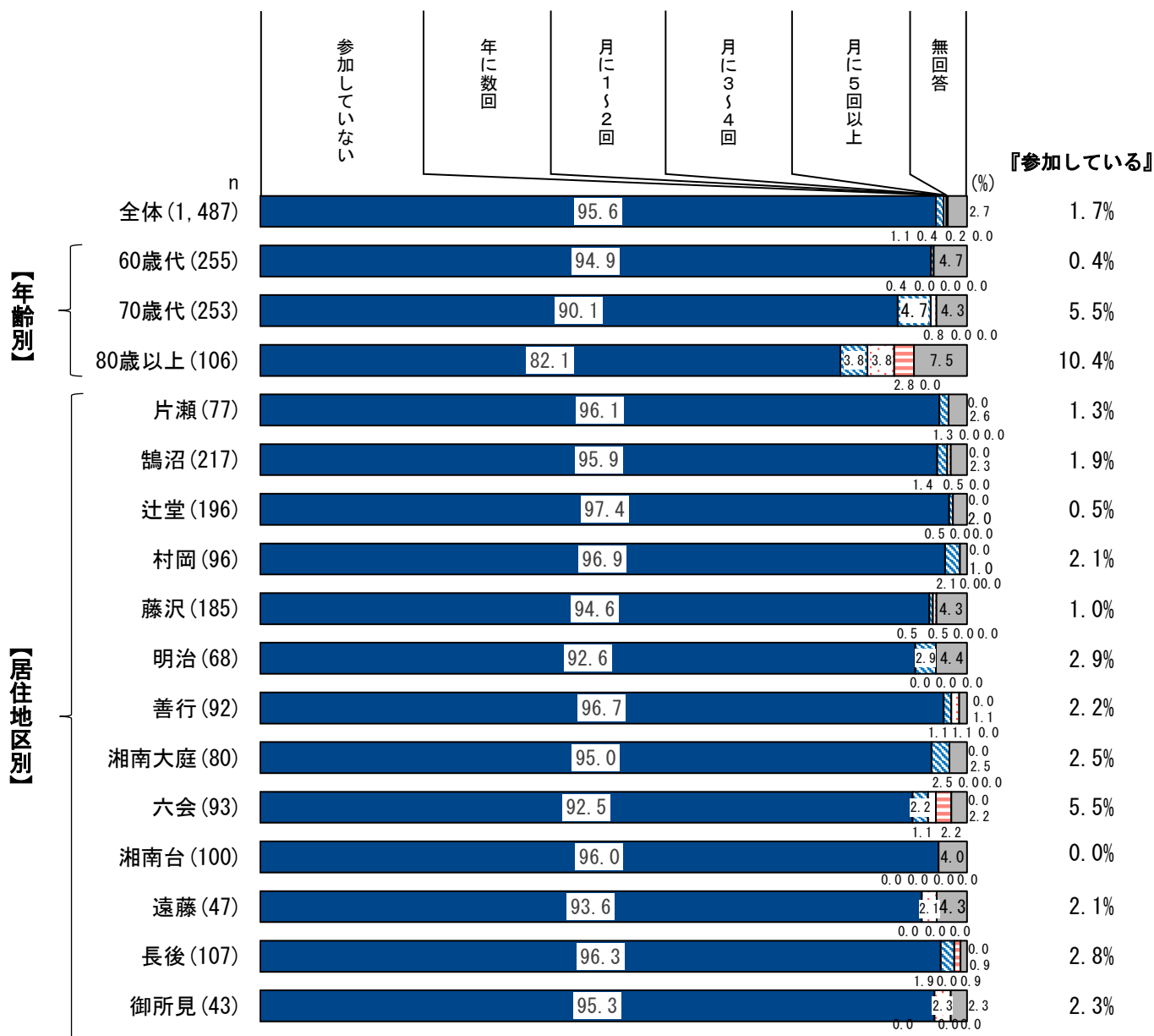
【図表10：年齢別・居住地区別／参加の頻度②】 学校・PTA・子ども会等



『参加している』割合を年齢別にみると、40歳代（36.2%）で割合が高くなっている。一方、「参加していない」割合は、20歳代（95.9%）や60歳代（92.2%）で高くなっている。

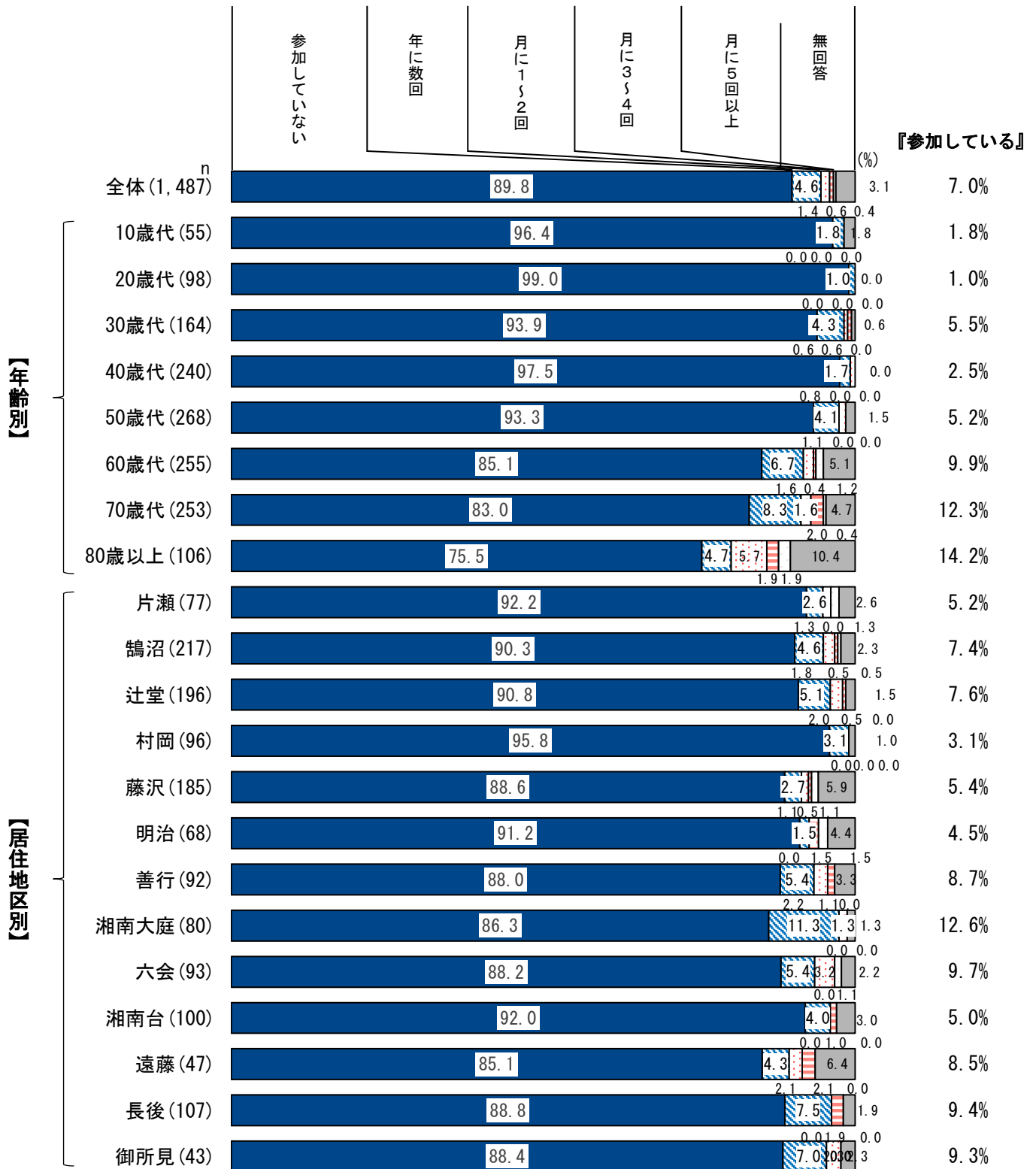
居住地区別に『参加している』割合をみると、明治（20.6%）、村岡（16.6%）などで高くなっている。

【図表 1 1 : 年齢別・居住地区別／参加の頻度③】 老人クラブ



年齢別では、80歳以上の『参加している』割合は10.4%、70歳代は5.5%、60歳代は0.4%だった。居住地区別の『参加している』割合は、六会（5.5%）が高くなっている。

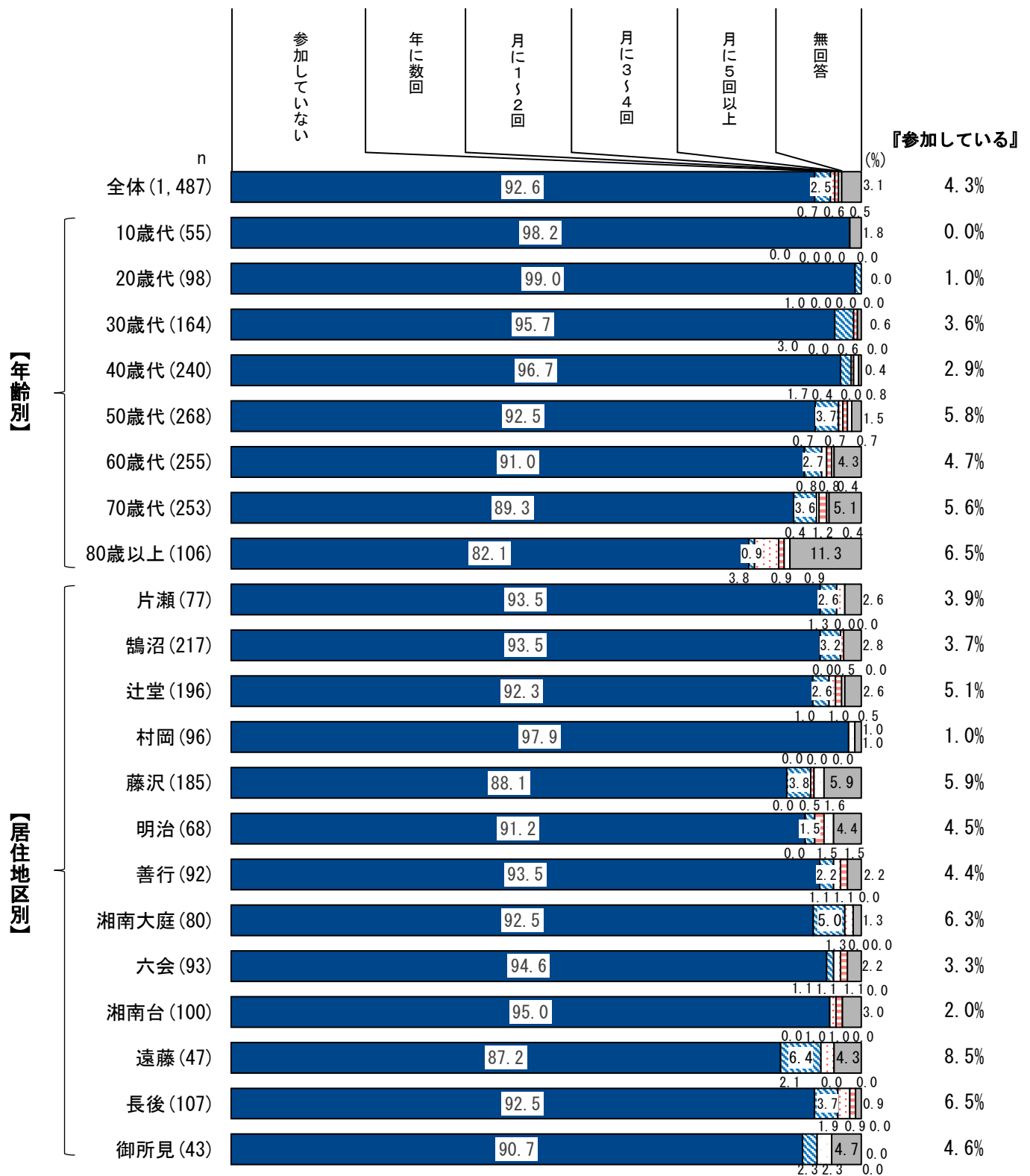
【図表12：年齢別・居住地区別／参加の頻度④】地域団体



『参加している』割合を年齢別にみると、80歳以上が14.2%と高くなっている。一方、「参加していない」割合は、20歳代が99.0%と非常に高くなっている。

居住地区別に『参加している』割合をみると、湘南大庭(12.6%)が高い一方、「参加していない」割合は、村岡(95.8%)、片瀬(92.2%)、湘南台(92.0%)などで高くなっている。

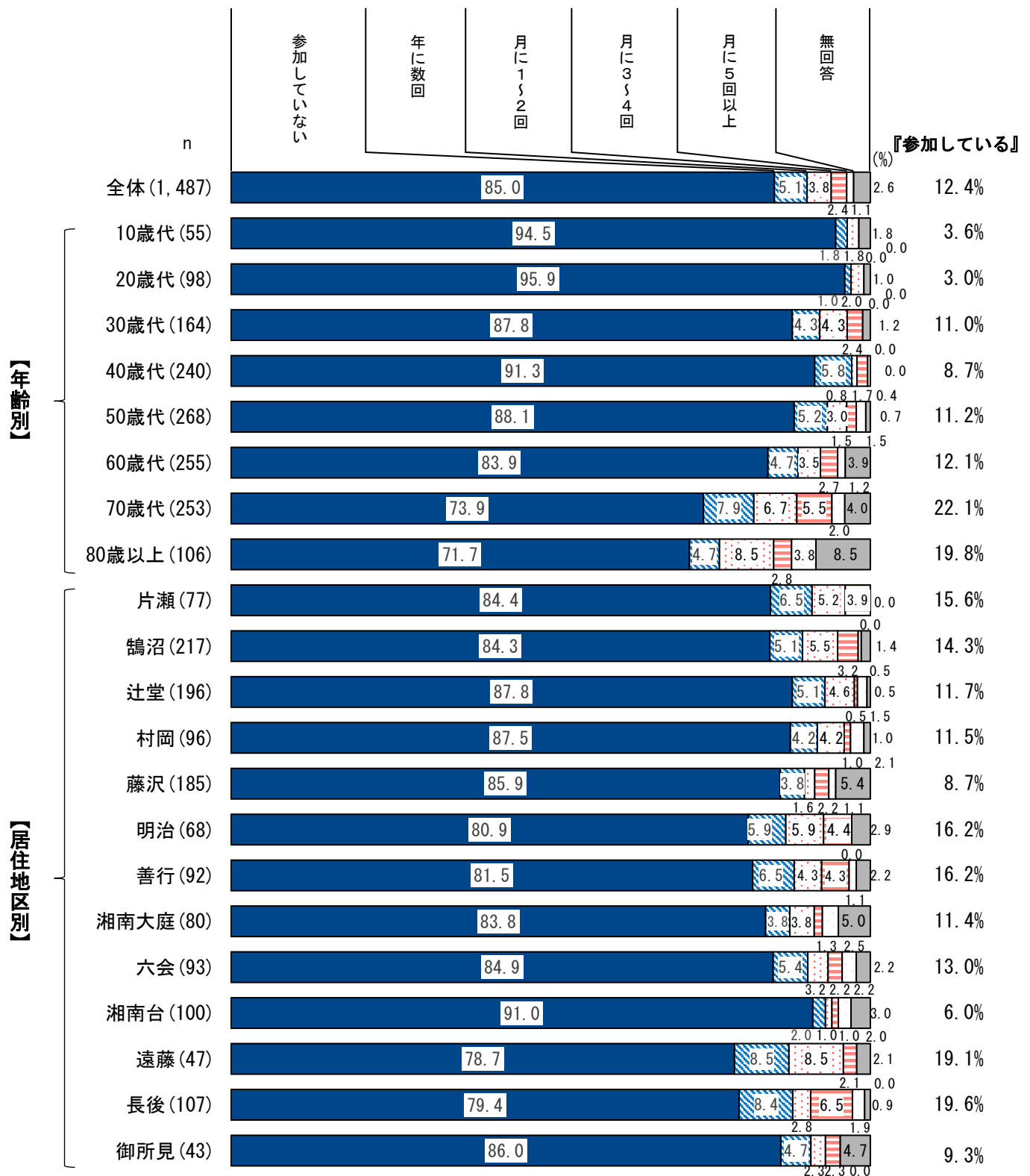
【図表13：年齢別・居住地区別／参加の頻度⑤】市民活動団体（NPO含む）



『参加している』割合を年齢別にみると、80歳以上（6.5%）や50歳代（5.8%）で割合が高くなっている。一方、「参加していない」割合は、20歳代（99.0%）、10歳代（98.2%）で高くなっている。

居住地区別に『参加している』割合をみると、遠藤（8.5%）、長後（6.5%）、湘南大庭（6.3%）などで高くなっている。

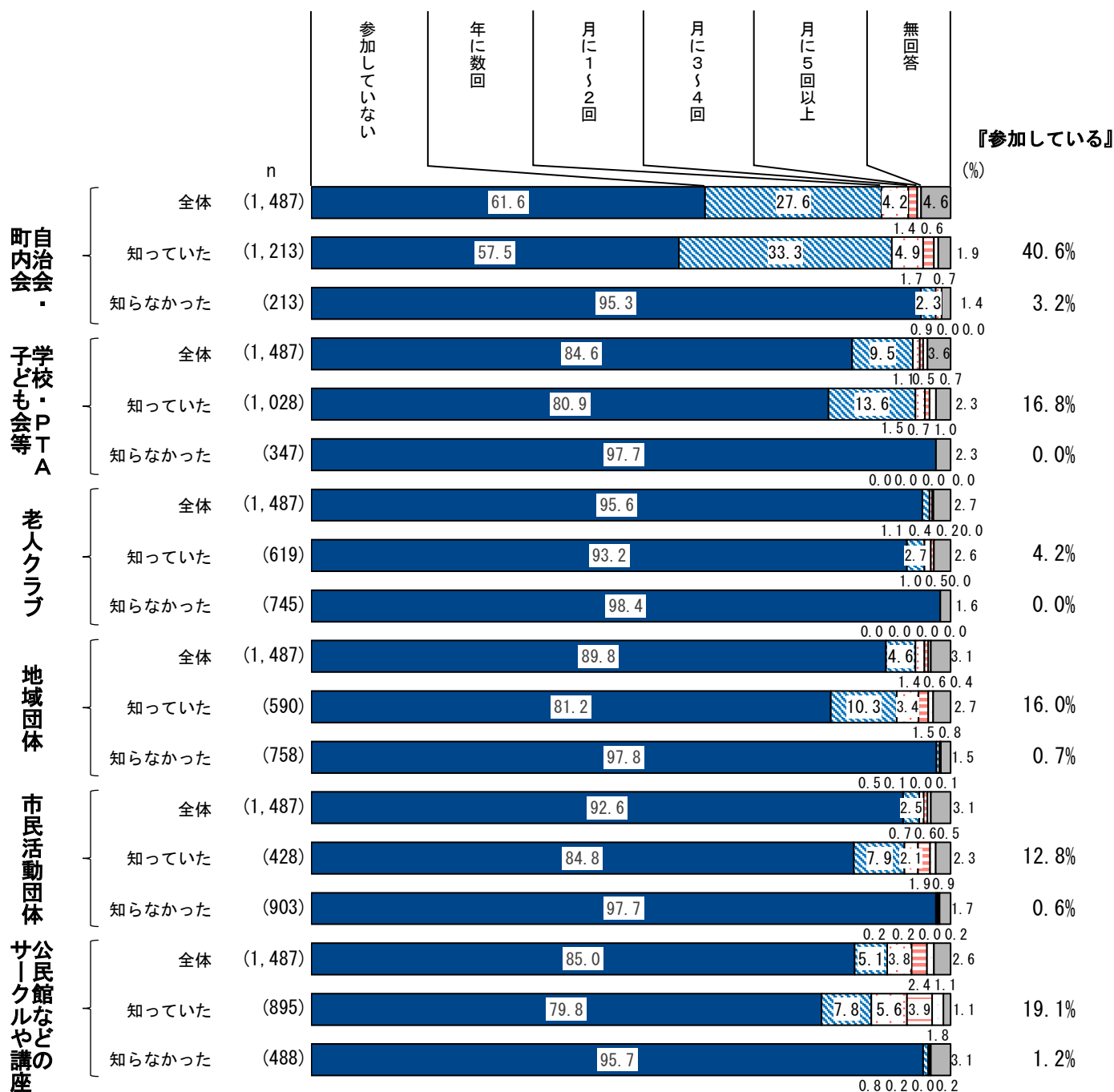
【図表14：年齢別・居住地区別／参加の頻度⑥】 公民館などのサークルや講座



『参加している』割合を年齢別にみると、70歳代（22.1%）で割合が高くなっている一方、「参加していない」割合は、20歳代（95.9%）や10歳代（94.5%）で高くなっている。

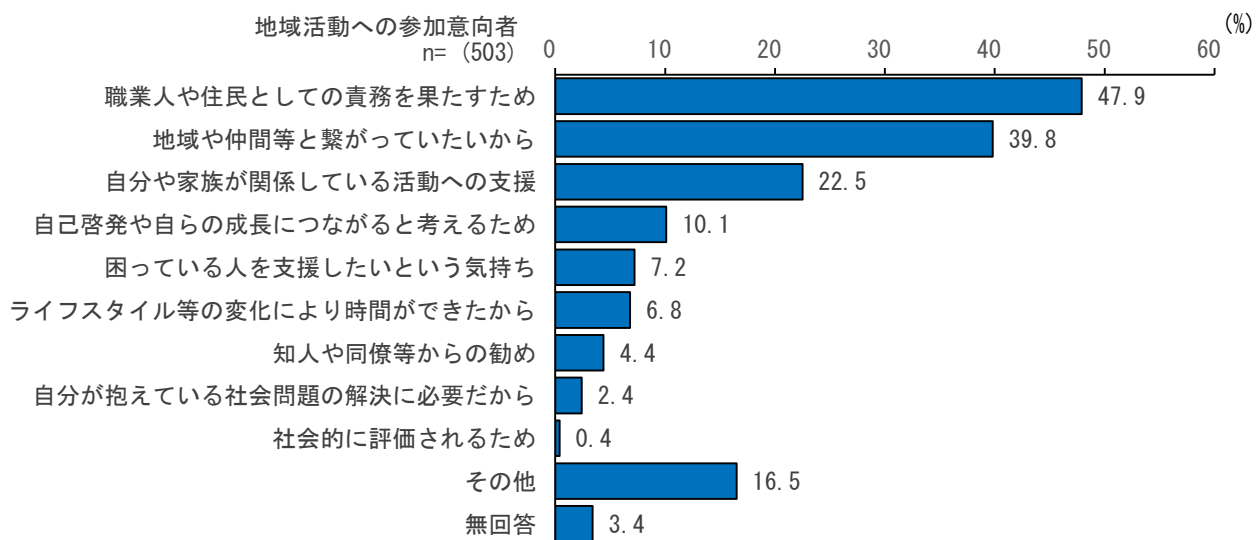
居住地区別に『参加している』割合をみると、長後（19.6%）や遠藤（19.1%）などで高い一方、「参加していない」割合は、湘南台（91.0%）や辻堂（87.8%）、村岡（87.5%）などで高くなっている。

【図表15：地域活動の認知状況別／参加の頻度】



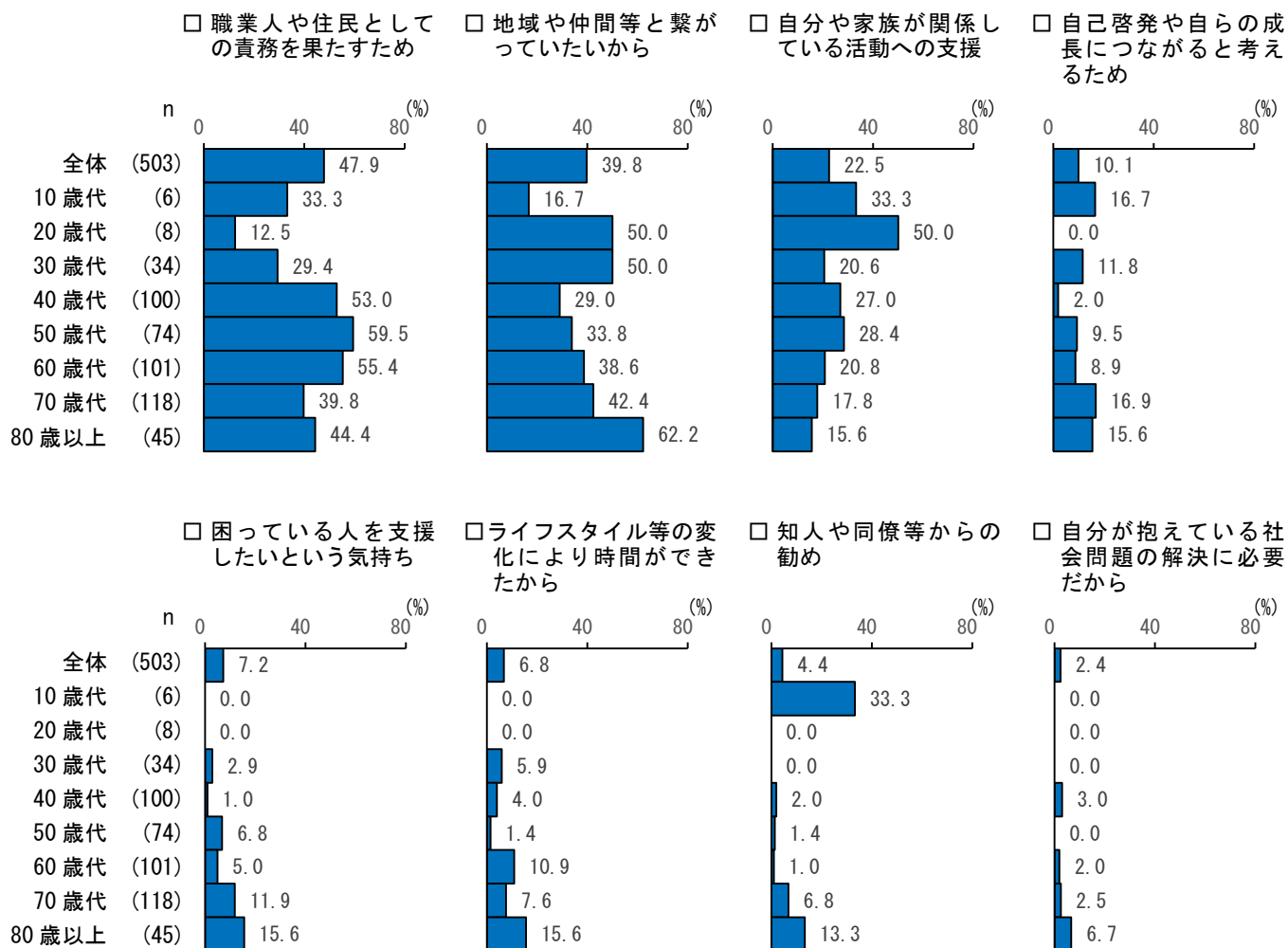
地域活動の認知状況別で見ると、「自治会・町内会」を「知っている」で『参加している』割合は40.6%、「学校・PTA・子ども会等」を「知っている」で『参加している』割合は16.8%、「老人クラブ」を「知っている」で『参加している』割合は4.2%、「地域団体」を「知っている」で『参加している』割合は16.0%、「市民活動団体（NPOを含む）」を「知っている」で『参加している』割合は12.8%、「公民館などのサークルや講座」を「知っている」で『参加している』割合は19.1%となっている。

【図表16：地域活動の参加の理由①】自治会・町内会



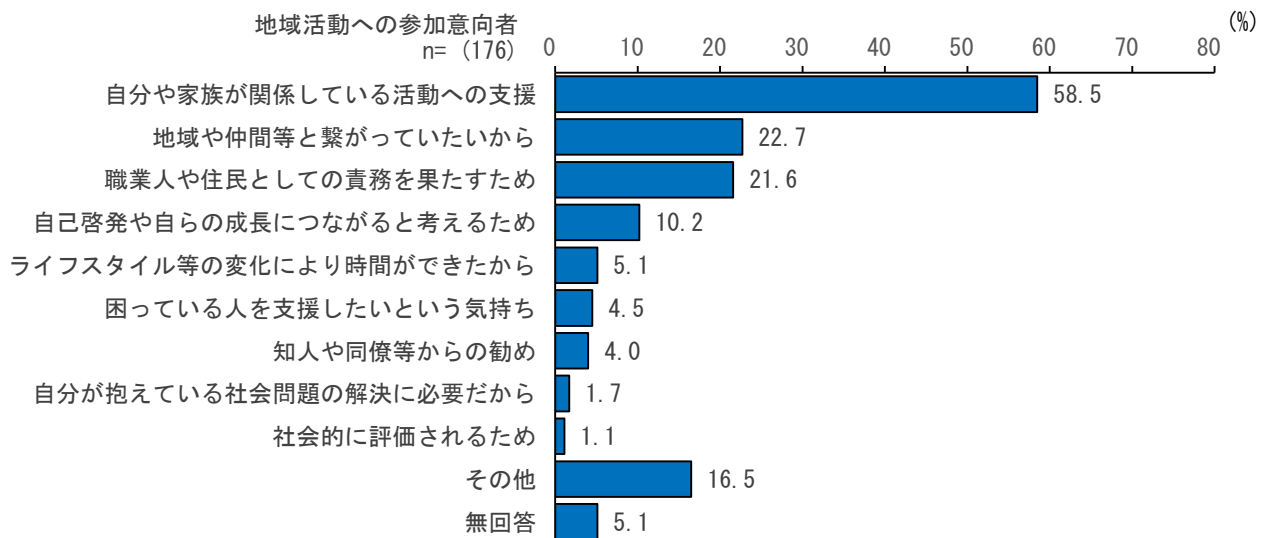
自治会・町内会への参加理由については、「職業人や住民としての責務を果たすため」が47.9%と最も高く、次いで、「地域や仲間等と繋がっていたいから」(39.8%)、「自分や家族が関係している活動への支援」(22.5%)の順となっている。

【図表17：年齢別／参加の理由①】自治会・町内会 上位8項目



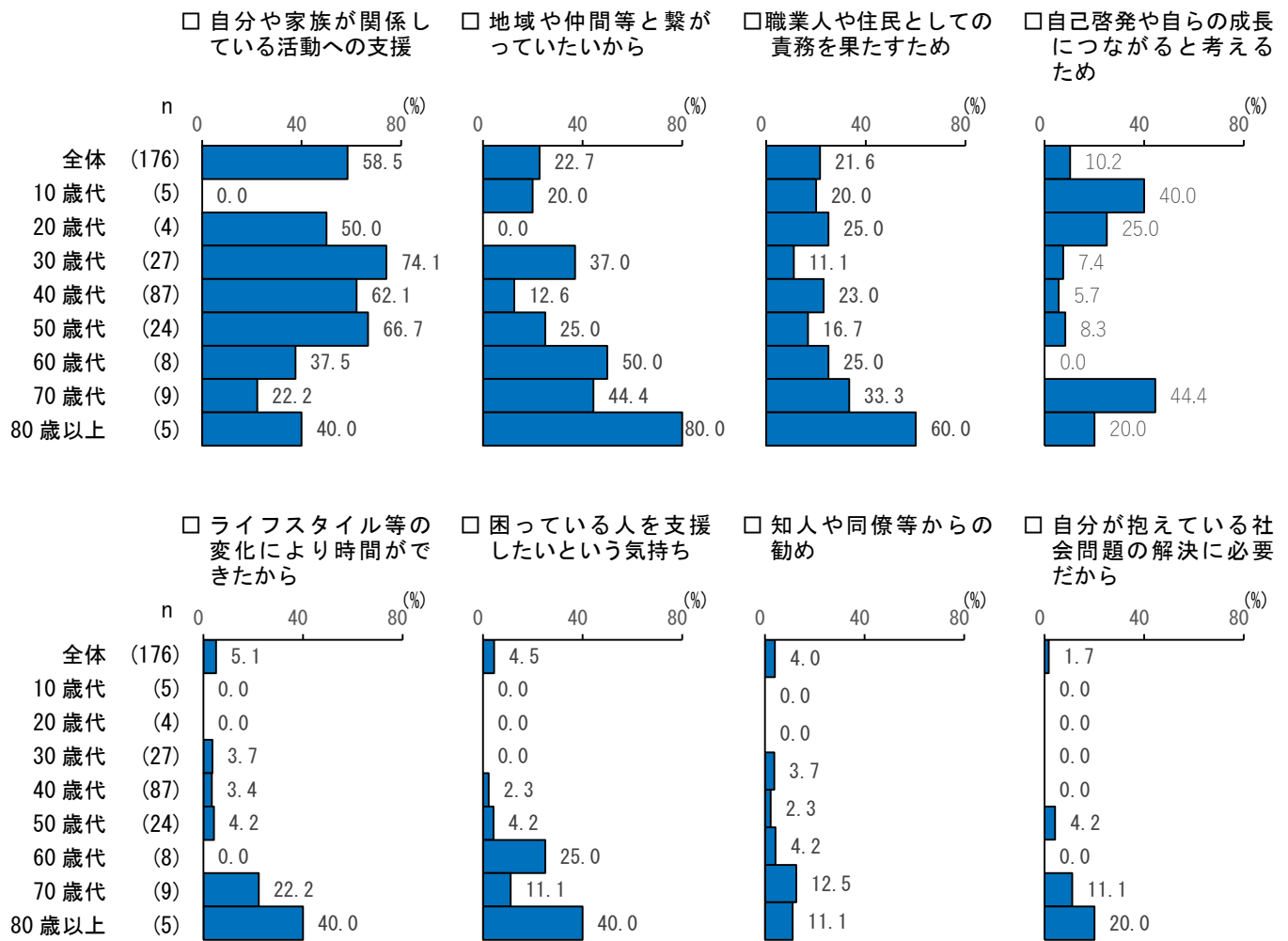
「職業人や住民としての責務を果たすため」を年齢別で見ると、50歳代が59.5%と最も高くなっている。「地域や仲間等と繋がっていたいから」は、80歳以上(62.2%)や30歳代(50.0%)が他の年代に比べて割合が高くなっている。

【図表18：地域活動の参加の理由②】 学校・PTA／子ども会等



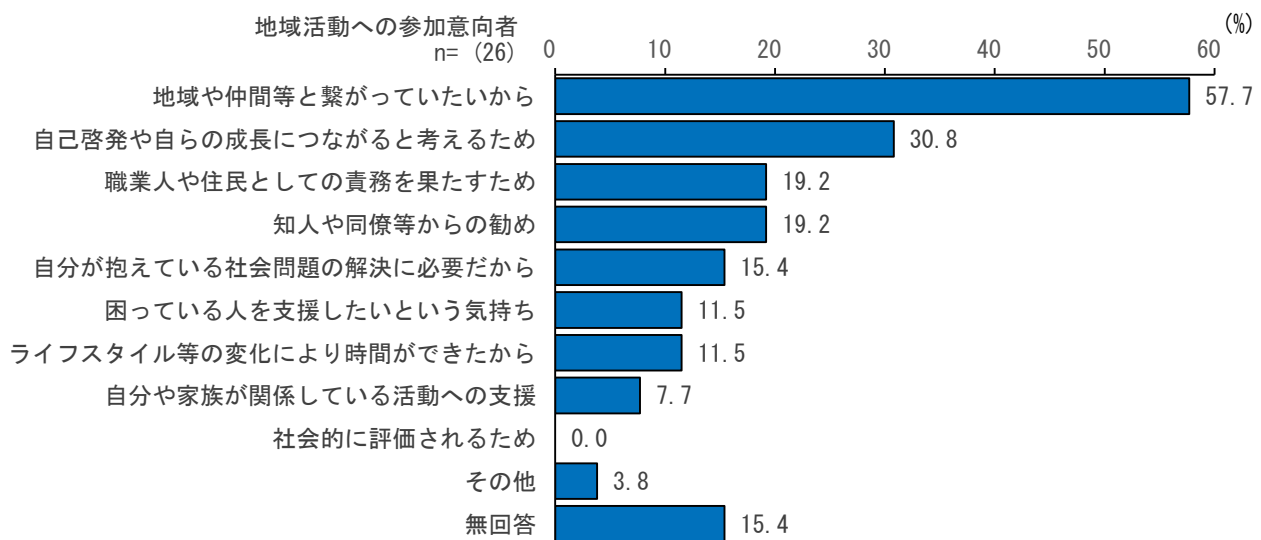
学校・PTA・子ども会等への参加理由については、「自分や家族が関係している活動への支援」が58.5%と高く、次いで、「地域や仲間等と繋がっていたいから」(22.7%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(21.6%)の順となっている。

【図表19：年齢別／参加の理由②】 **学校・PTA・子ども会等** 上位8項目



年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

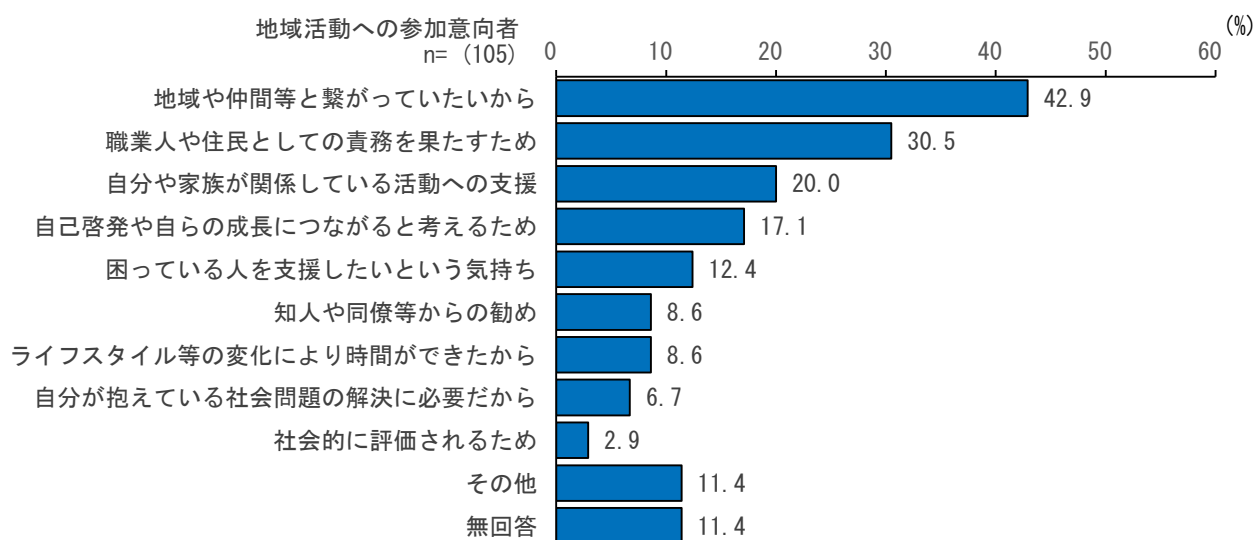
【図表20：地域活動の参加の理由③】老人クラブ



老人クラブへの参加理由については、「地域や仲間等と繋がっていたいから」が57.7%と最も高く、次いで「自己啓発や自らの成長につながるため」(30.8%)となっている。

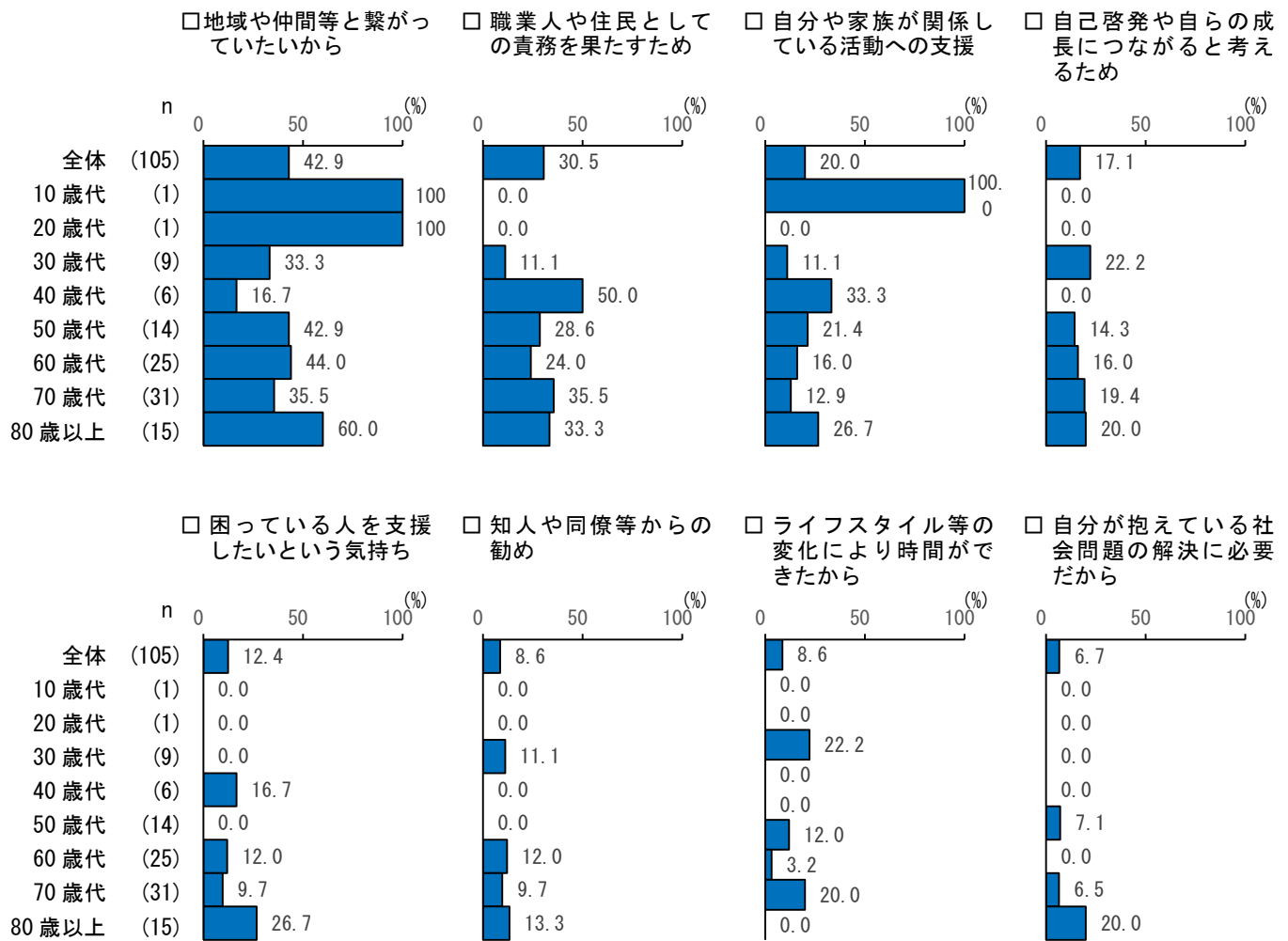
※老人クラブに関しては、加入年齢が原則として60歳以上となっているため、年齢別グラフは省略する。

【図表21：地域活動の参加の理由③】**地域団体**



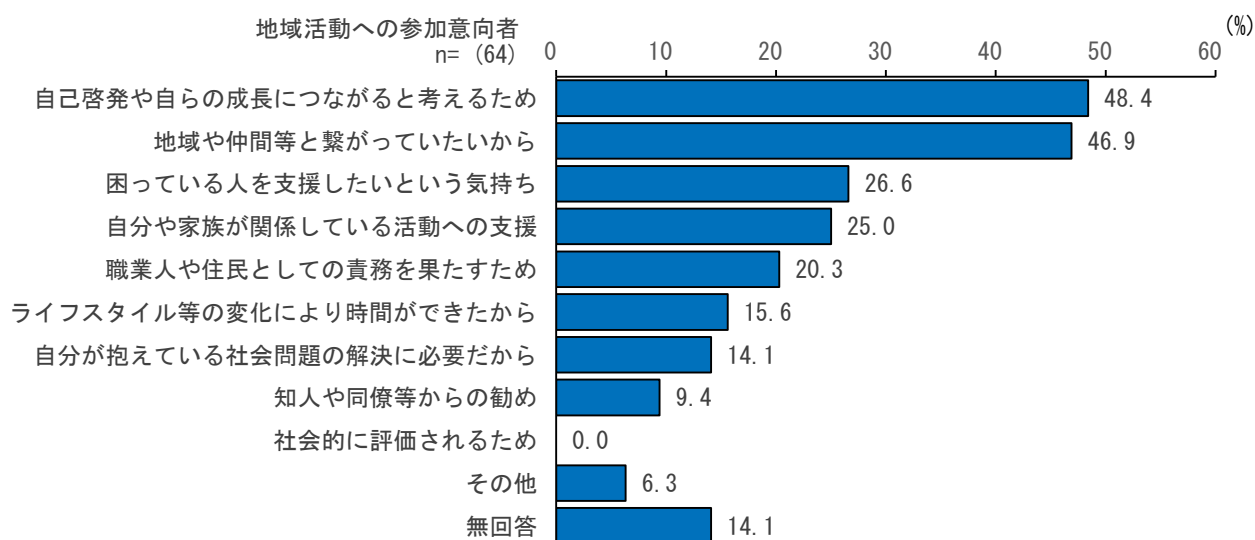
地域団体への参加理由については、「地域や仲間等と繋がってみたいから」が42.9%と最も高く、次いで、「職業人や住民としての責務を果たすため」(30.5%)、「自分や家族が関係している活動への支援」(20.0%)の順となっている。

【図表2.2：年齢別／参加の理由③】**地域団体** 上位8項目



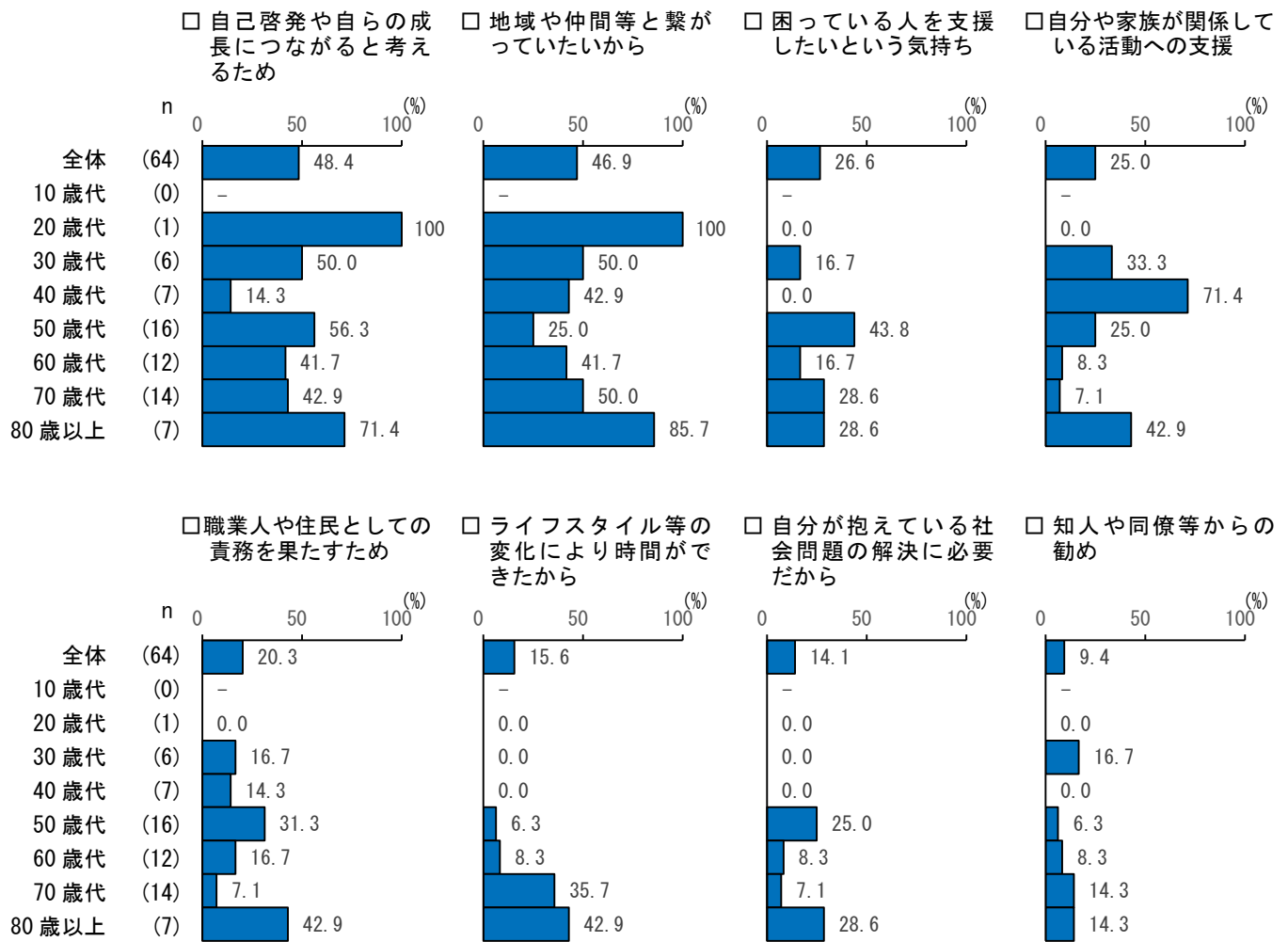
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表23：地域活動の参加の理由④】 市民活動団体（NPOを含む）



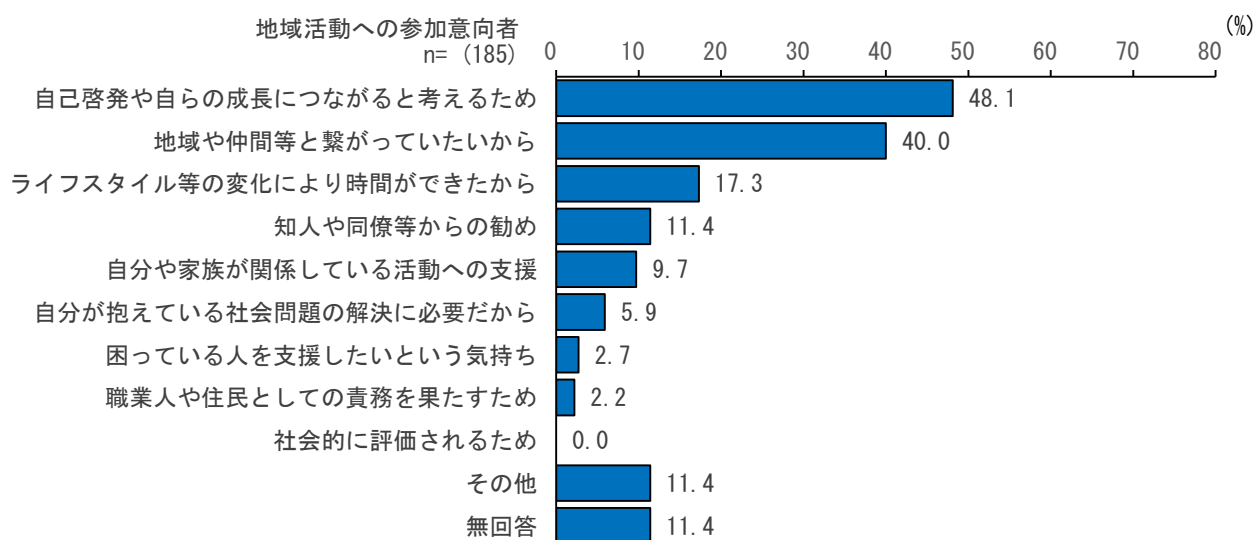
市民活動団体（NPOを含む）への参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が48.4%と最も高く、次いで、「地域や仲間等と繋がっていたいから」（46.9%）、「困っている人を支援したいという気持ち」（26.6%）の順となっている。

【図表24：年齢別／参加の理由④】市民活動団体（NPOを含む） 上位8項目



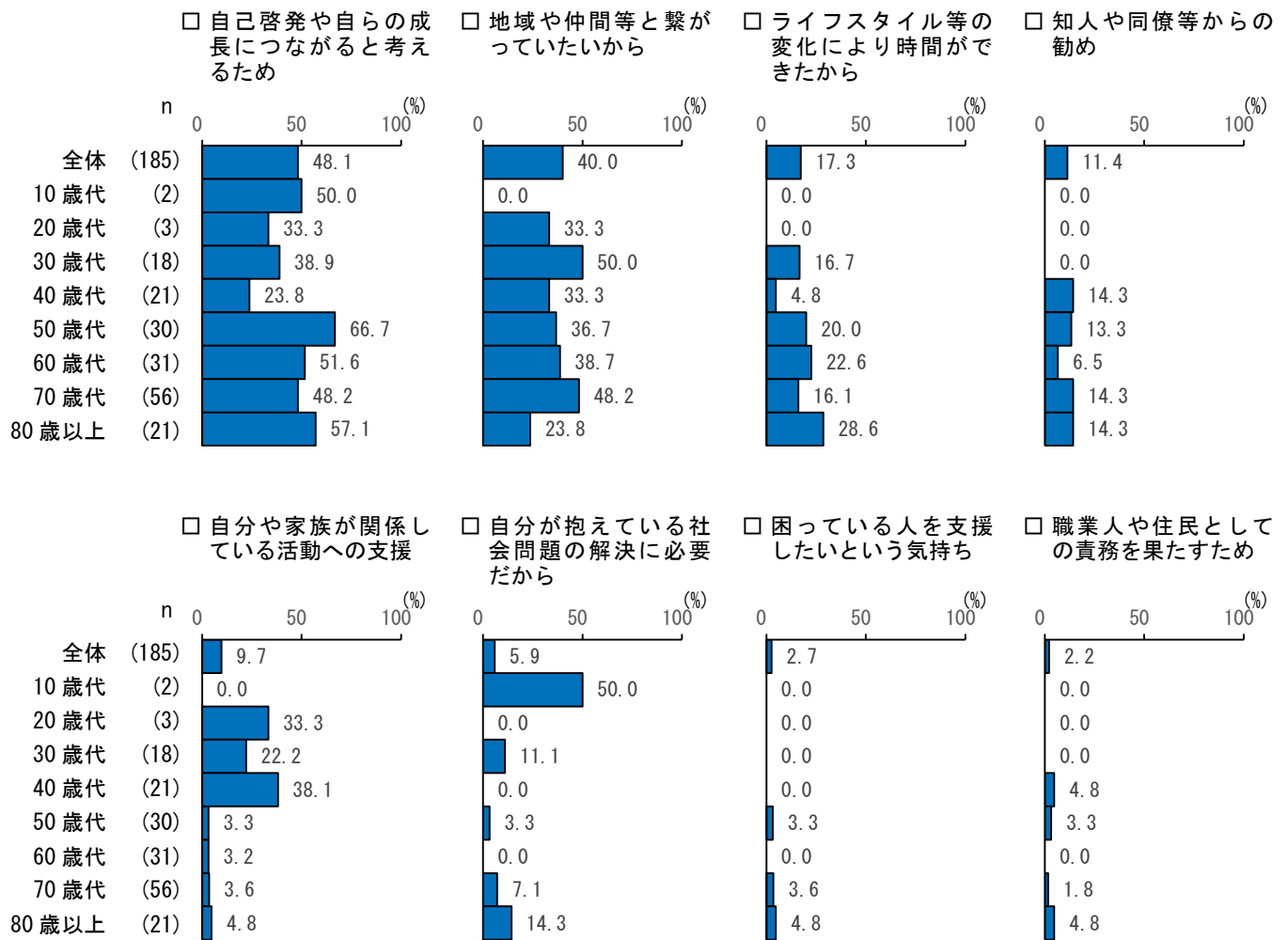
年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

【図表25：地域活動の参加の理由⑤】 公民館などのサークルや講座



公民館などのサークルや講座への参加理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が48.1%と最も高く、次いで、「地域や仲間等と繋がっていたいから」(40.0%)、「ライフスタイル等の変化により時間ができたから」(17.3%)の順となっている。

【図表26：年齢別／参加の理由⑤】市公民館などのサークルや講座 上位8項目

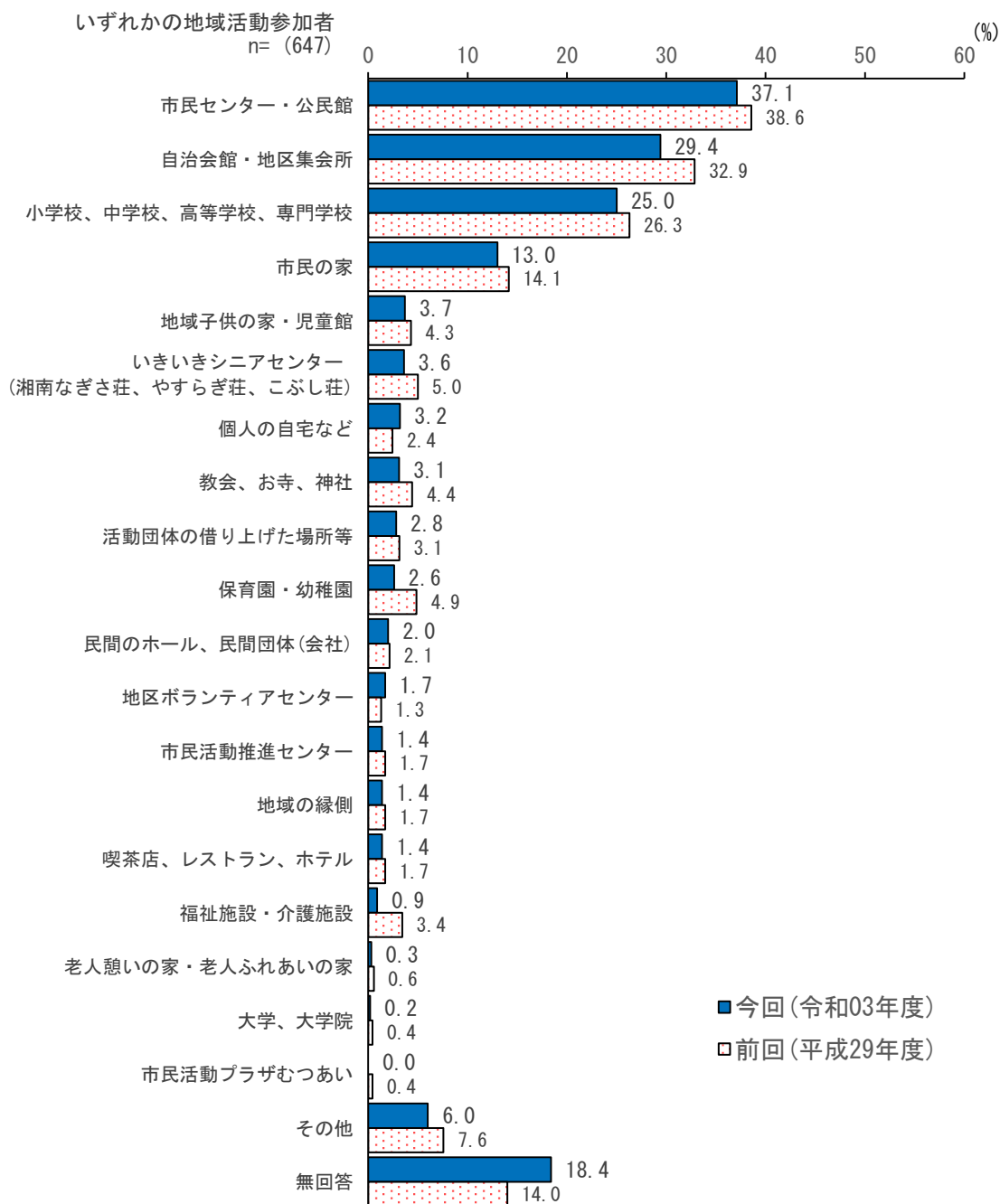


年齢別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

(3) 地域活動を行う場として利用している施設

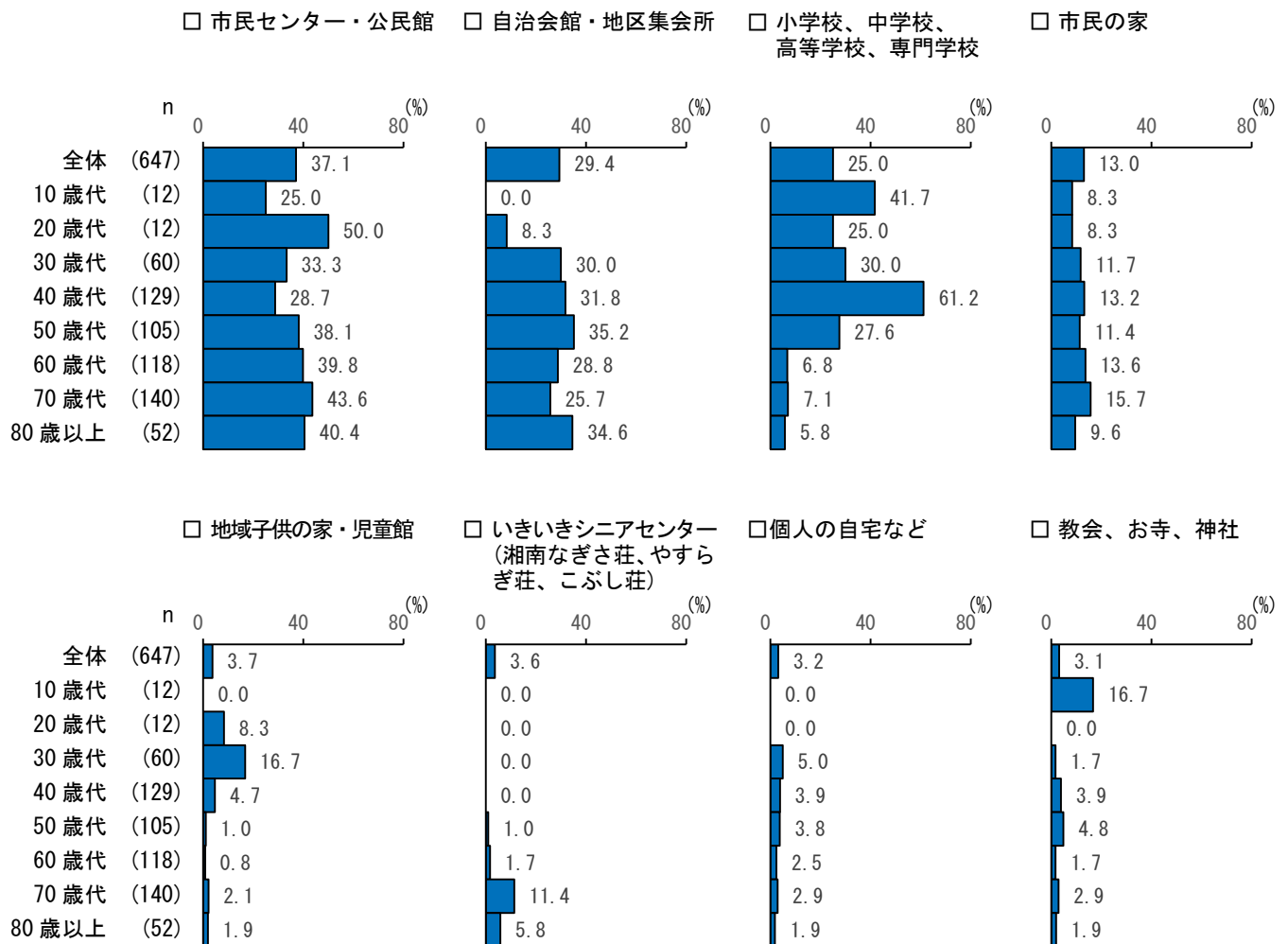
【問1-2、「①参加の頻度」で2~5に○を一つでもつけた方にお聞きします】
 問1-3 あなたが地域活動を行う場として利用している施設（場所）はどこですか。
 （あてはまるものすべてに○）

【図表27：地域活動を行う場として利用している施設】



地域活動を行う場としては、「市民センター・公民館」を利用している割合が37.1%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」(29.4%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(25.0%)、「市民の家」(13.0%)の順となっている。また、上位4項目は前回調査と変動は無いが、数値としては減少傾向にある。

【図表28：年齢別／地域活動を行う場として利用している施設】上位8項目

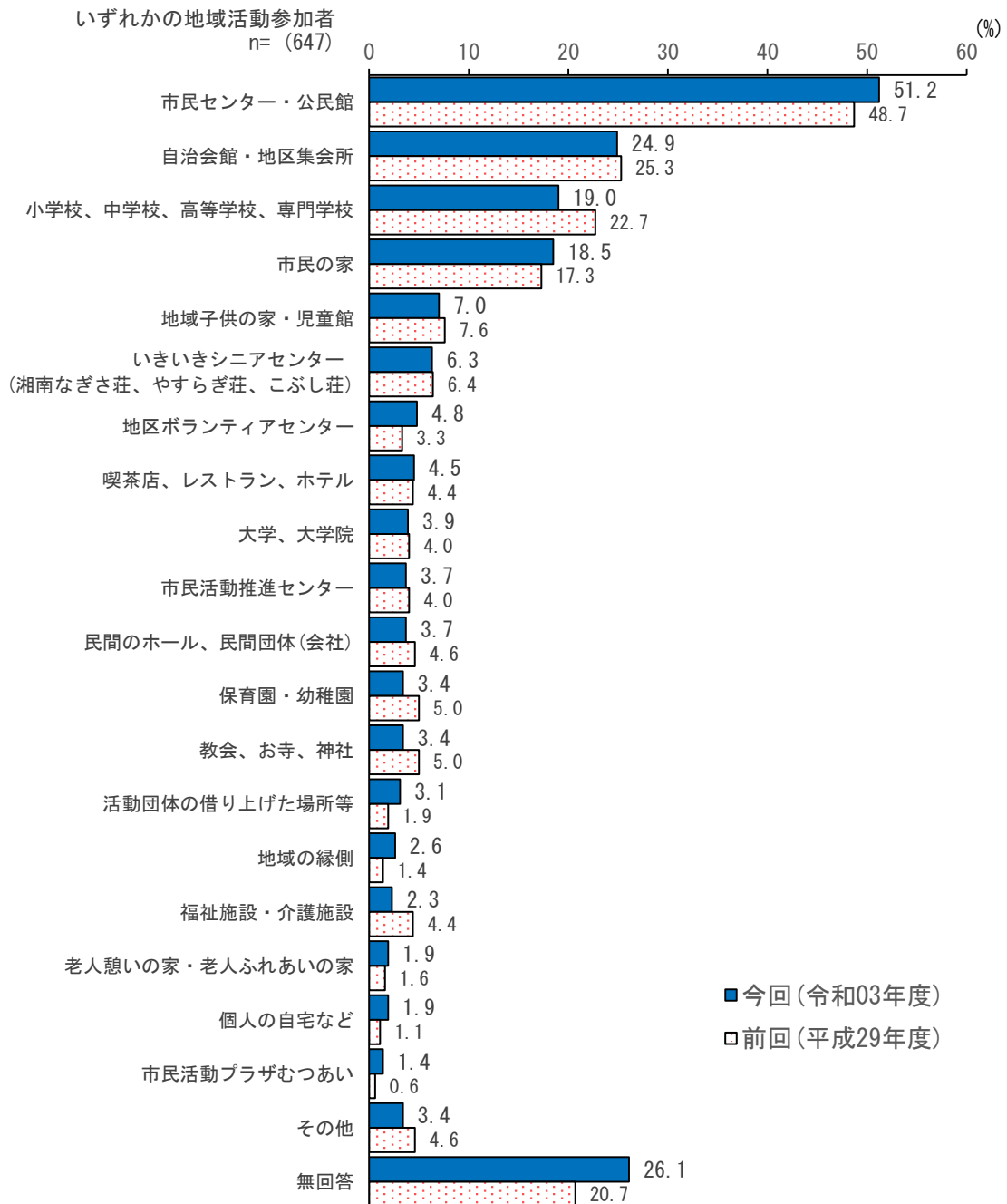


「市民センター・公民館」の利用割合を年齢別で見ると、70歳代（43.6%）や80歳以上（40.4%）が高い。「自治会館・地区集会所」は、50歳代（35.2%）や80歳以上（34.6%）、40歳代（31.8%）の割合が高く、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」は、40歳代の利用割合が61.2%と高くなっている。

(4) 地域活動を行う場として今後利用したい施設

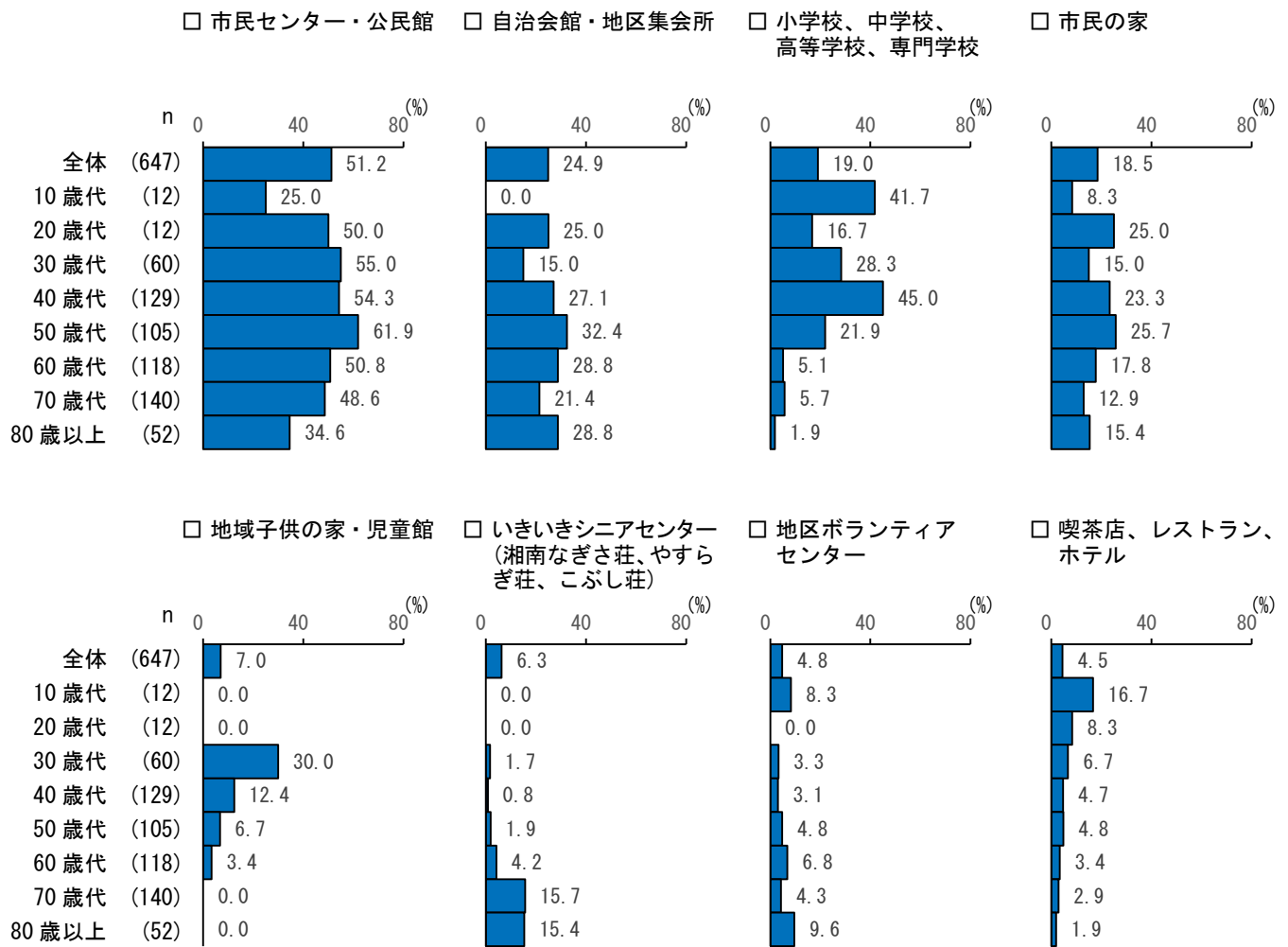
【問1-2、「①参加の頻度」で2~5に一つでも○をつけた方にお聞きします】
 問1-4 あなたが地域活動を行う場として今後利用したい施設（場所）はどこですか。
 （あてはまるものすべてに○）

【図表29：地域活動を行う場として今後利用したい施設】



地域活動を行う場として今後利用したい施設については、「市民センター・公民館」が51.2%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」(24.9%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(19.0%)、「市民の家」(18.5%)の順となっている。

【図表30：年齢別／地域活動を行う場として今後利用したい施設】上位8項目

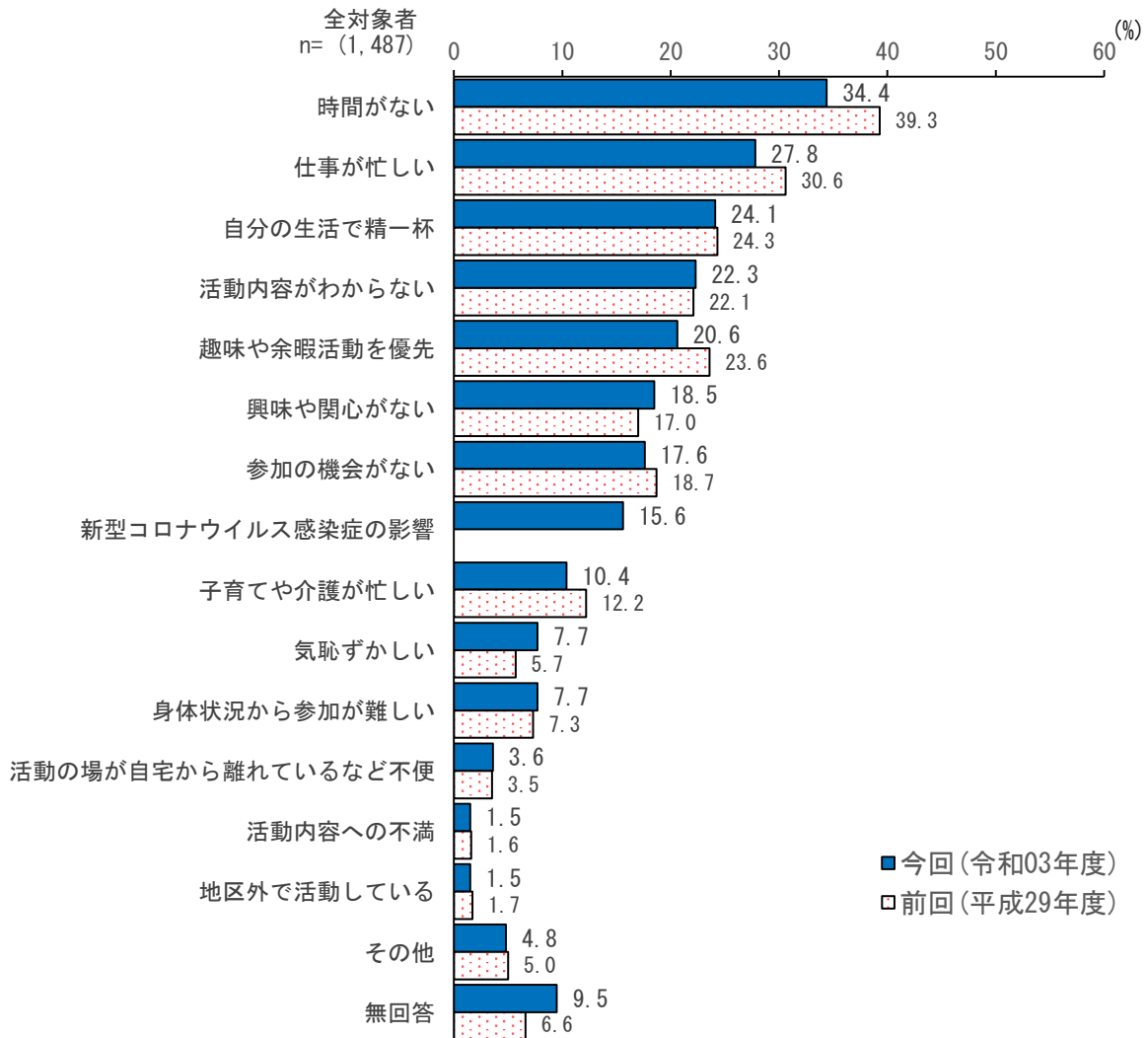


「市民センター・公民館」を年齢別でみると、50歳代（61.9%）が最も高い。「自治会館・地区集会所」は、50歳代（32.4%）の割合が最も高く、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」は、40歳代（45.0%）が高くなっている。

(5) 地域活動に参加することに妨げとなること

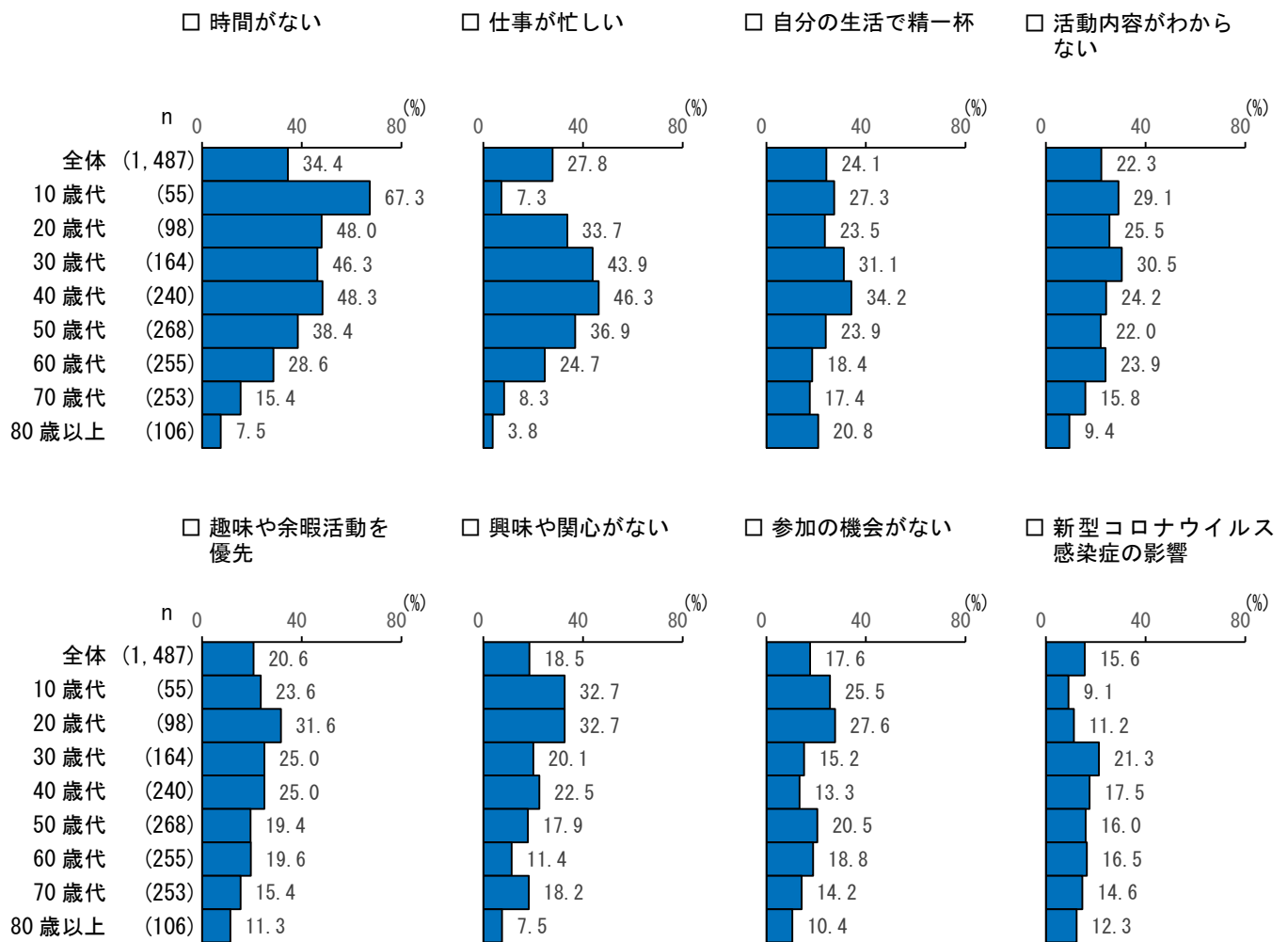
問1-5 地域活動に参加することに妨げとなることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表31：地域活動に参加することに妨げとなること】



地域活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が34.4%と最も高く、次いで「仕事が忙しい」(27.8%)、「自分の生活で精一杯」(24.1%)、「活動内容がわからない」(22.3%)、「趣味や余暇活動を優先」(20.6%)の順となっている。

【図表32：年齢別／地域活動に参加することに妨げとなること】上位8項目



「時間がない」では10歳代が67.3%と最も高く、20歳代～40歳代までは5割近くとなっている。「仕事が忙しい」は、40歳代が46.3%で最も高いが、30歳代(43.9%)も同程度となっている。「自分の生活で精一杯」については年齢による違いはあまり大きくない。

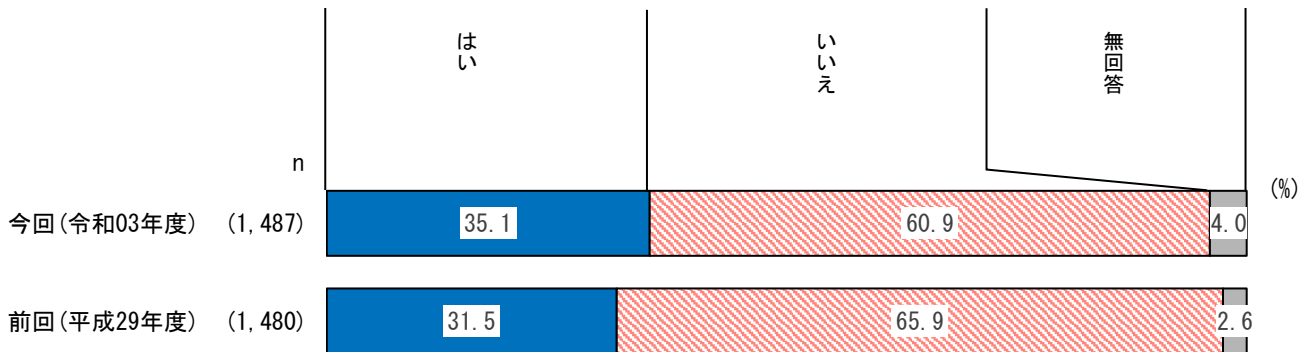
今回調査から追加された「新型コロナウイルス感染症の影響」は上位8位に入っている。

3. 市民活動について

(1) 市民活動への参加意向

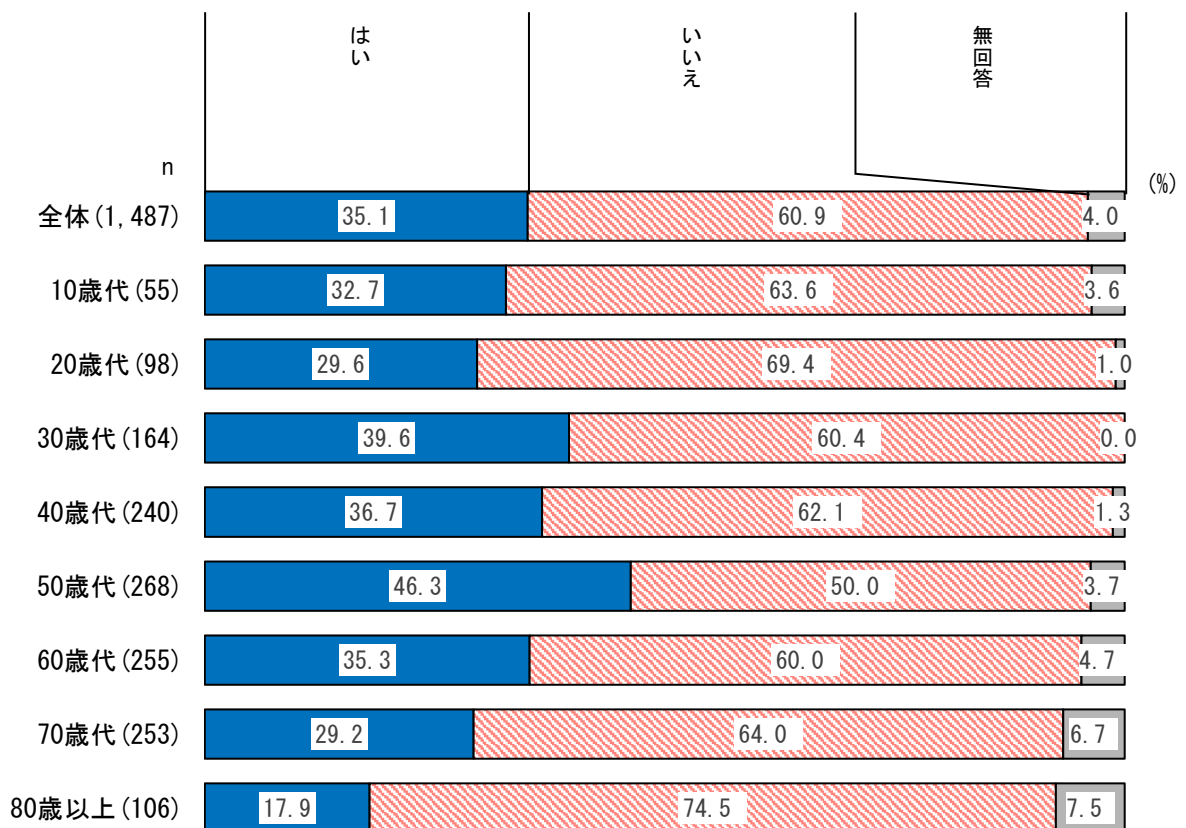
問2-1 今後、市民活動（市民活動団体（NPOを含む）の活動）に参加したいですか。
（一つに〇）

【図表33：市民活動への参加意向】



市民活動への参加意向については、「はい」が35.1%と、前回調査（平成29年度）の31.5%より高くなっている。

【図表34：年齢別／市民活動への参加意向】



年齢別に見ると、50歳代で「はい」の割合が46.3%と最も高く、「いいえ」の割合は80歳以上が74.5%で最高値となっている。

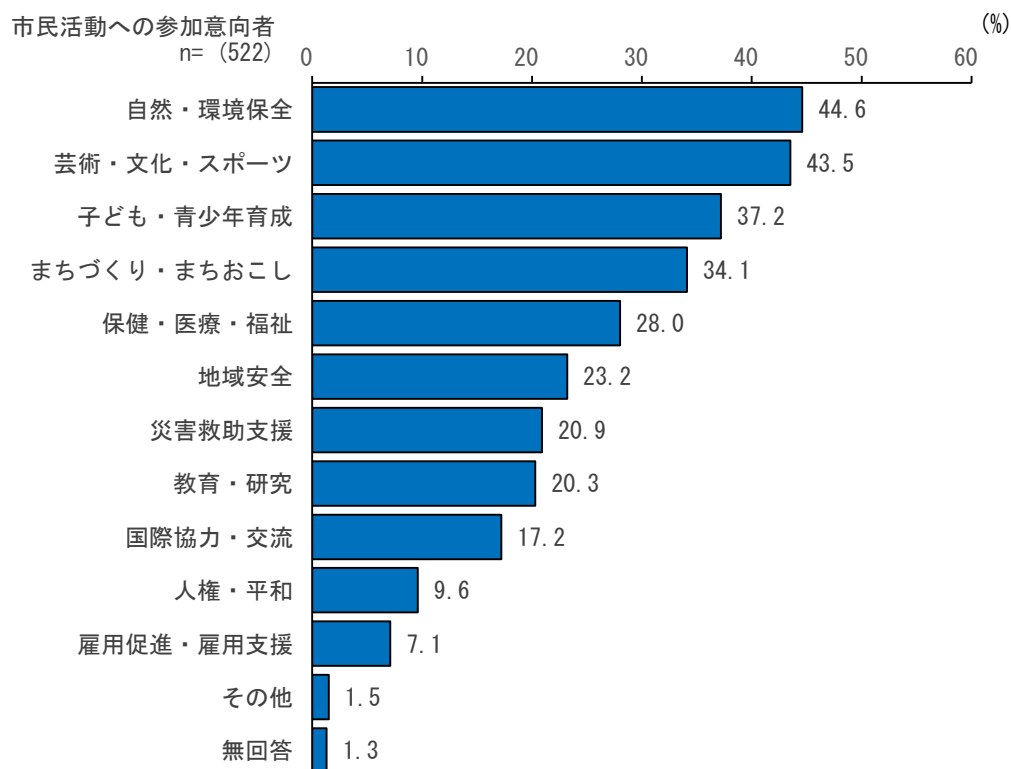
(2) 参加したい市民活動の分野

【問2-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

問2-2 次のうち、参加したい市民活動の分野をお選びください。

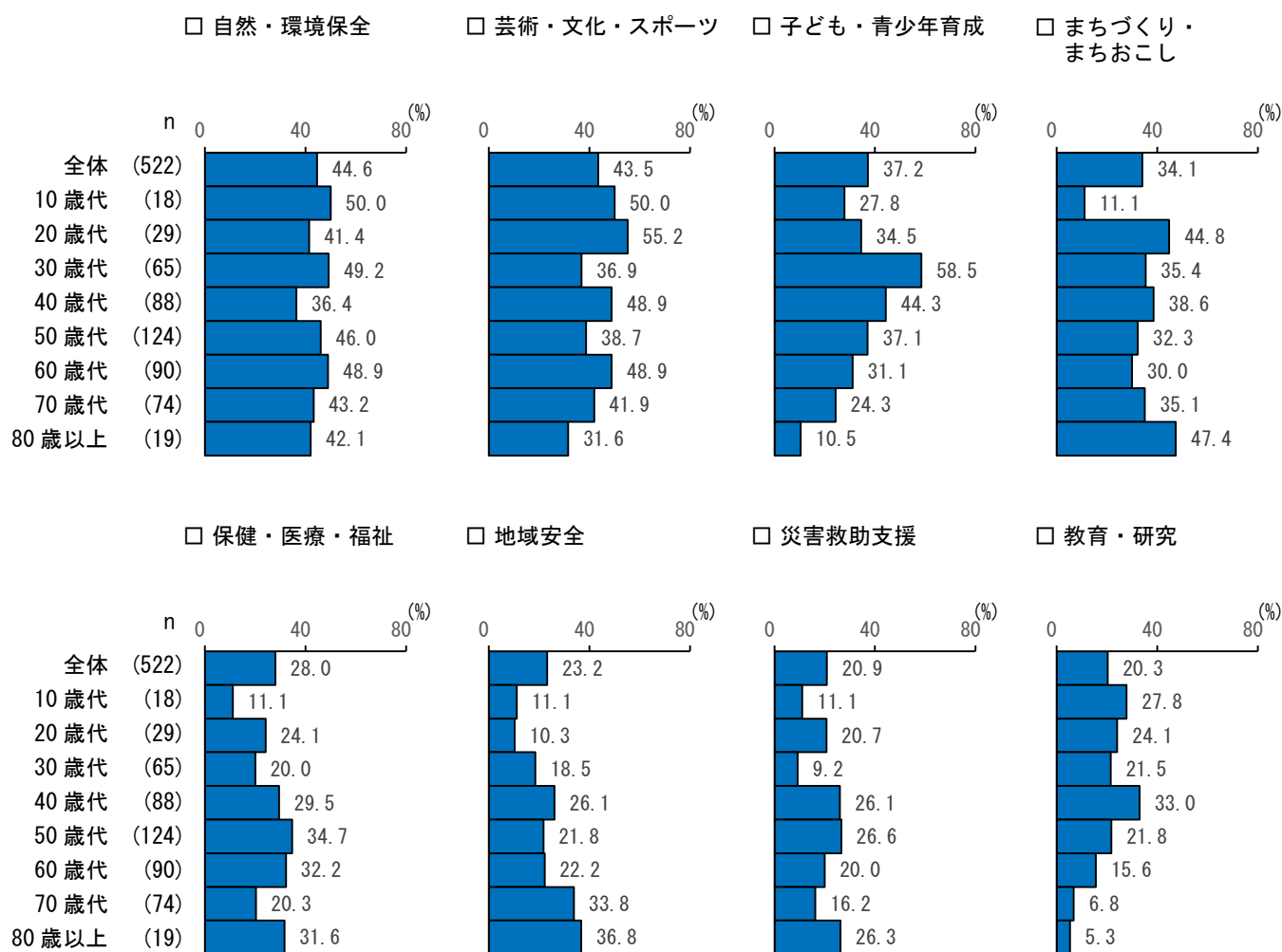
(あてはまるものすべてに○)

【図表35：参加したい市民活動の分野】



参加したい市民活動については、「自然・環境保全」が44.6%と最も高く、次いで、「芸術・文化・スポーツ」(43.5%)、「子ども・青少年育成」(37.2%)、「まちづくり・まちおこし」(34.1%)、「保健・医療・福祉」(28.0%)の順となっている。

【図表36：年齢別／参加したい市民活動の分野】上位8項目



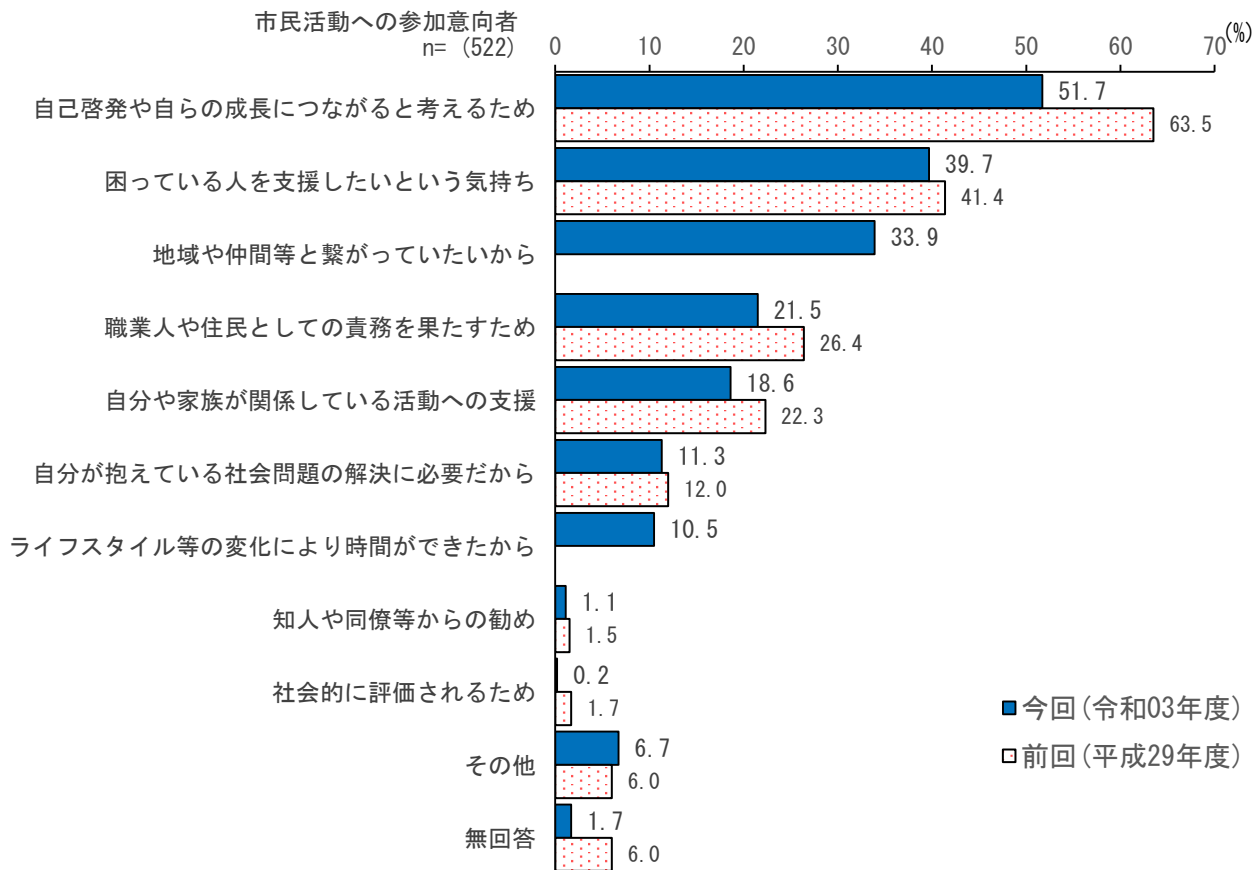
「自然・環境保全」を年齢別で見ると、全ての年代で30代後半～40代後半となっており、年代を問わず一定の関心があることがわかる。「芸術・文化・スポーツ」も80歳以上を除き類似した数値となっている。

(3) 市民活動に参加する理由

【問2-1で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】

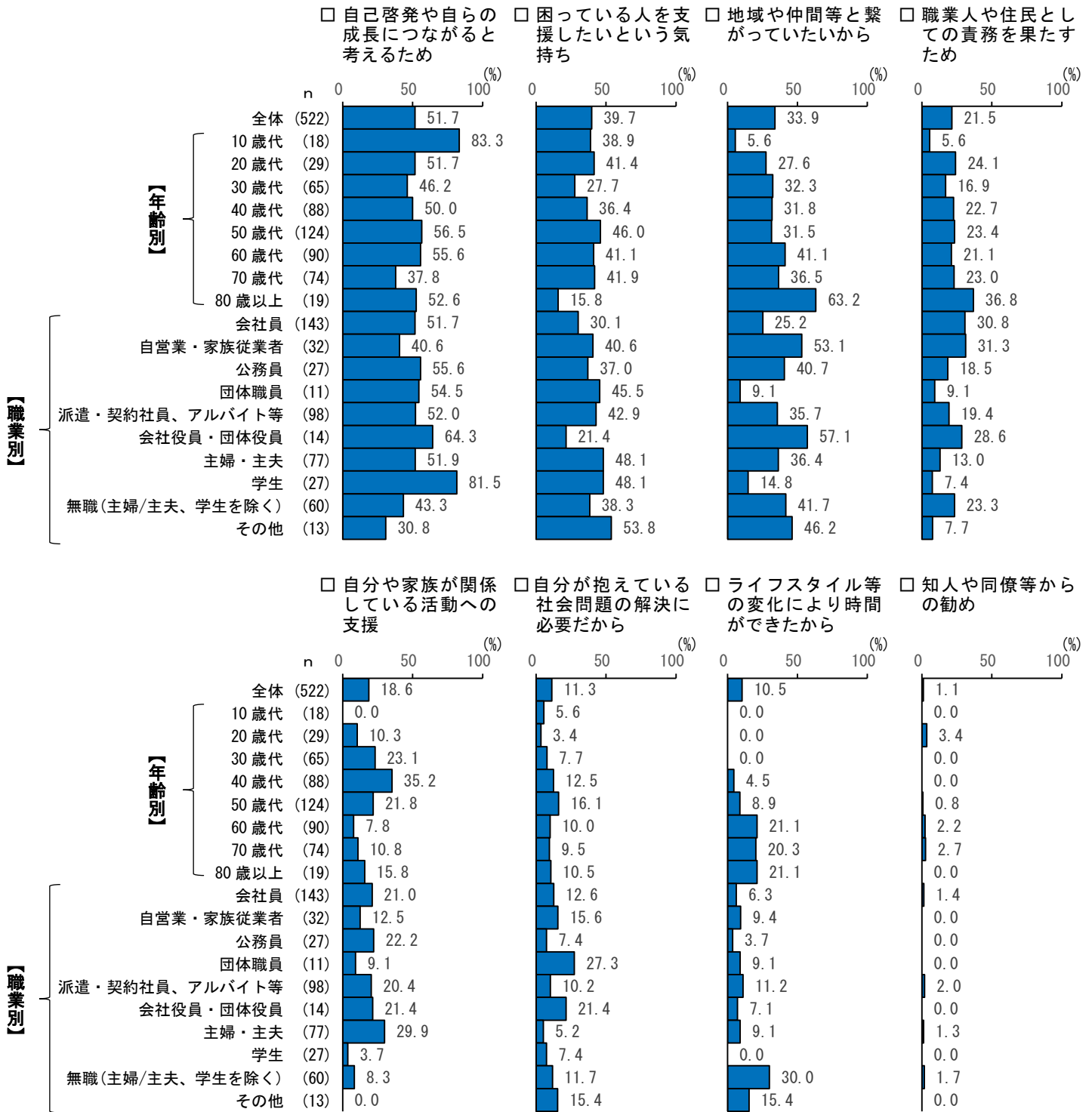
問2-3 市民活動に参加する理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表37：市民活動に参加する理由】



市民活動に参加する理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が51.7%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(39.7%)、「地域や仲間等と繋がっていたいから(今回調査より追加)」(33.9%)「職業人や住民としての責務を果たすため」(21.5%)の順となっている。

【図表38：年齢別・職業別／市民活動に参加する理由】上位8項目



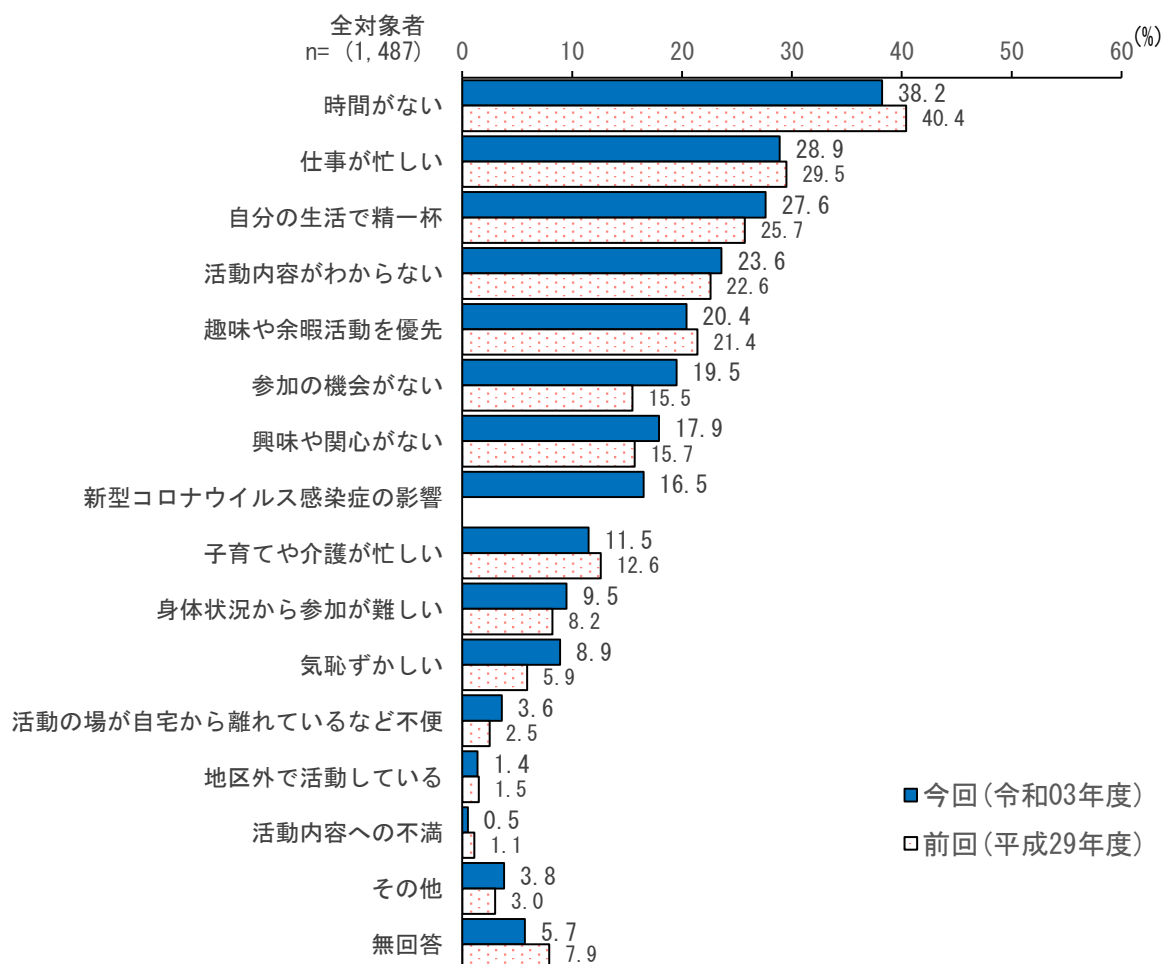
「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」を年齢別に見ると、50歳代(56.5%)及び60歳代(55.6%)がほぼ同程度の割合であり、その他の年代も概ね5割前後となっている。「困っている人を支援したいという気持ち」は、50歳代(46.0%)が最も高くなっている。

「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」を職業別に見た場合、半数以上の職種で5割以上の割合となっている。

(4) 市民活動に参加することに妨げとなること

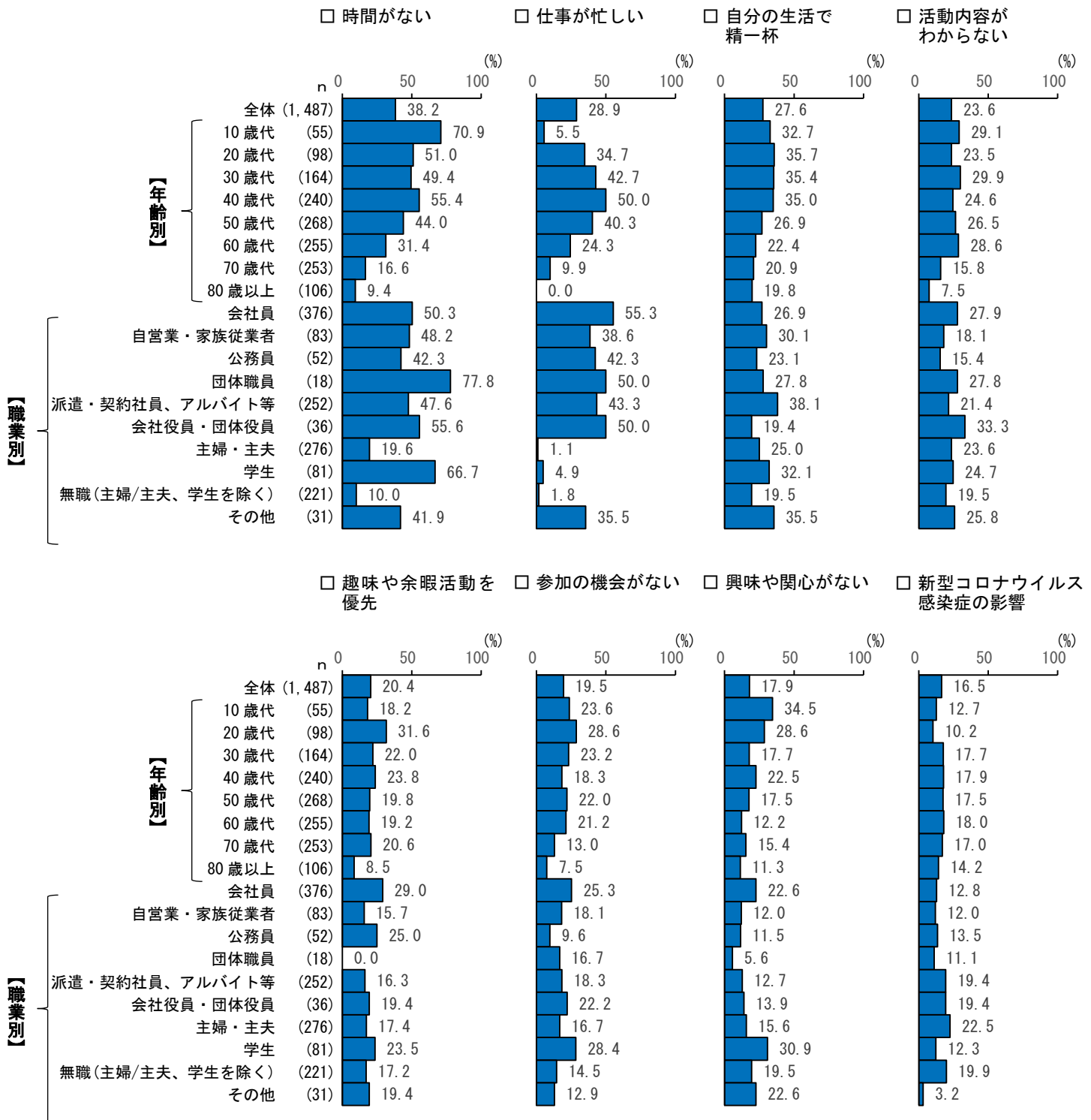
問2-4 市民活動に参加することに妨げとなることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表39：市民活動に参加することに妨げとなること】



市民活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が38.2%と最も高く、次いで、「仕事が忙しい」(28.9%)、「自分の生活で精一杯」(27.6%)、「活動内容がわからない」(23.6%)、「趣味や余暇活動を優先」(20.4%)の順となっている。

【図表40：年齢別・職業別／市民活動に参加することに妨げとなること】上位8項目



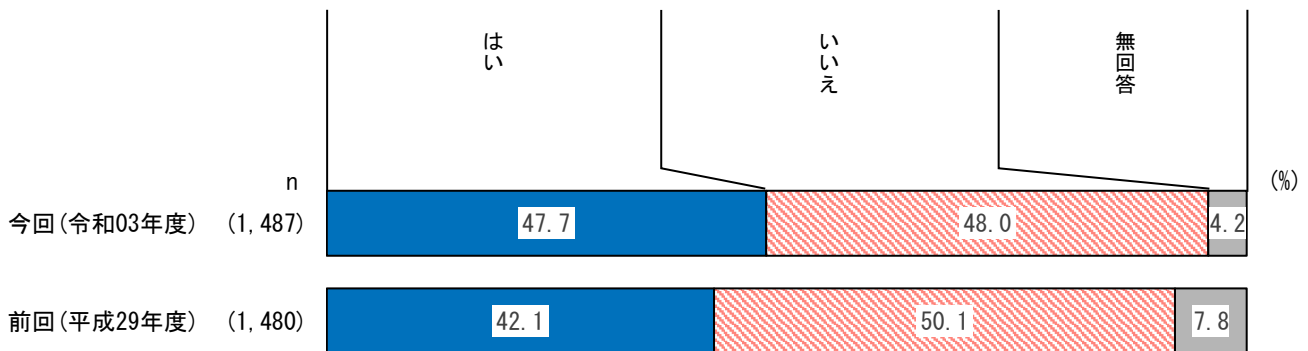
「時間がない」を年齢別にみると、10歳代が70.9%と最も高くなっており、次いで、20～50歳代が5割り前後となっている。「仕事が忙しい」は、40歳代が50.0%と最も高く、その前後の30歳代及び50歳代はどちらも4割程度で山なりとなっている。

「時間がない」を職業別にみると、「学生」(66.7%)、次いで「会社役員・団体役員」(55.6%)の順に割合が高く、「仕事が忙しい」では「会社員」(55.3%)、「会社役員・団体役員」(50.0%)などで5割以上となっている。

(5) 市民活動団体に期待することの有無

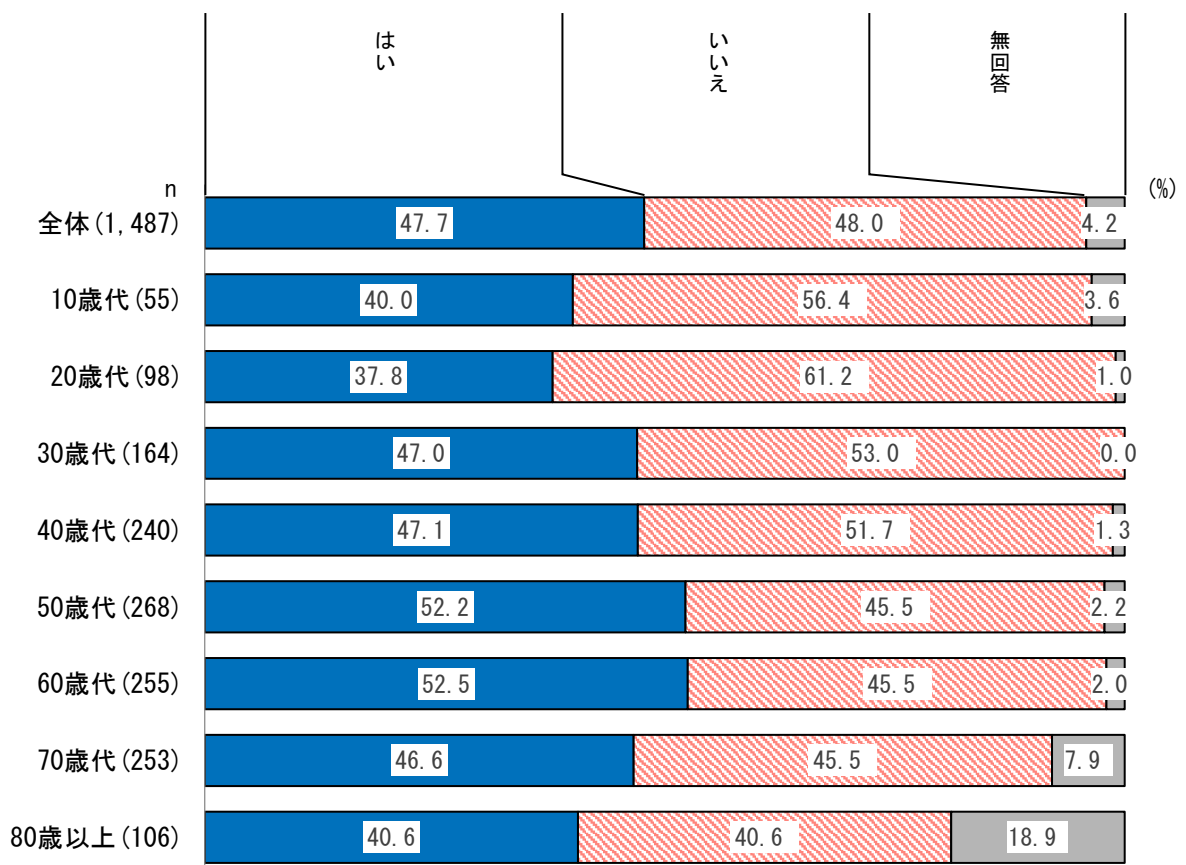
問2-5 あなたは市民活動団体に期待することはありますか。(一つに〇)

【図表4-1：市民活動団体に期待することの有無】



市民活動団体に期待することの有無については、「はい」が47.7%と、前回調査（平成29年度）の42.1%を上回っている。

【図表4-2：年齢別／市民活動団体に期待することの有無】

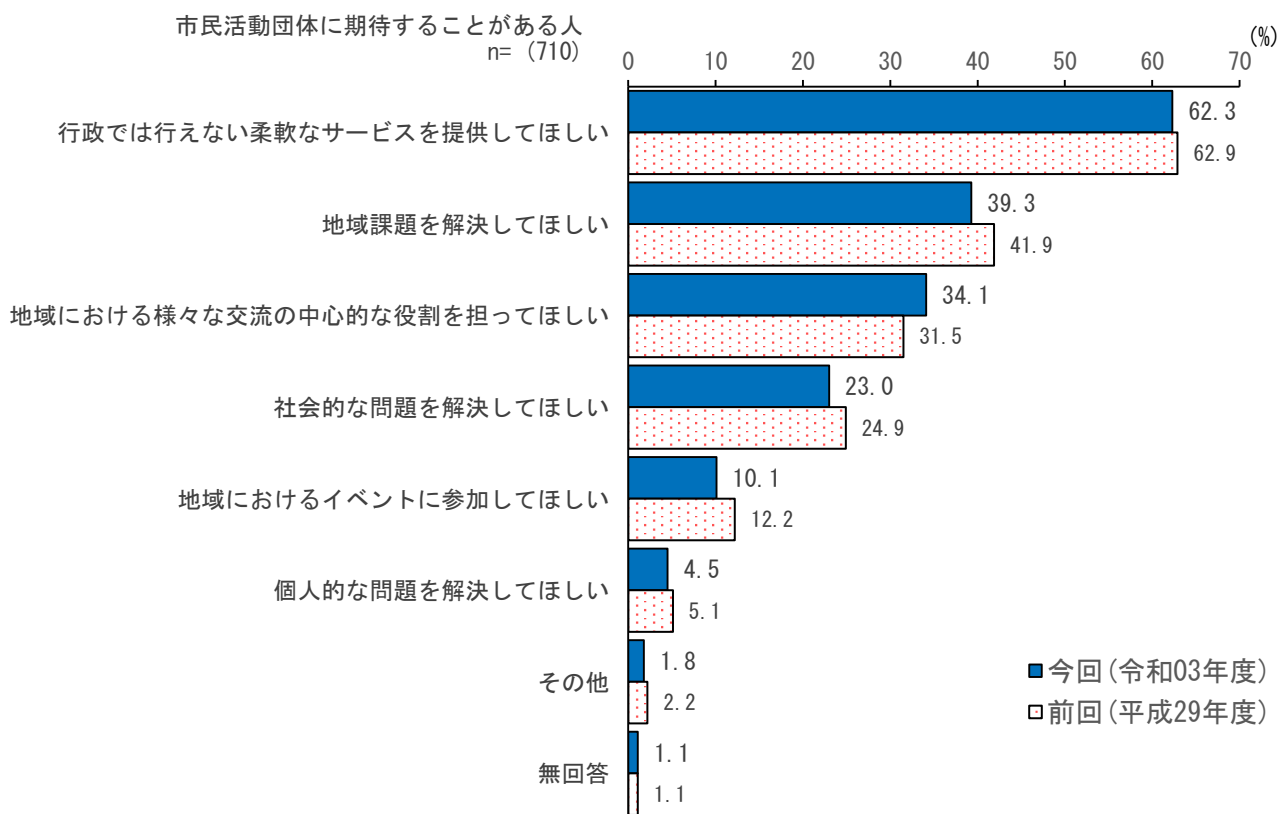


「はい」の割合を年齢別にみると、60歳代(52.5%)と50歳代(52.2%)がほぼ変わらない割合を示している。

(6) 市民活動団体に期待することの内容

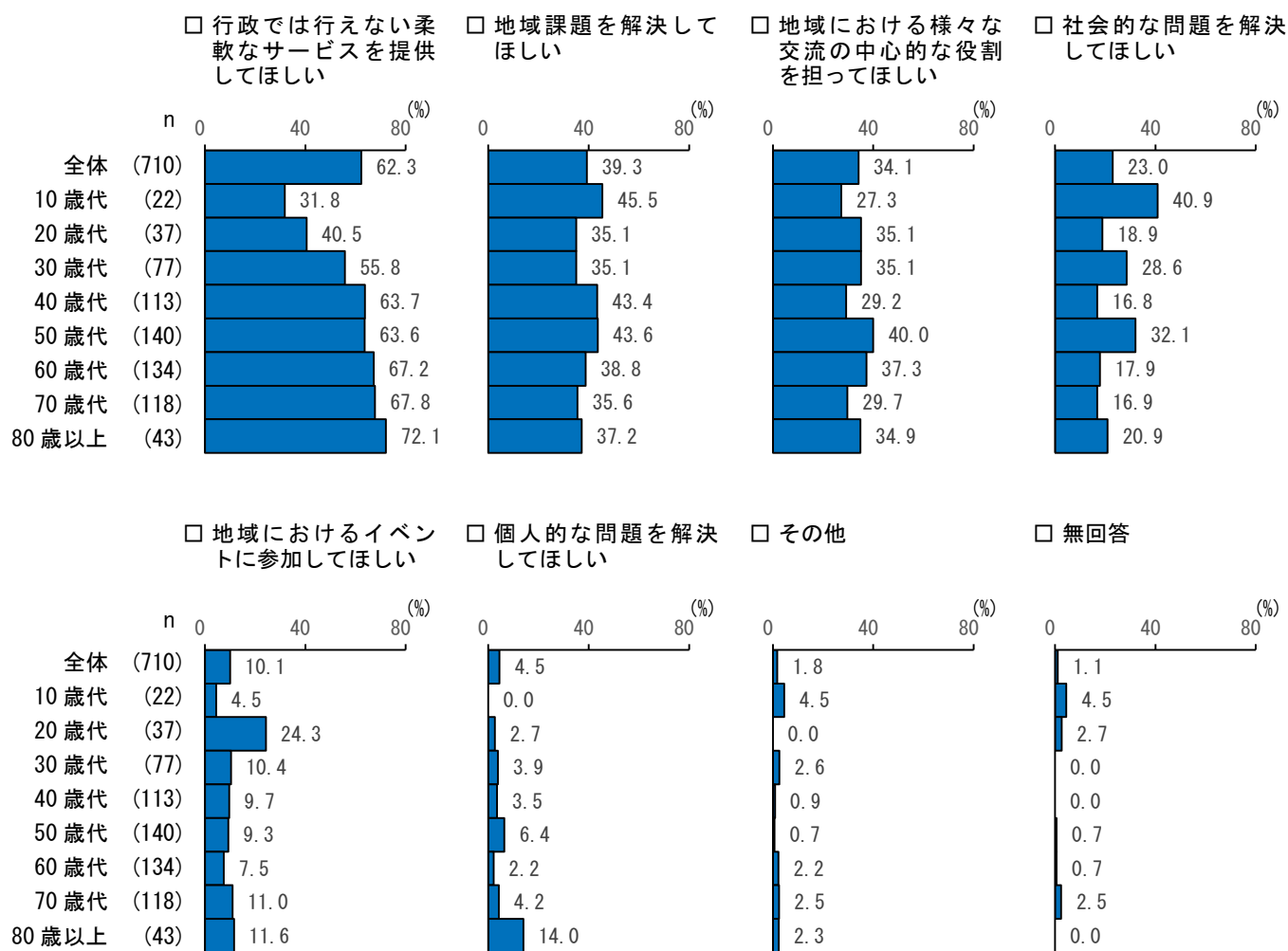
【問2-5で「1. はい」に○をつけた方にお聞きします】
 問2-6 あなたが市民活動団体に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図表4-3：市民活動団体に期待することの内容】



市民活動団体に期待することの内容については、「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」が62.3%と最も高く、次いで、「地域課題を解決してほしい」(39.3%)、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」(34.1%)の順となっている。

【図表4-4：年齢別／市民活動団体に期待することの内容】

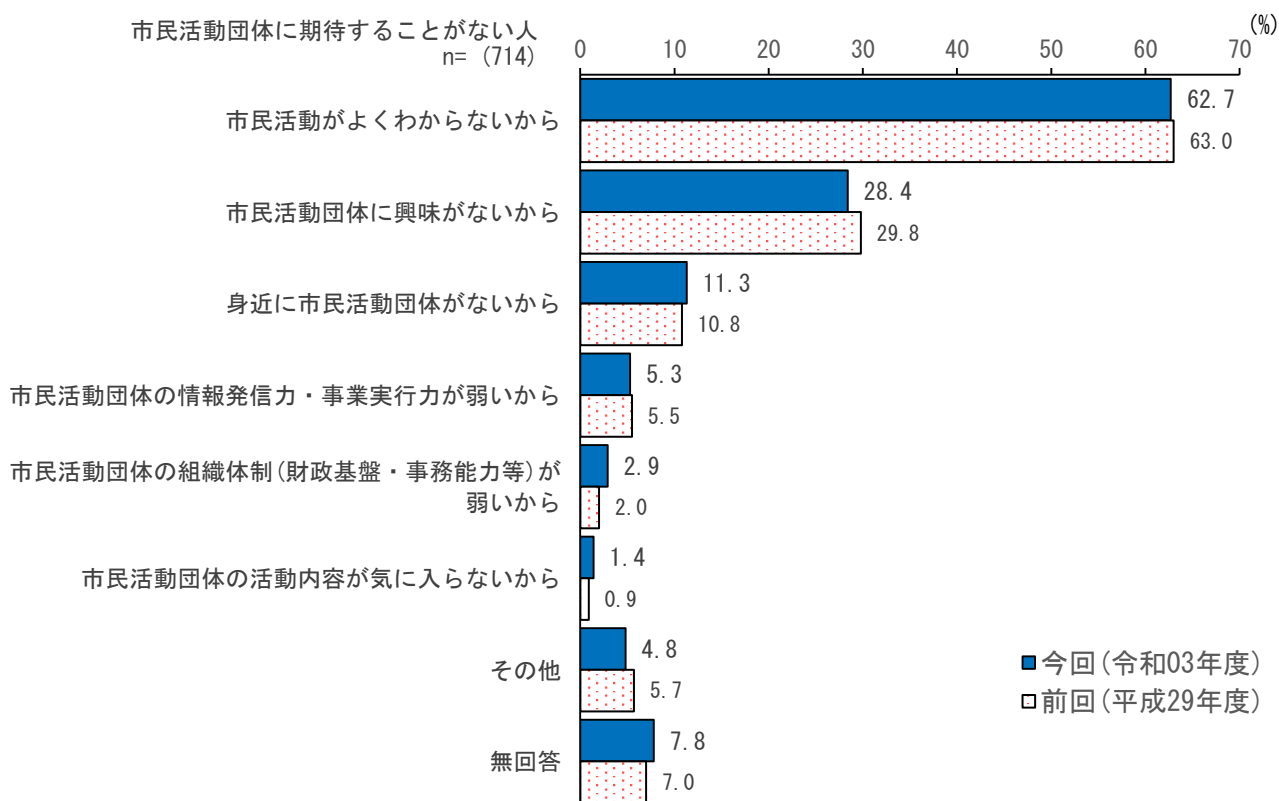


「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」を年齢別で見ると、30歳代より高い年齢は6割を超えている。「地域課題を解決してほしい」では、40歳代（43.4%）と50歳代（43.6%）が他の年代に比べ高く、ほぼ同じ割合となっている。

(7) 市民活動団体に期待することがない理由

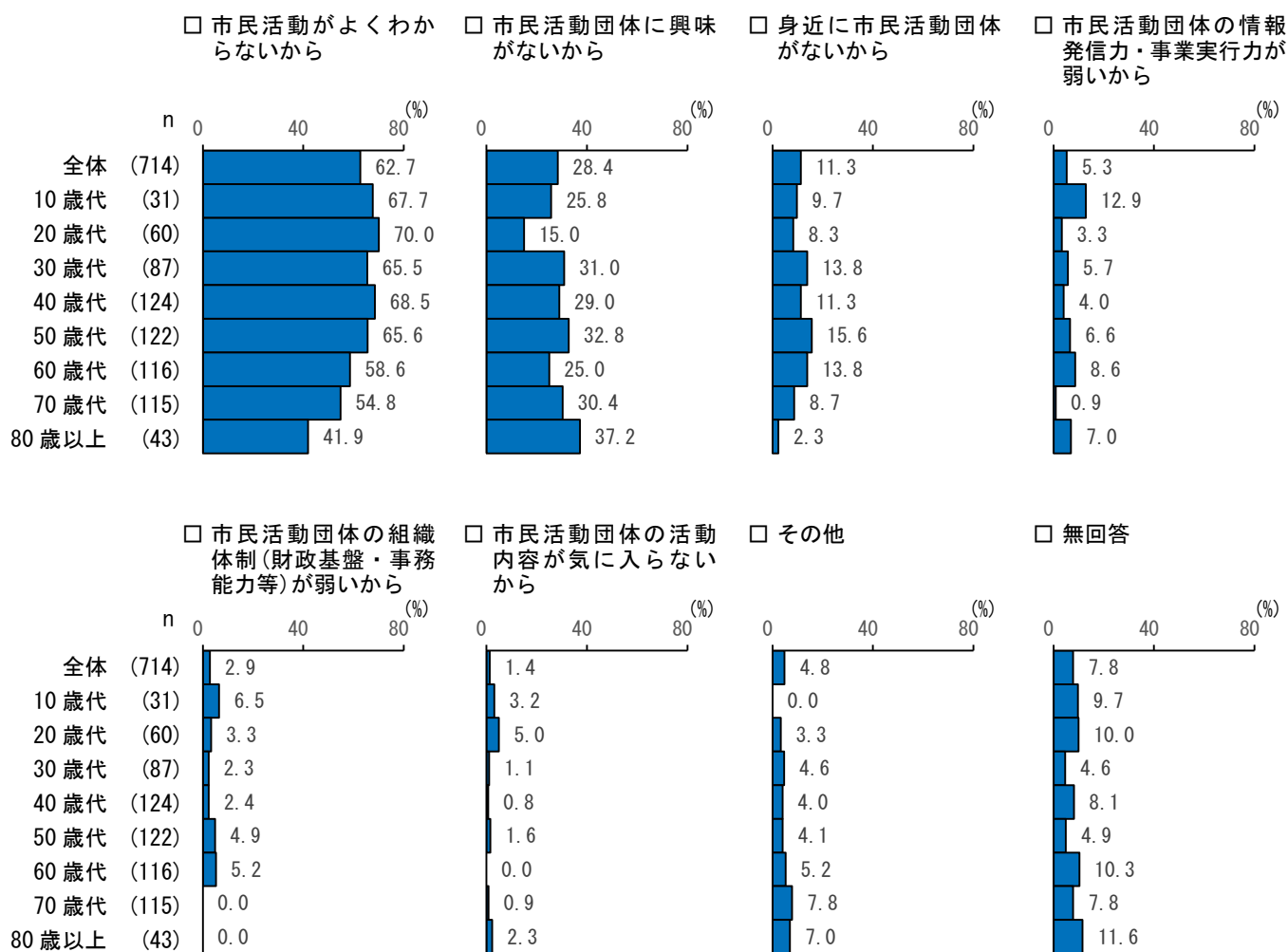
【問2-5で「2. いいえ」に○をつけた方にお聞きします】
 問2-7 あなたが市民活動団体に期待することがないのはなぜですか。
 (あてはまるものすべてに○)

【図表45：市民活動団体に期待することがない理由】



市民活動団体に期待することがない理由については、「市民活動がよくわからないから」が62.7%と最も高く、次いで、「市民活動団体に興味がないから」(28.4%)、「身近に市民活動団体がないから」(11.3%)の順となっている。

【図表46：年齢別／市民活動団体に期待することがない理由】

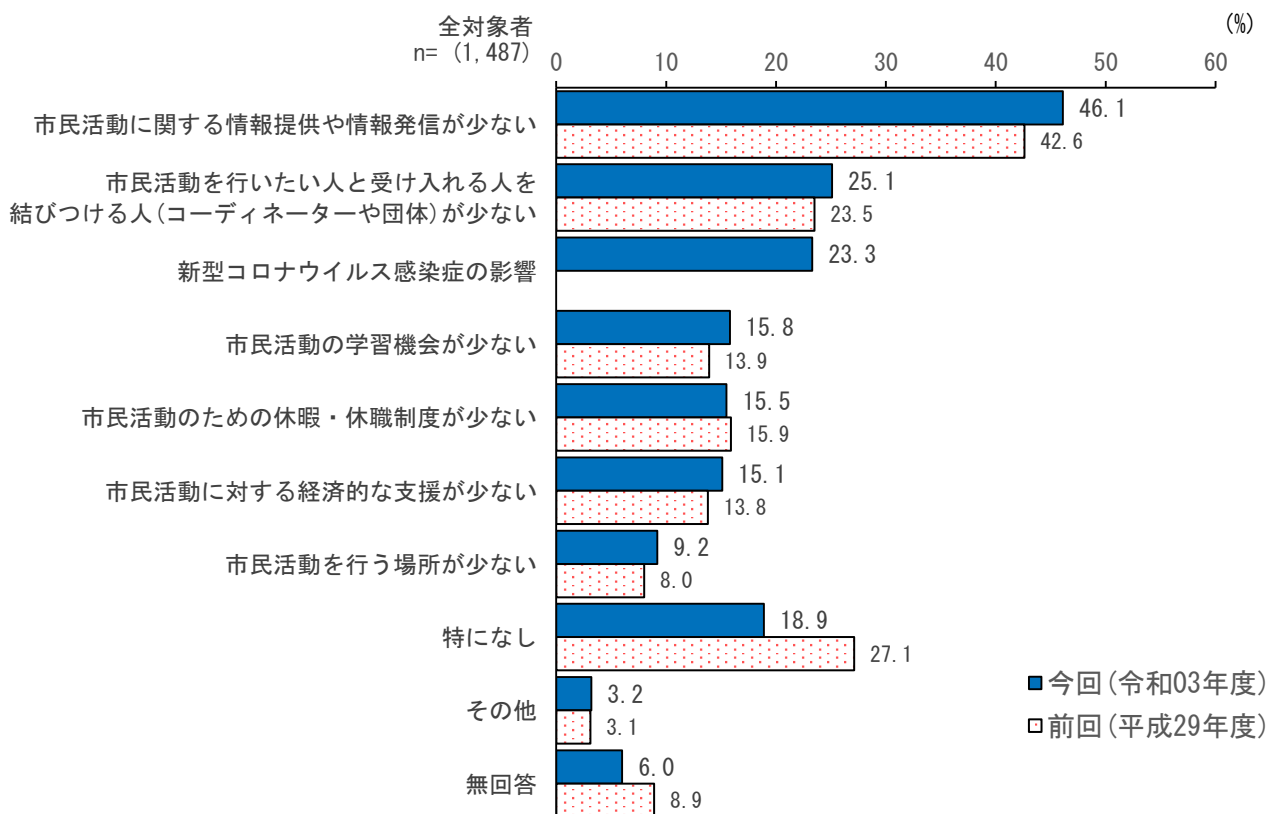


「市民活動がよくわからないから」を年齢別で見ると、20歳代が70.0%と最も高くなっている。「市民活動団体に興味がないから」では、80歳以上(37.2%)、次いで50歳代(32.8%)の順で高くなっている。

(8) 市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと

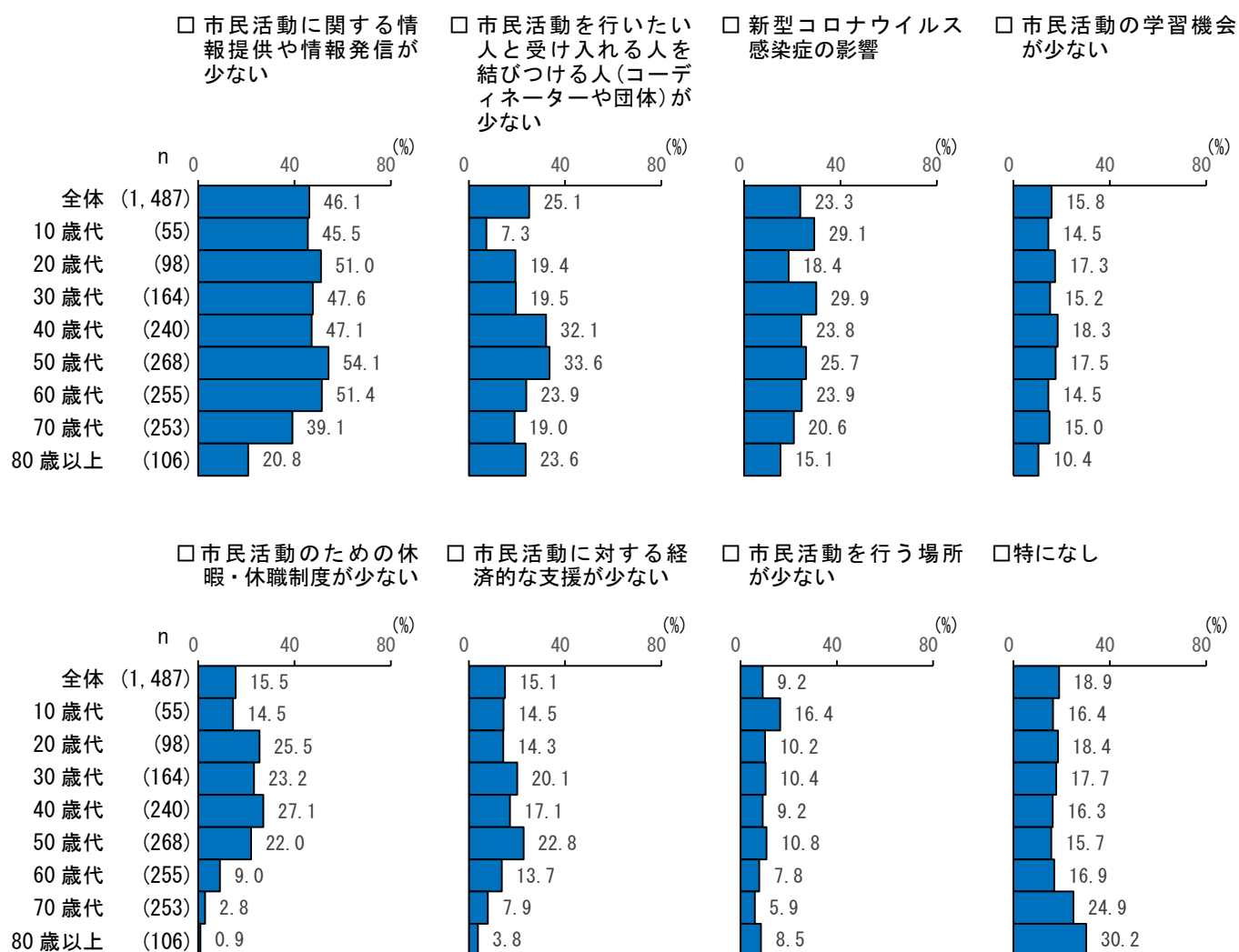
問2-8 市民活動団体が活動するときに、妨げになると思うことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表47：市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと】



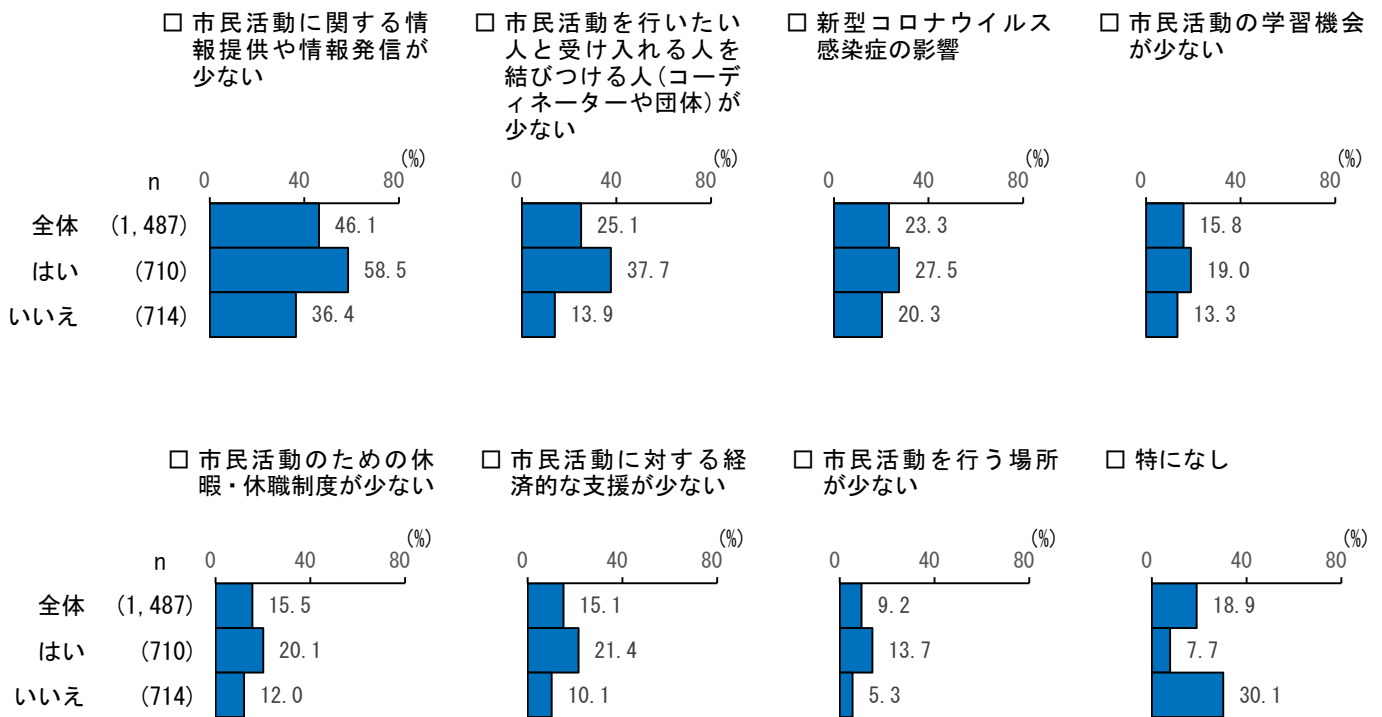
市民活動団体が活動するときに妨げになると思うことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」が46.1%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」(25.1%)、「新型コロナウイルス感染症の影響」(23.3%)の順となっている。

【図表48：年齢別／市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」を年齢別でみると、50歳代が54.1%と最も高く、60歳代(51.4%)、20歳代(51.0%)が5割以上となっている。「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」は、50歳代(33.6%)、40歳代(32.1%)が3割以上と高くなっている。

【図表49：市民活動団体に期待することの有無別／市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと】
上位8項目

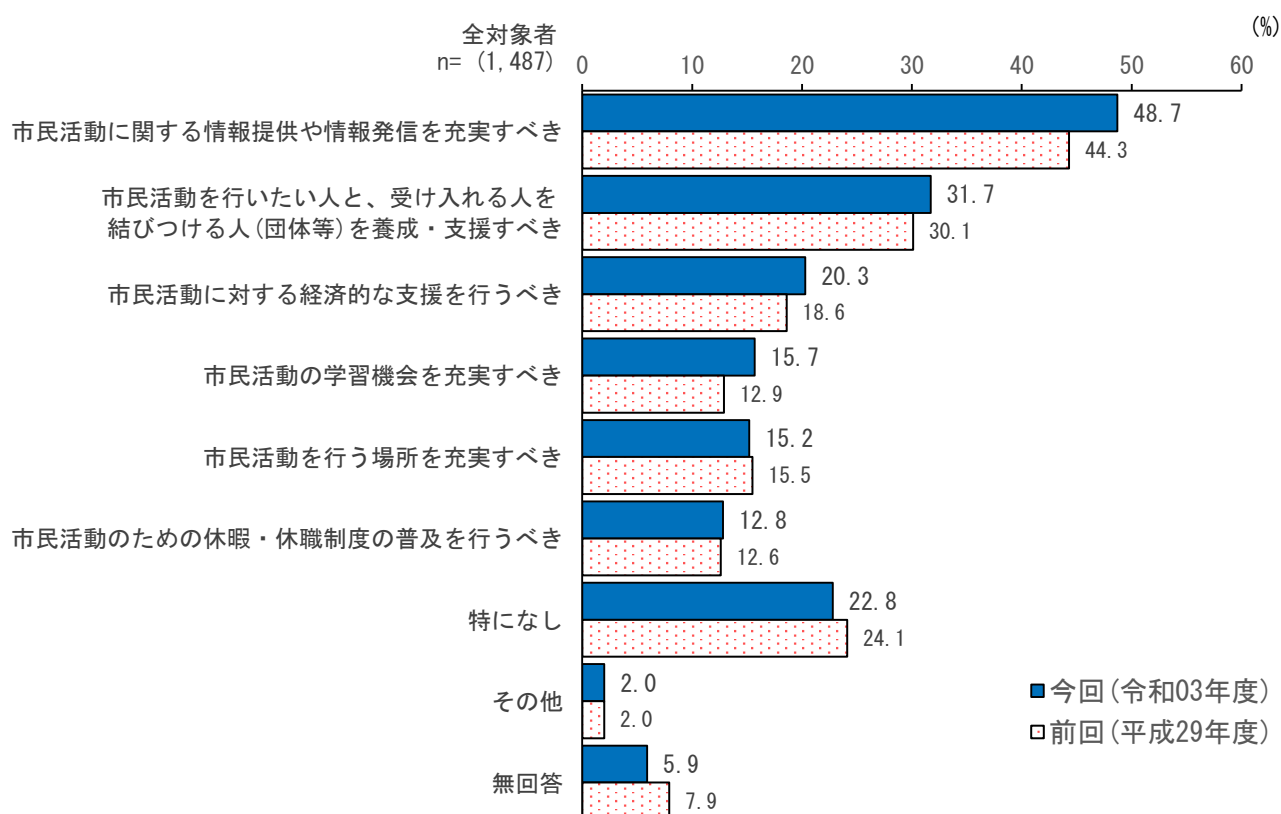


「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」を市民活動に期待することの有無(「はい」/「いいえ」)別にみると、「はい」58.5%、「いいえ」36.4%で、「はい」の方が「いいえ」より22.1ポイント高くなっている。「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人(コーディネーターや団体)が少ない」は、「はい」37.7%、「いいえ」13.9%で、「はい」の方が「いいえ」より23.8ポイント高くなっている。

(9) 市民活動について市に望むこと

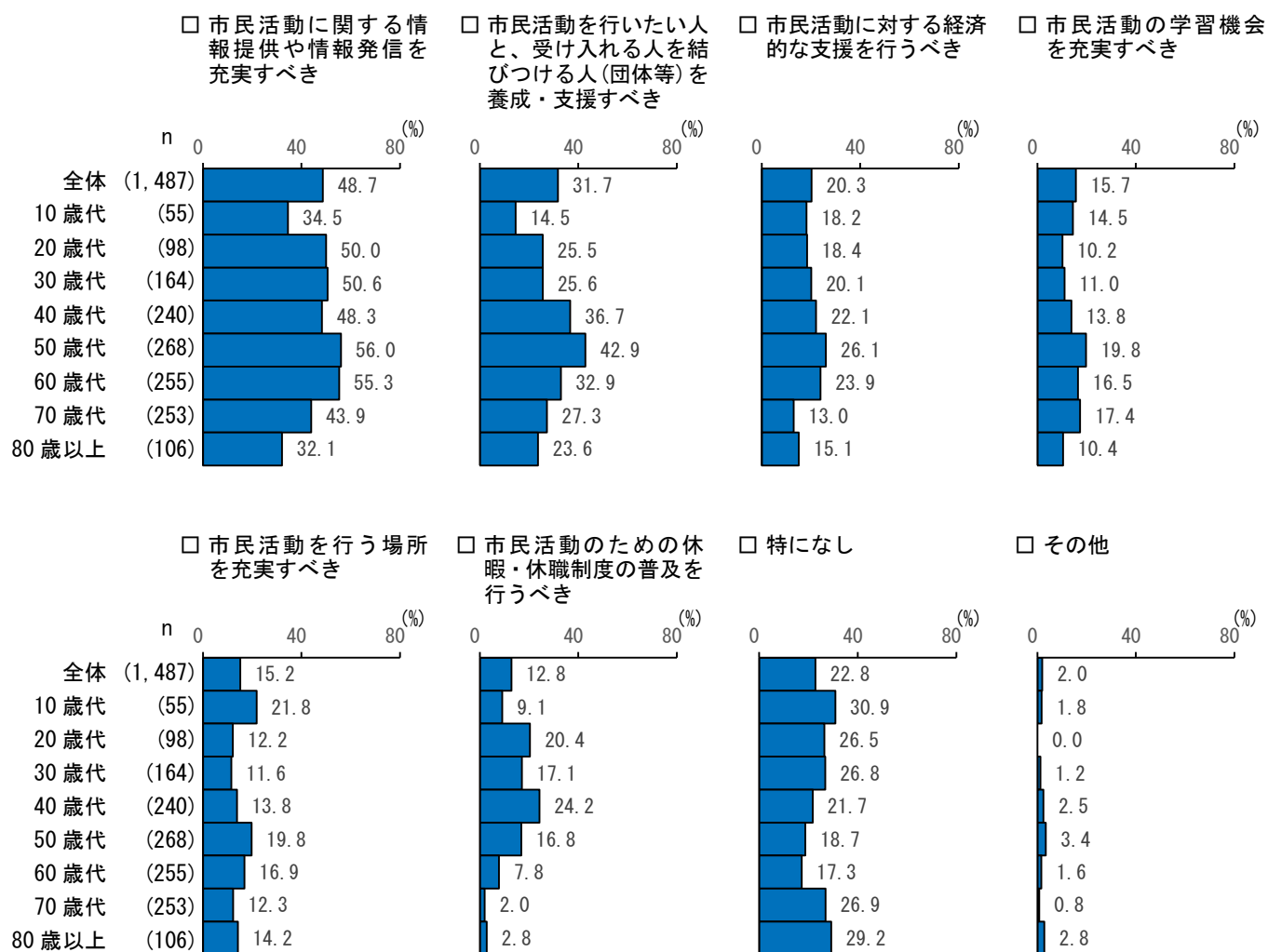
問2-9 市民活動について、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表50：市民活動について市に望むこと】



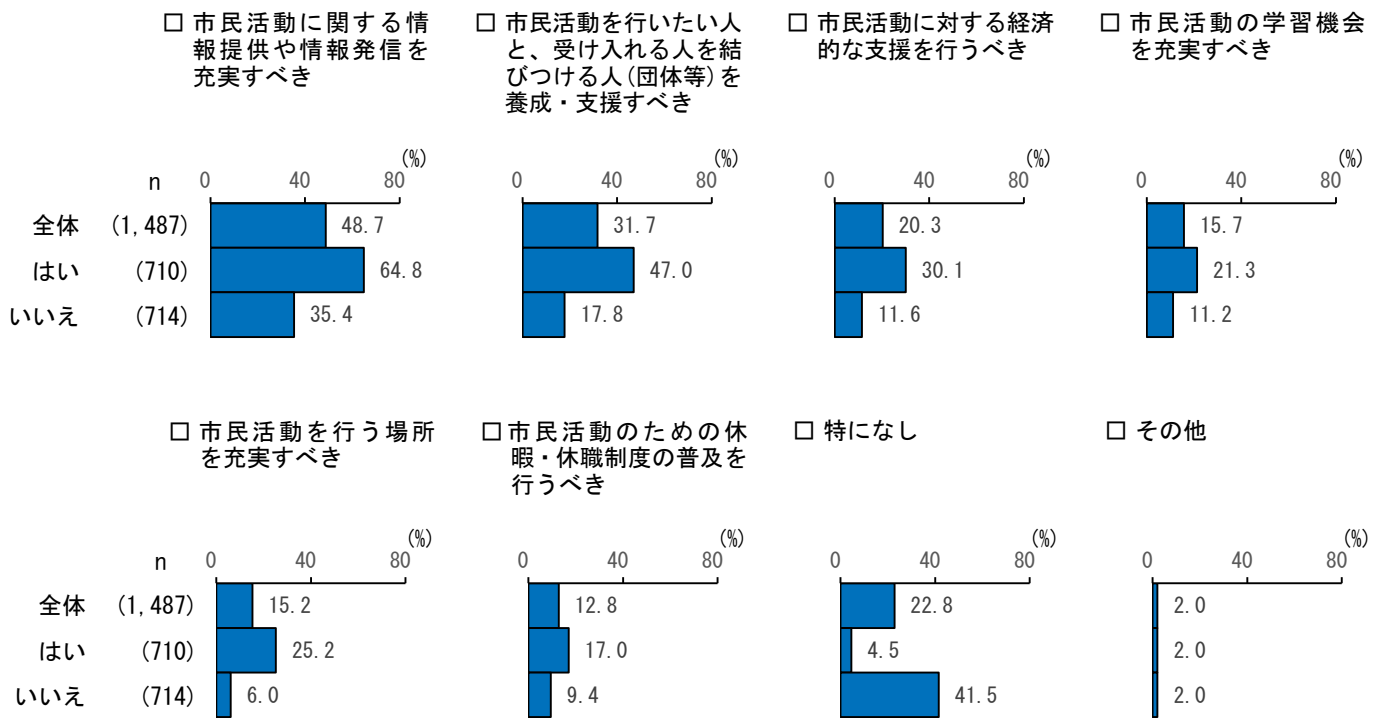
市民活動について市に望むことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が48.7%と最も高い割合となっている。次いで、「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(31.7%)、「市民活動に対する経済的な支援を行うべき」(20.3%)の順となっている。

【図表5-1：年齢別／市民活動について市に望むこと】上位8項目



「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別で見ると、20歳代（50.0%）、30歳代（50.6%）、50歳代（56.0%）、60歳代（55.3%）が5割以上となっている。「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は、50歳代が42.9%と最も高く、「市民活動に対する経済的な支援を行うべき」においても、50歳代（26.1%）が一番高くなっている。

【図表52：市民活動団体に期待することの有無別／市民活動について市に望むこと】上位8項目



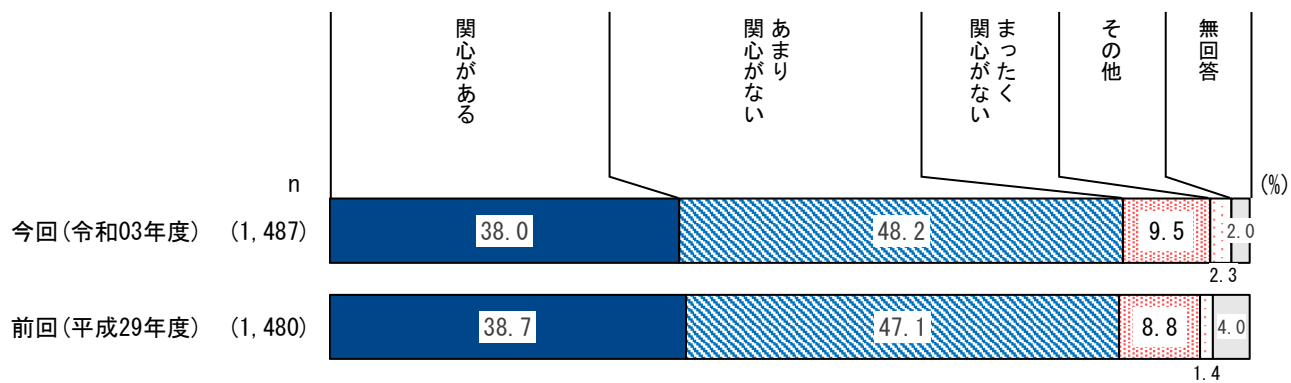
「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を市民活動に期待することの有無(「はい」/「いいえ」)別にみると、「はい」64.8%、「いいえ」35.4%で、「はい」の方が「いいえ」より29.4ポイント高くなっている。「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は、「はい」47.0%、「いいえ」17.8%で、「はい」の方が「いいえ」より29.2ポイント高くなっている。

4. ボランティア活動について

(1) ボランティア活動への関心の有無

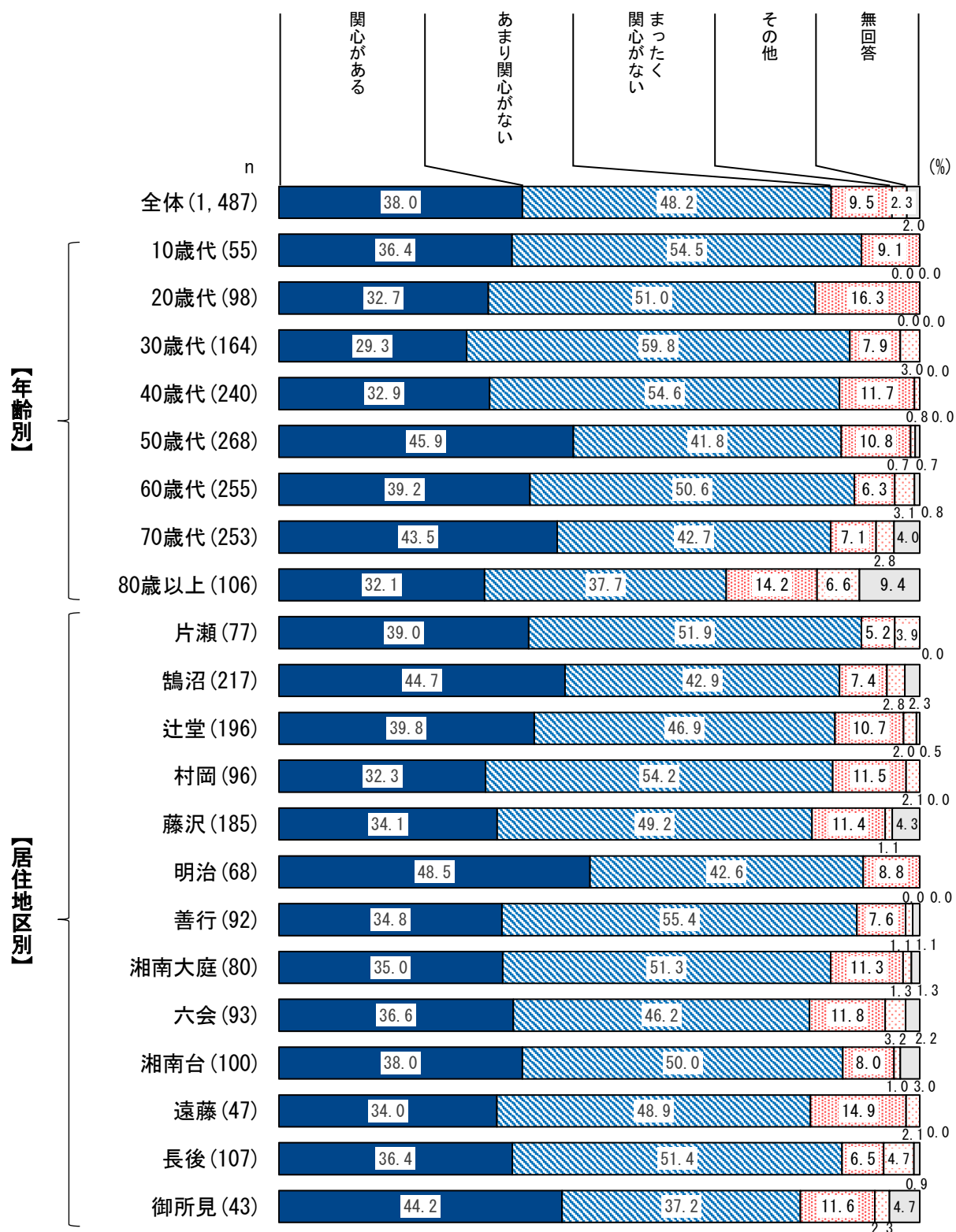
問3-1 あなたはボランティア活動に関心がありますか。(一つに○)

【図表53：ボランティア活動への関心の有無】



ボランティア活動への関心の有無については、「関心がある」が38.0%、「あまり関心がない」が48.2%、「まったく関心がない」が9.5%となっている。

【図表54：年齢別・居住地区別／ボランティア活動への関心の有無】

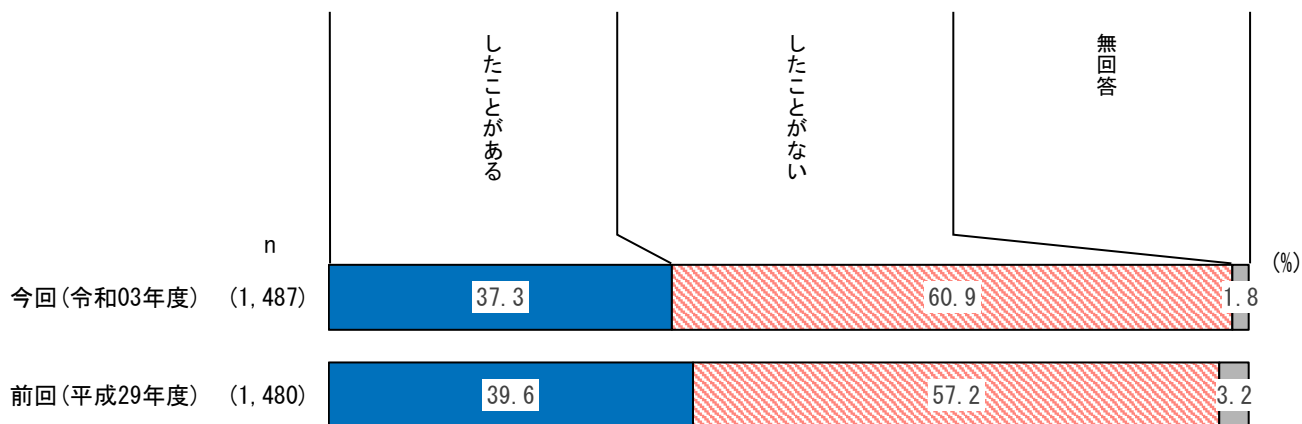


「関心がある」の割合を年齢別にみると、50歳代が45.9%、次いで70歳代（43.5%）となっている。居住地区別では、明治（48.5%）、鵜沼（44.7%）、御所見（44.2%）などで「関心がある」割合が4割以上となっている。

(2) ボランティア活動の経験

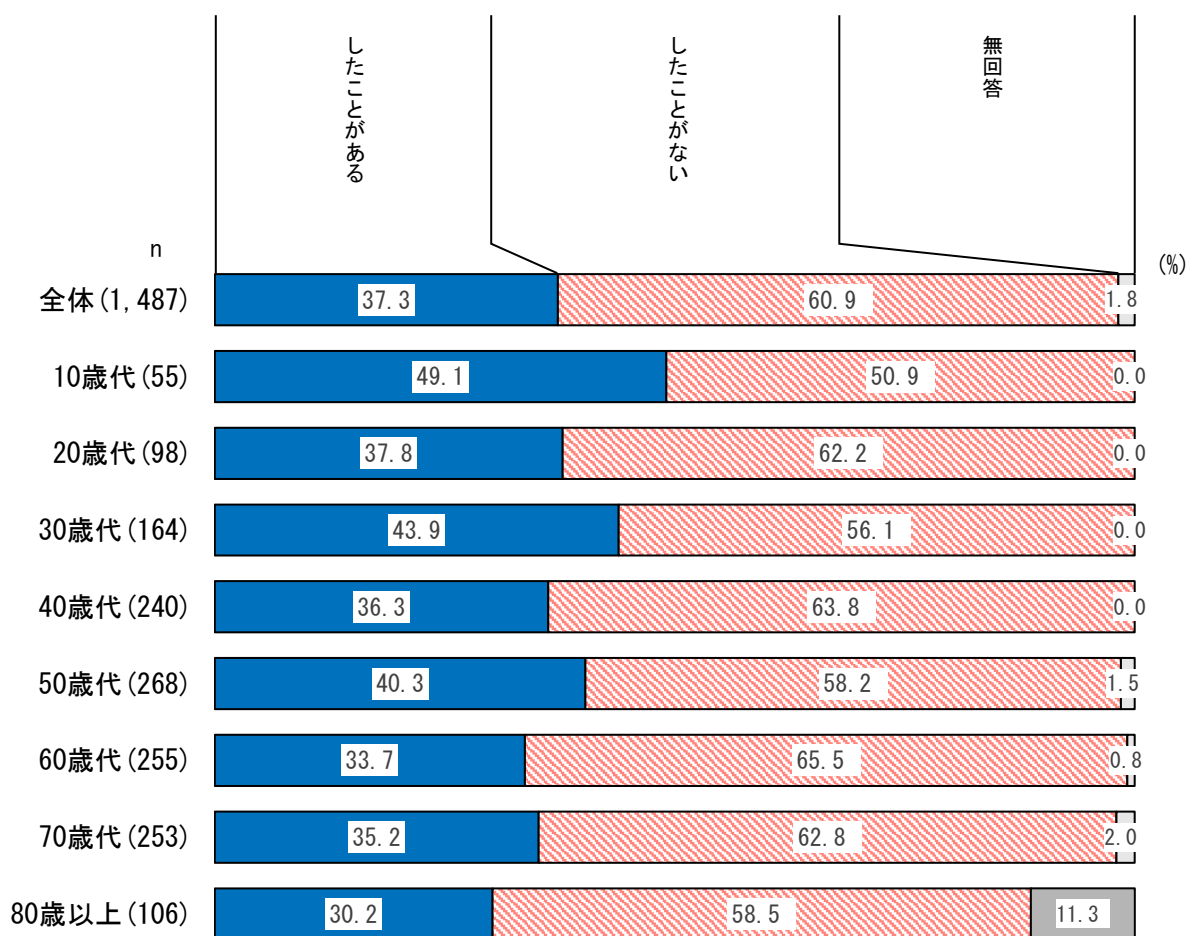
問3-2 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(一つに〇)

【図表55：ボランティア活動の経験】



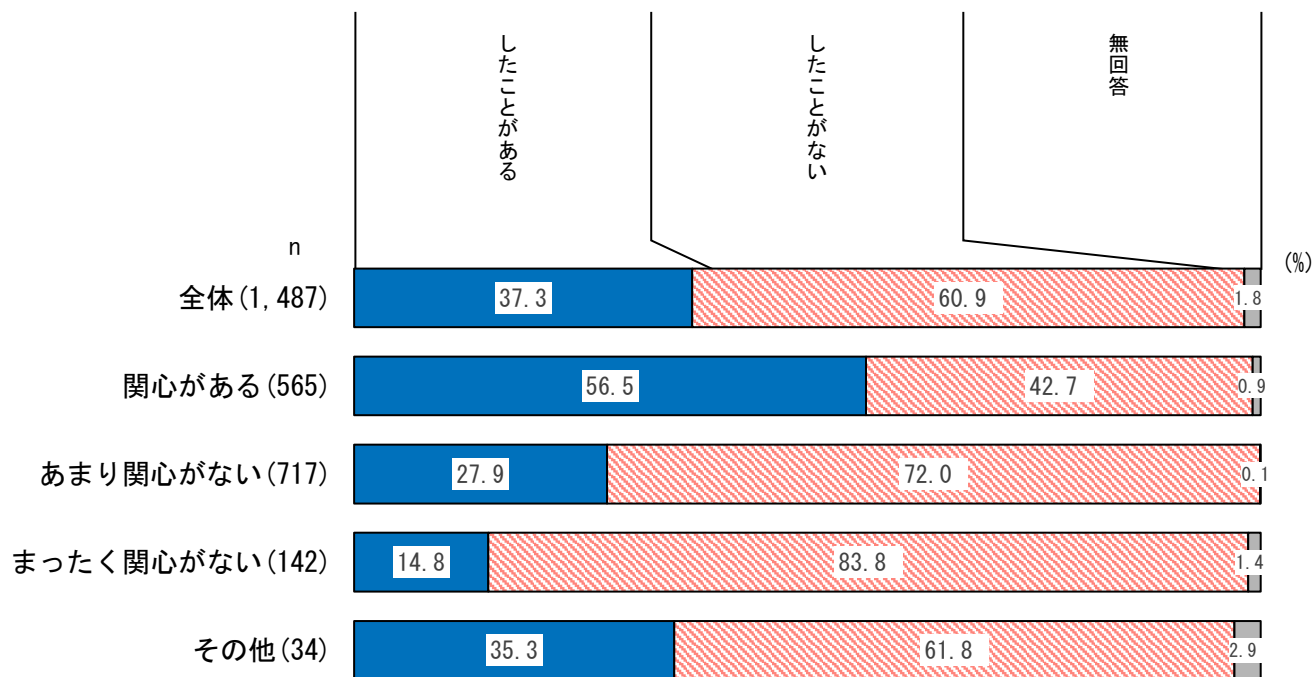
ボランティア活動の経験については、「したことがある」が37.3%、「したことがない」が60.9%となっている。

【図表56：年齢別／ボランティア活動の経験】



年齢別にみると、10歳代が49.1%とボランティア活動を「したことがある」割合が最も高く、次いで、30歳代（43.9%）、50歳代（40.3%）、20歳代（37.8%）の順となっている。

【図表57：ボランティア活動への関心の有無別／ボランティア活動の経験】

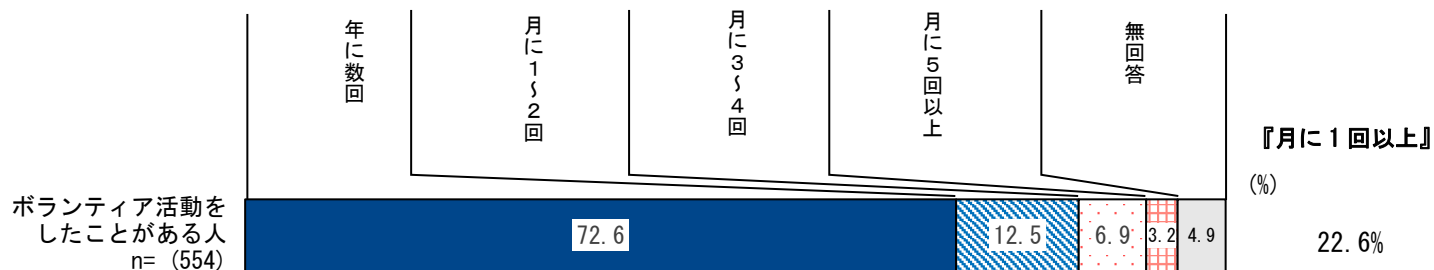


ボランティア活動への関心の有無別にみると、「関心がある」でボランティア活動を「したことがある」のは56.5%、「あまり関心がない」では27.9%、「まったく関心がない」では14.8%となっている。

(3) ボランティア活動への参加の頻度

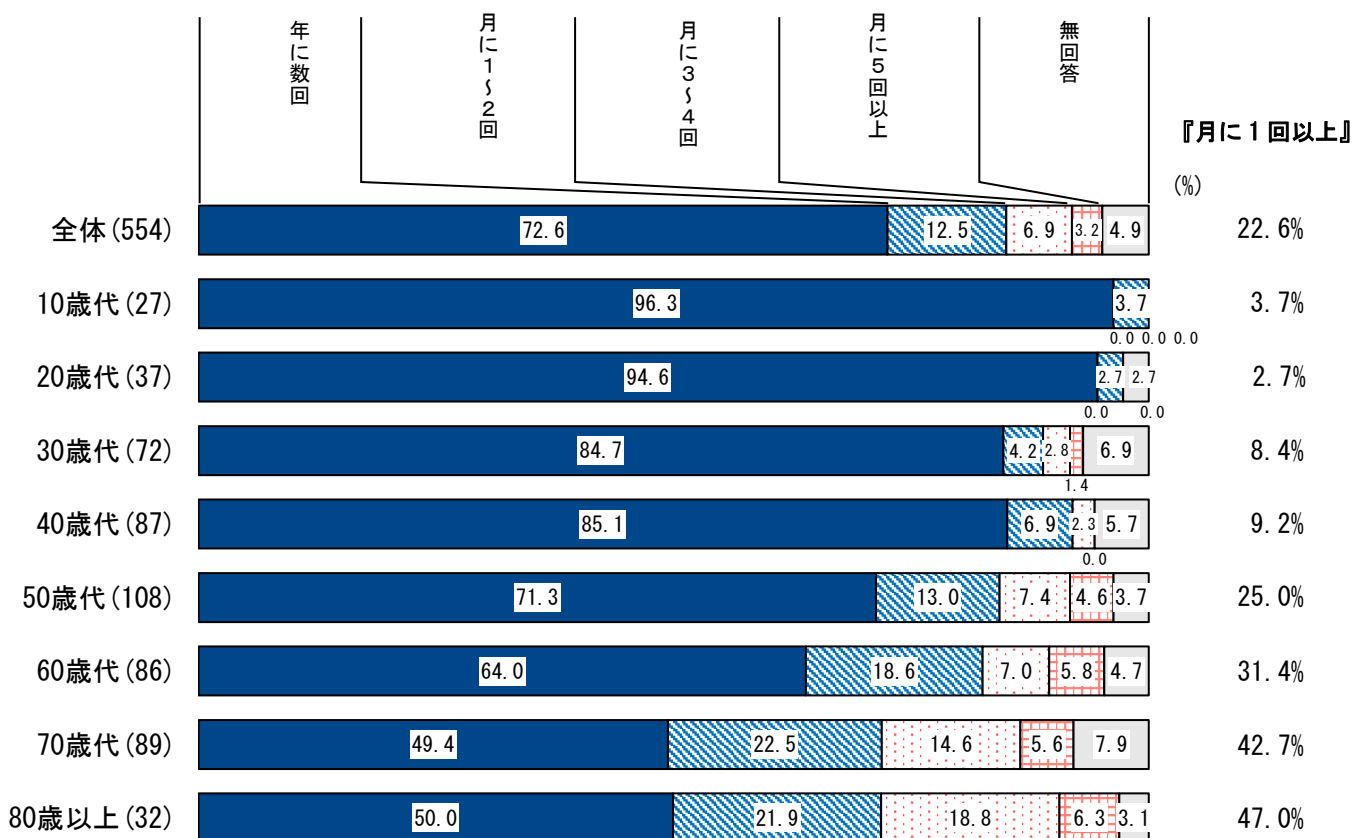
【問3-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問3-3 あなたのボランティア活動への参加の頻度をお選びください。(一つに○)

【図表58：ボランティア活動への参加の頻度】



ボランティア活動への参加の頻度については、「年に数回」が72.6%と最も高く、「月に1~2回」が12.5%、「月に3~4回」が6.9%、「月に5回以上」が3.2%となっている。

【図表59：ボランティア活動への参加の頻度】



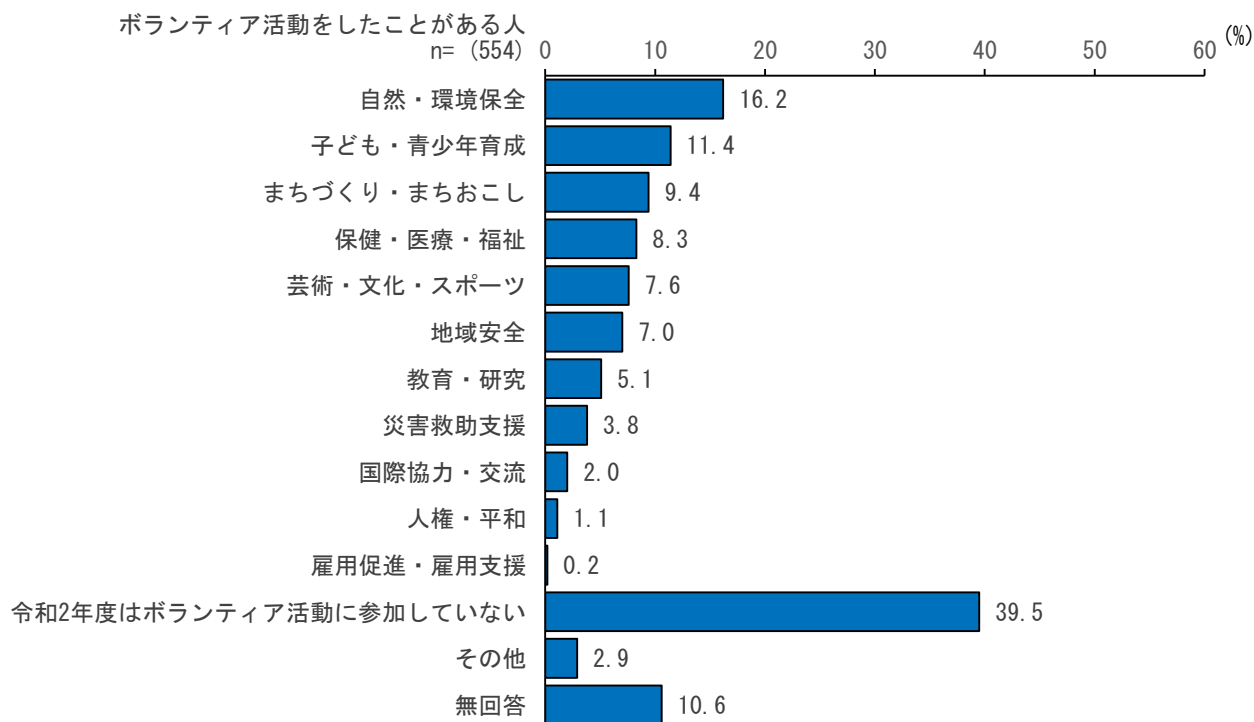
年齢別にみると、年代が上がるにつれボランティア活動への参加頻度が高まる傾向がみられ、80歳以上では47.0%が『月に1回以上』参加している。

(4) 令和2年度中に参加したことがあるボランティア活動

【問3-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問3-4 あなたは令和2年度（令和2年4月～令和3年3月）にどのような分野のボランティア活動に参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

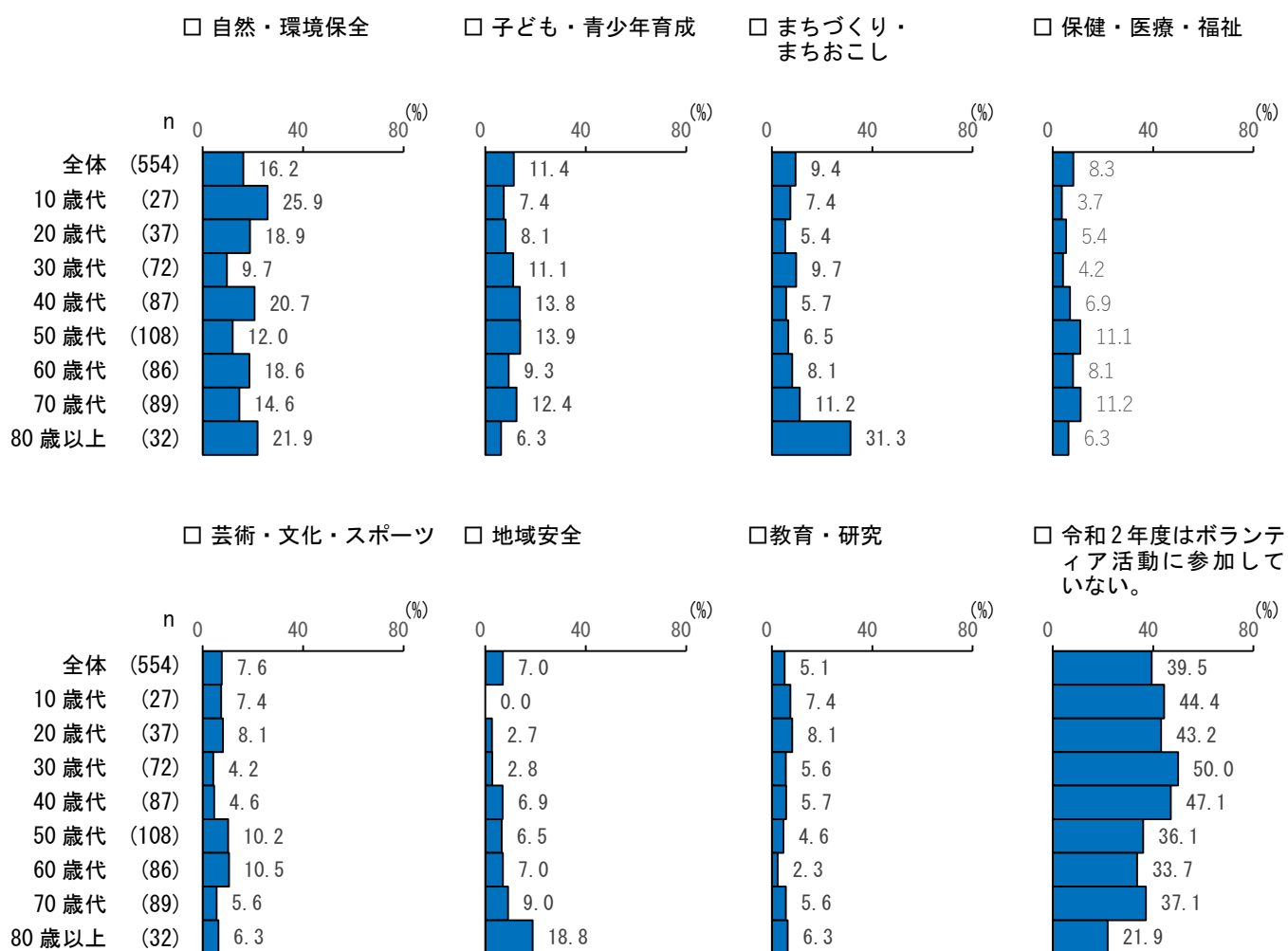
【図表60：令和2年度中に参加したことがあるボランティア活動】



令和2年度中に参加したことがあるボランティア活動については、「自然・環境保全」が16.2%と最も高く、次いで「子ども・青少年育成」(11.4%)、「まちづくり・まちおこし」(9.4%)「保健・医療・福祉」(8.3%)、の順となっている。

なお、「令和2年度はボランティア活動に参加していない」人は39.5%となっている。

【図表6-1：年齢別／令和2年度中に参加したことがあるボランティア活動】上位8項目

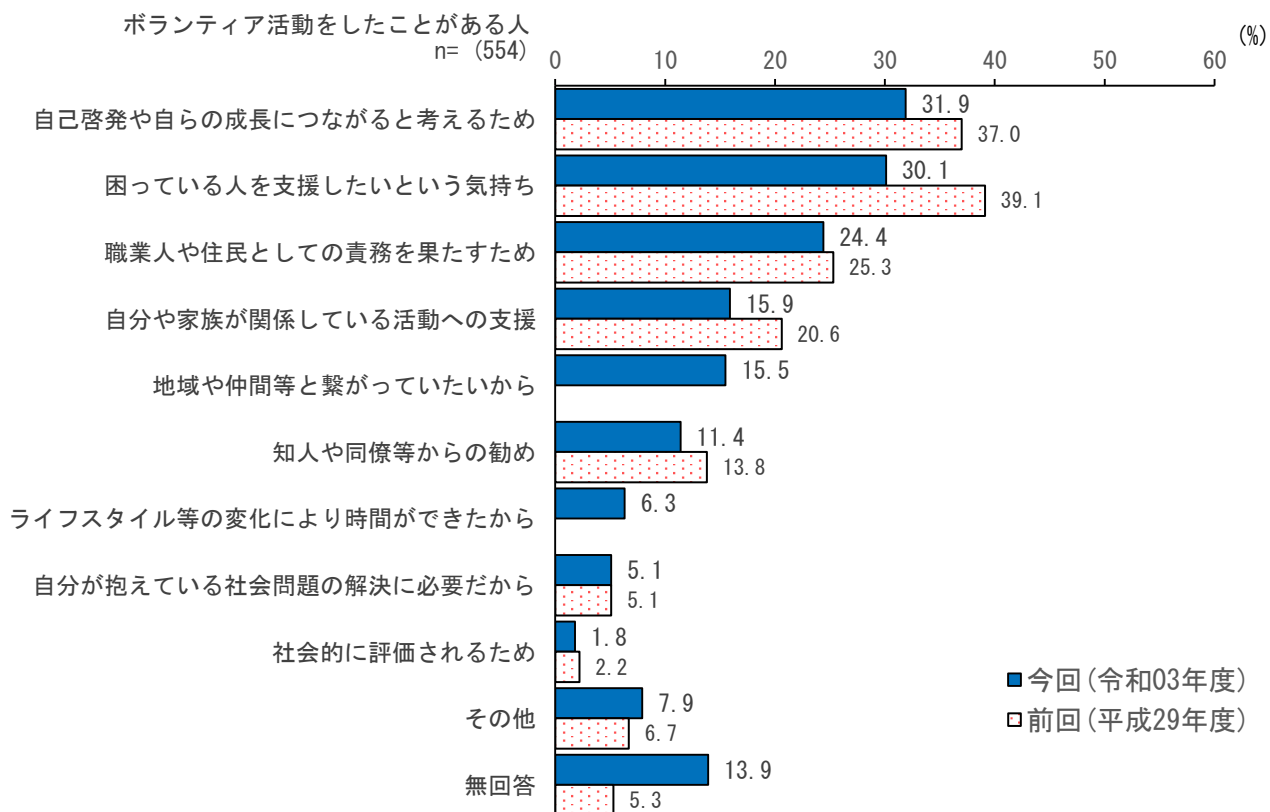


年齢別にみると、「自然・環境保全」は80歳以上（21.9%）や40歳代（20.7%）、「子ども・青少年育成」では50歳代（13.9%）や40歳代（13.8%）などで割合が高くなっている。一方、「令和2年度はボランティア活動に参加していない」割合は、30歳代（50.0%）や40歳代（47.1%）などで高くなっている。

(5) ボランティア活動に参加する理由

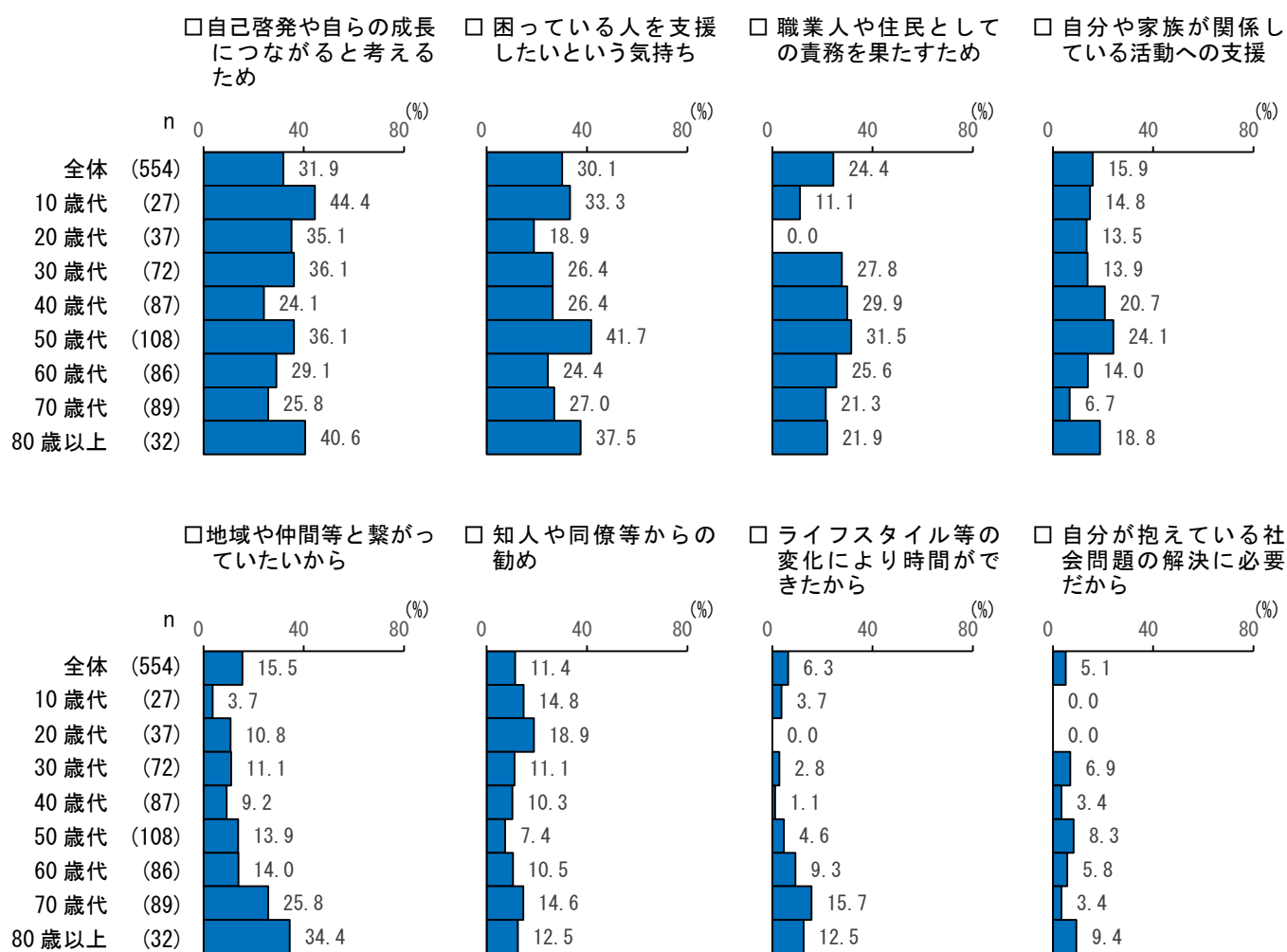
【問3-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問3-5 あなたにとって、ボランティア活動に参加する理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

【図表62：ボランティア活動に参加する理由】



ボランティア活動に参加する理由については、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が31.9%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(30.1%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(24.4%)の順となっている。

【図表63：年齢別／ボランティア活動に参加する理由】上位8項目

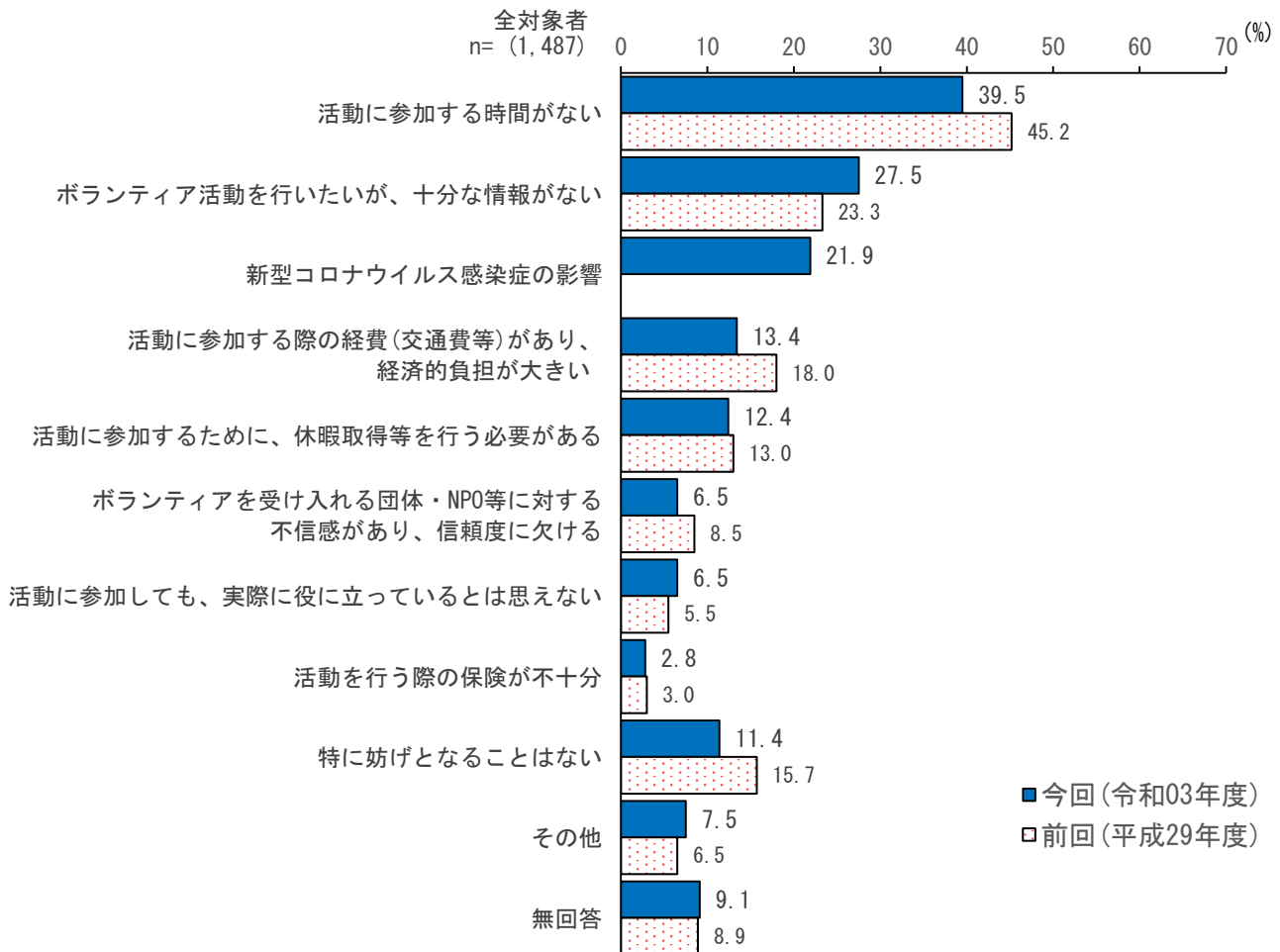


「自己啓発や自らの成長につながると思えるため」を年齢別でみると、80歳以上（40.6%）や30歳代（36.1%）、50歳代（36.1%）などで高くなっている。また、「困っている人を支援したいという気持ち」は、50歳代（41.7%）や80歳以上（37.5%）で高く、「職業人や住民としての責務を果たすため」は、50歳代（31.5%）や40歳代（29.9%）などで割合が高くなっている。

(6) ボランティア活動に参加することに妨げとなること

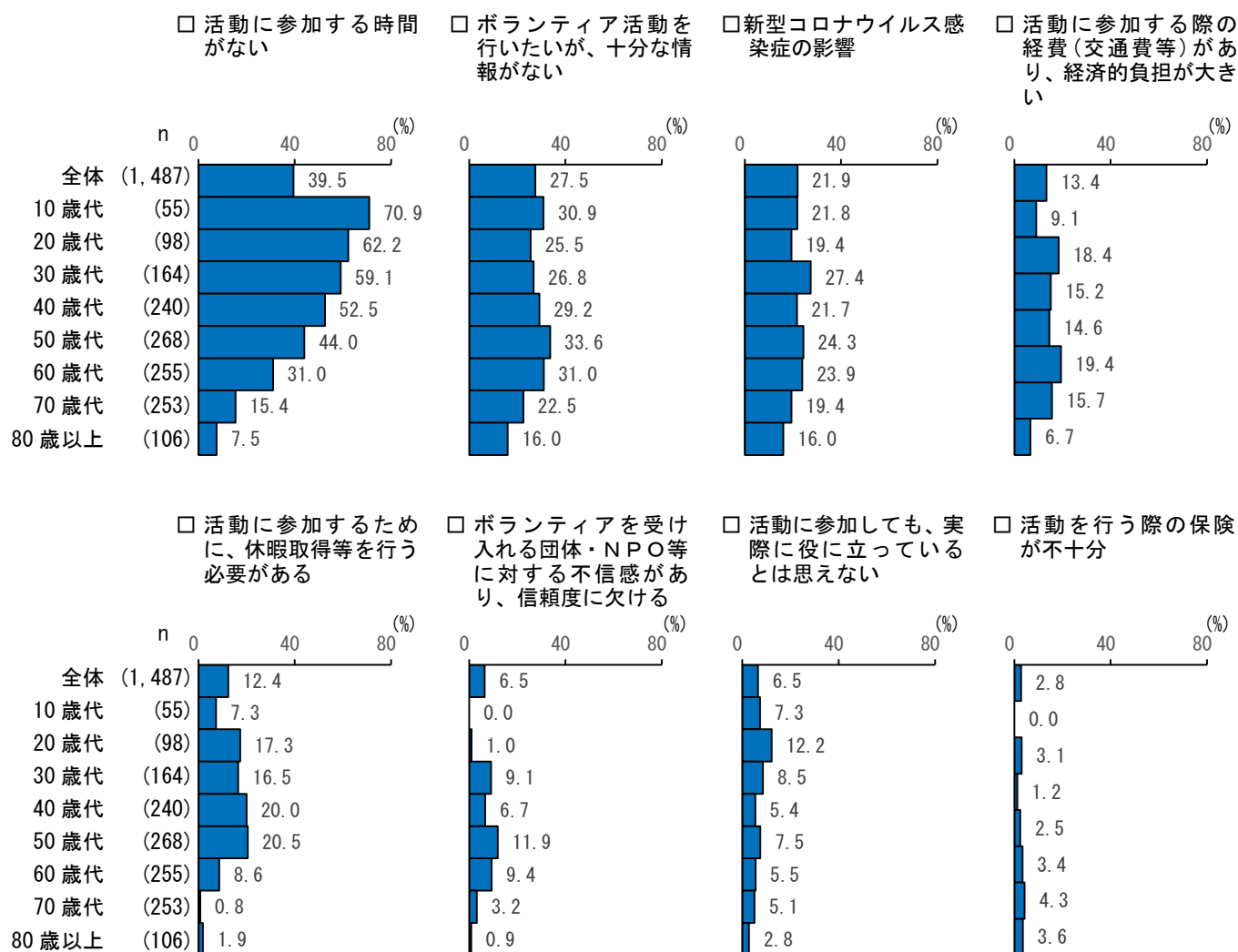
問3-6 ボランティア活動に参加することに妨げとなることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表64：ボランティア活動に参加することに妨げとなること】



ボランティア活動に参加することに妨げとなることについては、「活動に参加する時間がない」が39.5%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」(27.5%)、「新型コロナウイルス感染症の影響」(21.9%)の順となっている。

【図表65：年齢別／ボランティア活動に参加することに妨げとなること】上位8項目

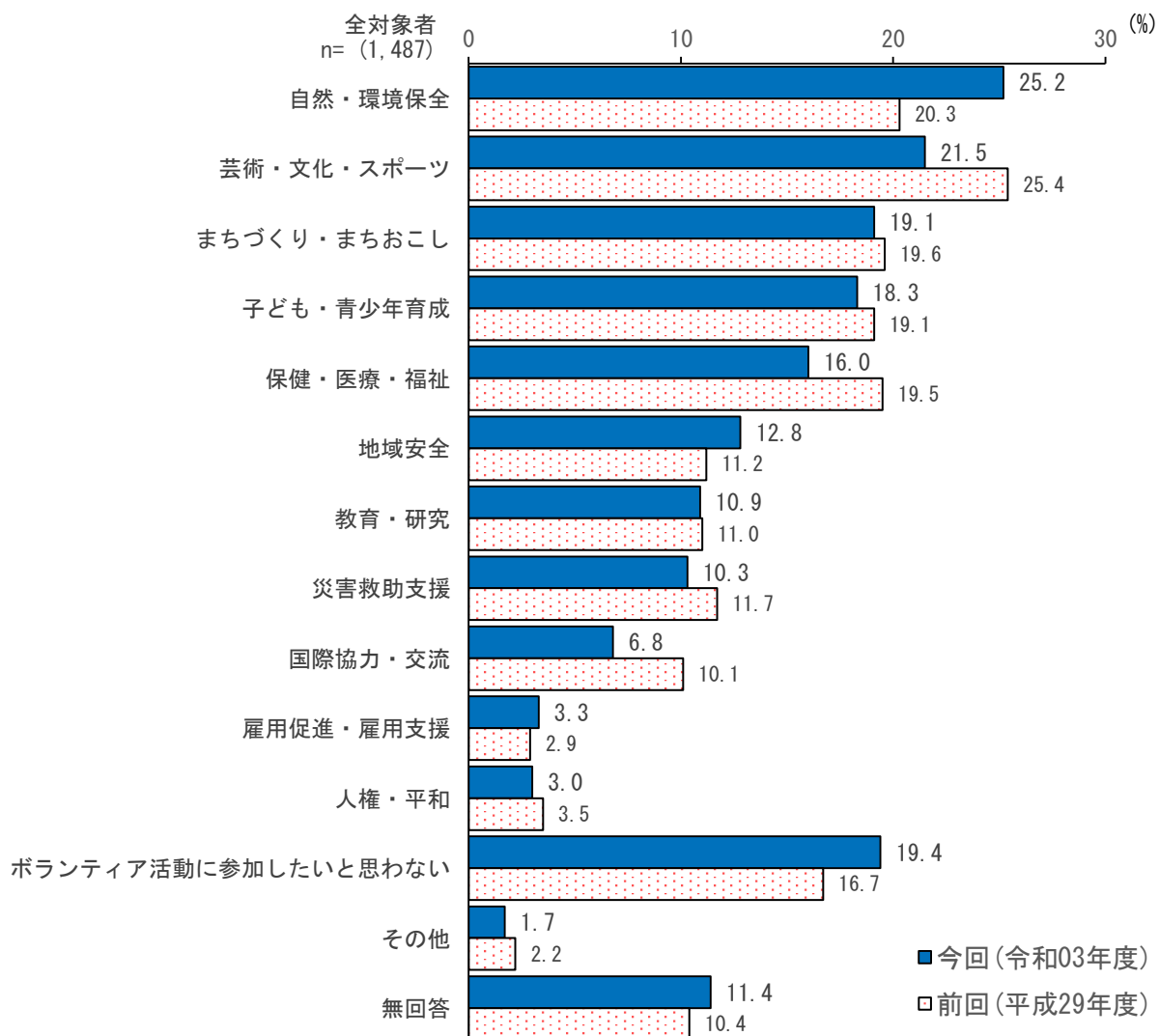


「活動に参加する時間がない」を年齢別で見ると、10歳代が70.9%と最も高く、年齢が高くなるほど割合が下がっている。「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」は、50歳代が33.6%と最も高く、次いで、60歳代(31.0%)、10歳代(30.9%)、40歳代(29.2%)などが3割前後となっている。「新型コロナウイルス感染症の影響」は、30歳代が27.4%と最も高く、次いで、50歳代(24.3%)、60歳代(23.9%)などの割合が高くなっている。

(7) 今後参加したいボランティア活動の分野

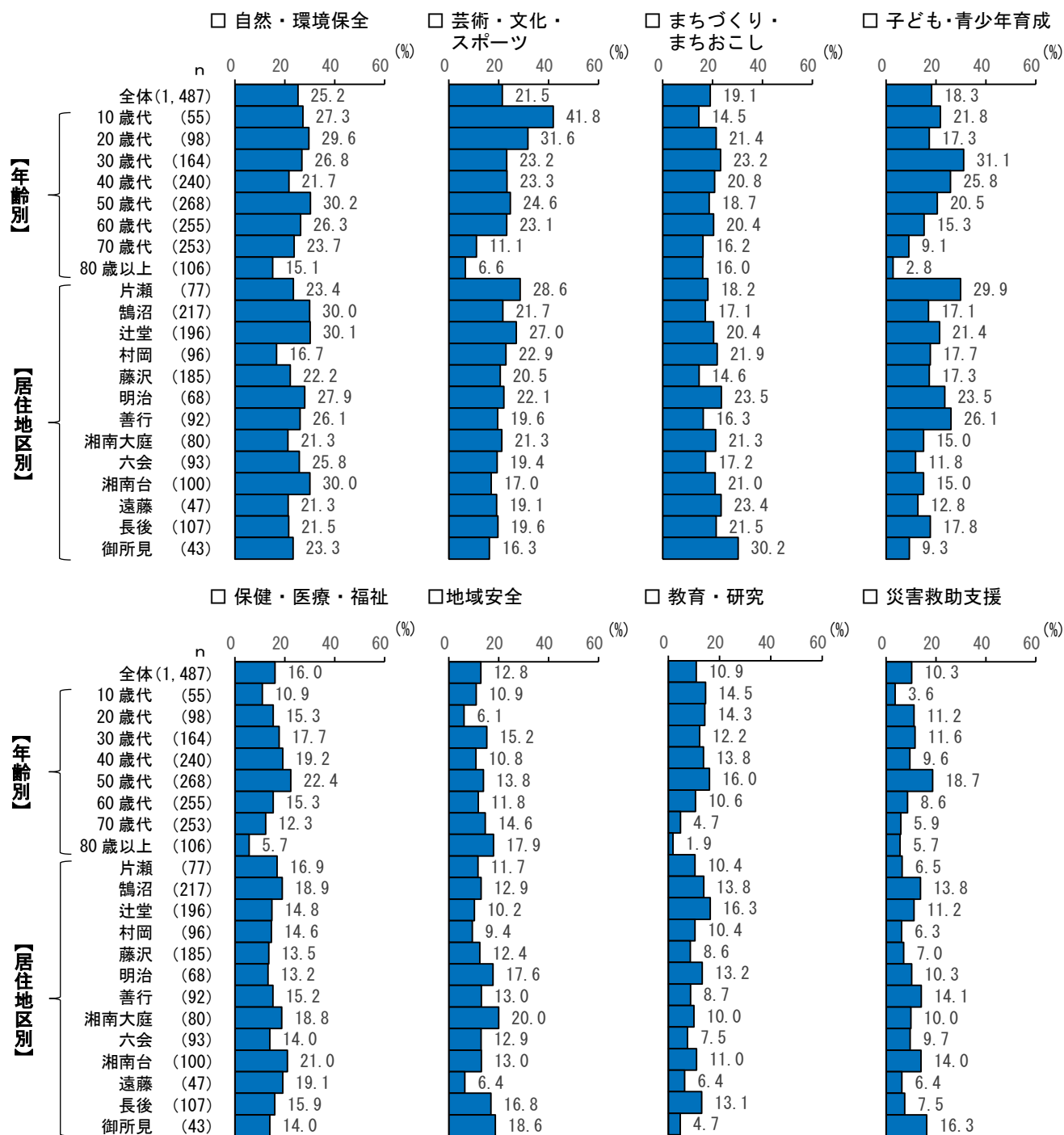
問3-7 あなたが今後参加したいボランティア活動の分野を選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

【図表66：今後参加したいボランティア活動の分野】



今後参加したいボランティア活動については、「自然・環境保全」が25.2%と最も高く、次いで、「芸術・文化・スポーツ」(21.5%)、「まちづくり・まちおこし」(19.1%)、「子ども・青少年育成」(18.3%)、「保健・医療・福祉」(16.0%)の順となっている。

【図表67：年齢別・居住地区別／今後参加したいボランティア活動の分野】上位8項目



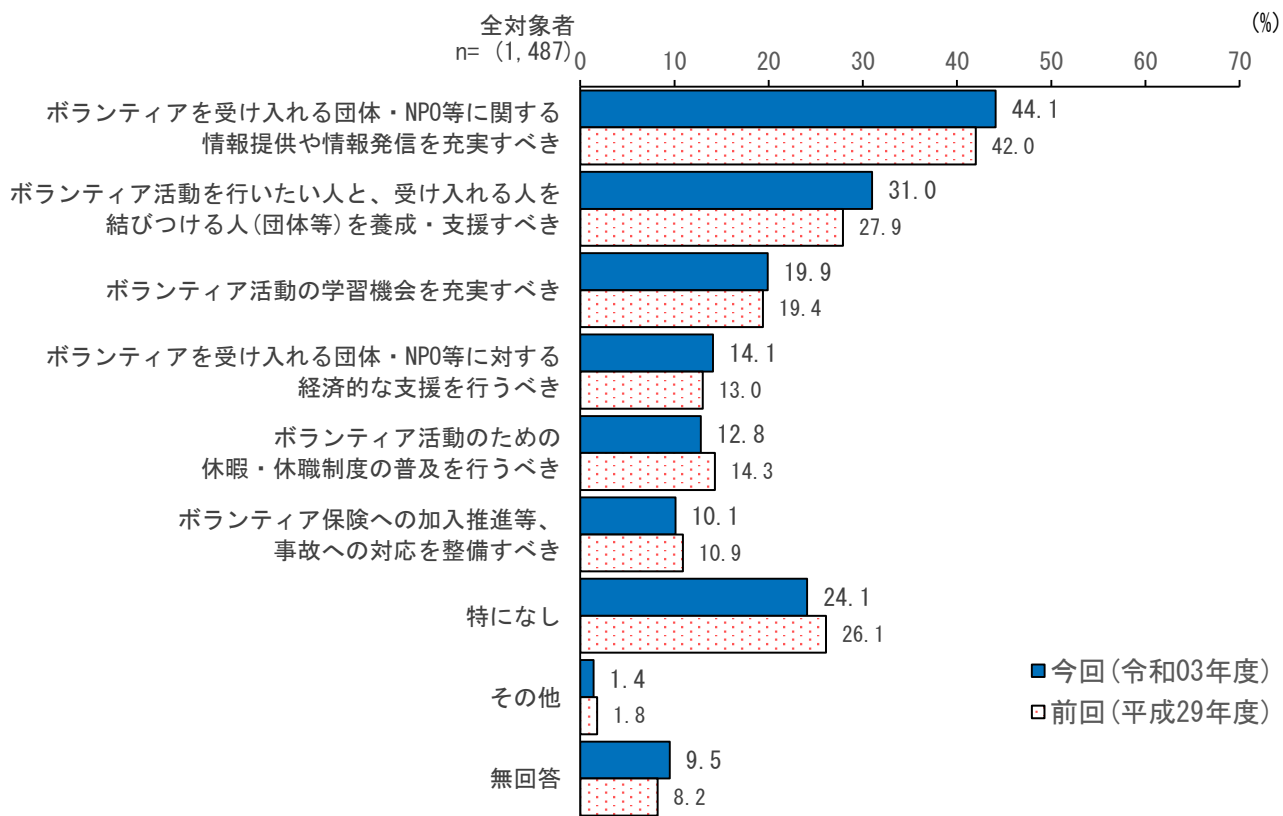
「自然・環境保全」を年齢別で見ると、50歳代（30.2%）が最も高く、次いで、20歳代（29.6%）、10歳代（27.3%）の順で高くなっている。「芸術・文化・スポーツ」は、10歳代（41.8%）が最も高く、次いで20歳代（31.6%）の割合が高くなっている。

「自然・環境保全」を居住地区別にみると、辻堂（30.1%）、鶴沼（30.0%）、湘南台（30.0%）がほぼ同程度の割合で高くなっている。「芸術・文化・スポーツ」では片瀬（28.6%）、辻堂（27.0%）が3割近い割合で高くなっている。

(8) ボランティア活動について市に望むこと

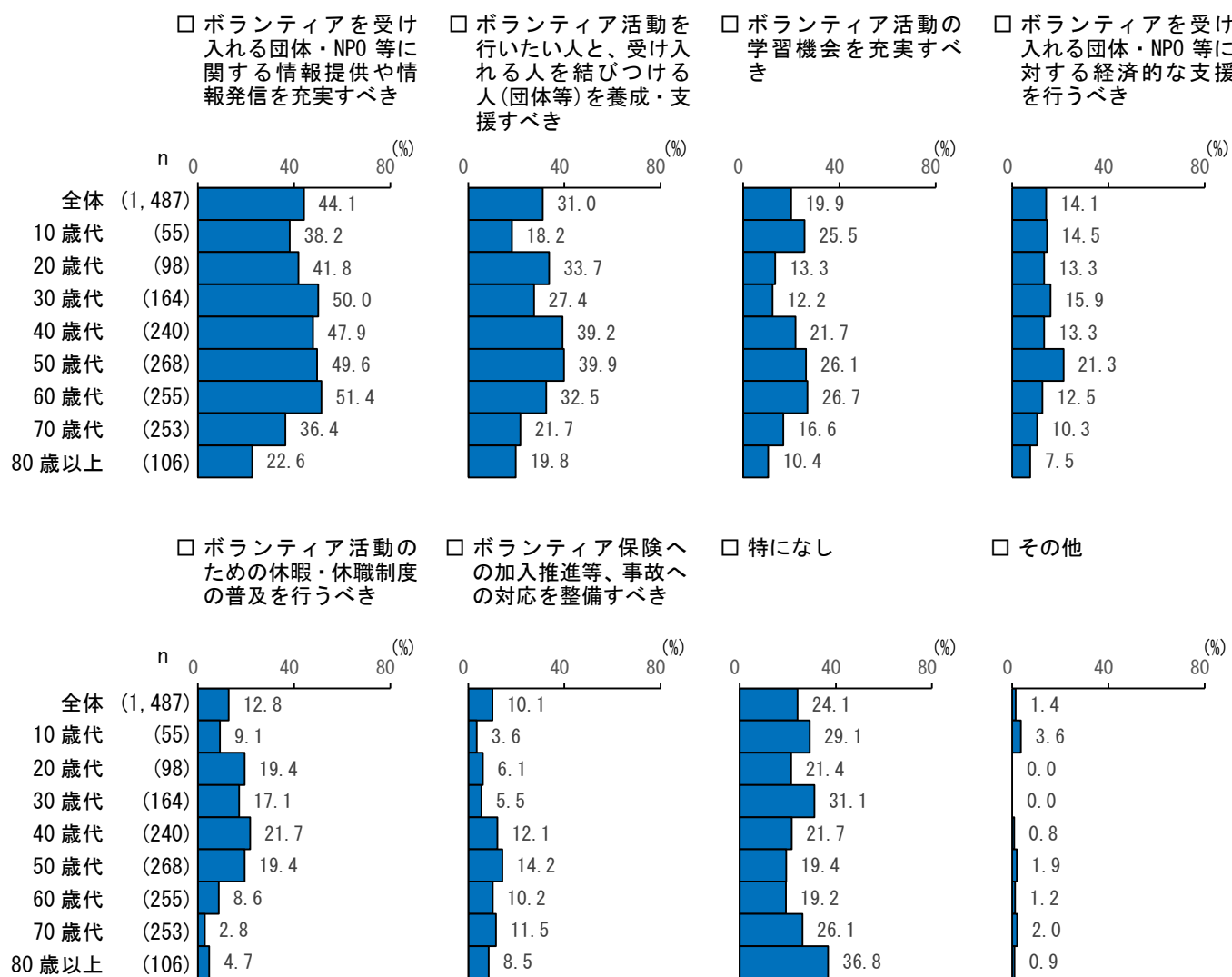
問3-8 ボランティア活動について、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表68：ボランティア活動について市に望むこと】



ボランティア活動について市に望むことについては、「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が44.1%と最も高くなっている。次いで、「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(31.0%)、「ボランティア活動の学習機会を充実すべき」(19.9%)の順となっている。

【図表69：年齢別／ボランティア活動について市に望むこと】上位8項目



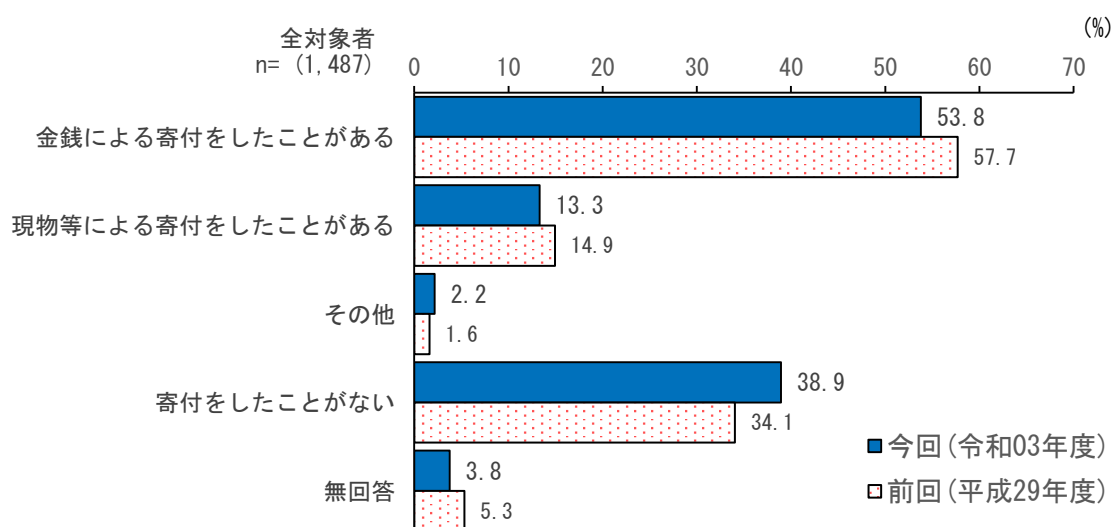
「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別で見ると、60歳代が51.4%と最も高く、次いで、30歳代(50.0%)、50歳代(49.6%)、40歳代(47.9%)の割合が高くなっている。「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」は、50歳代が39.9%と最も高く、40歳代(39.2%)と20歳代(33.7%)、60歳代(32.5%)が3割以上となっている。

5. 寄付について

(1) 寄付経験の有無

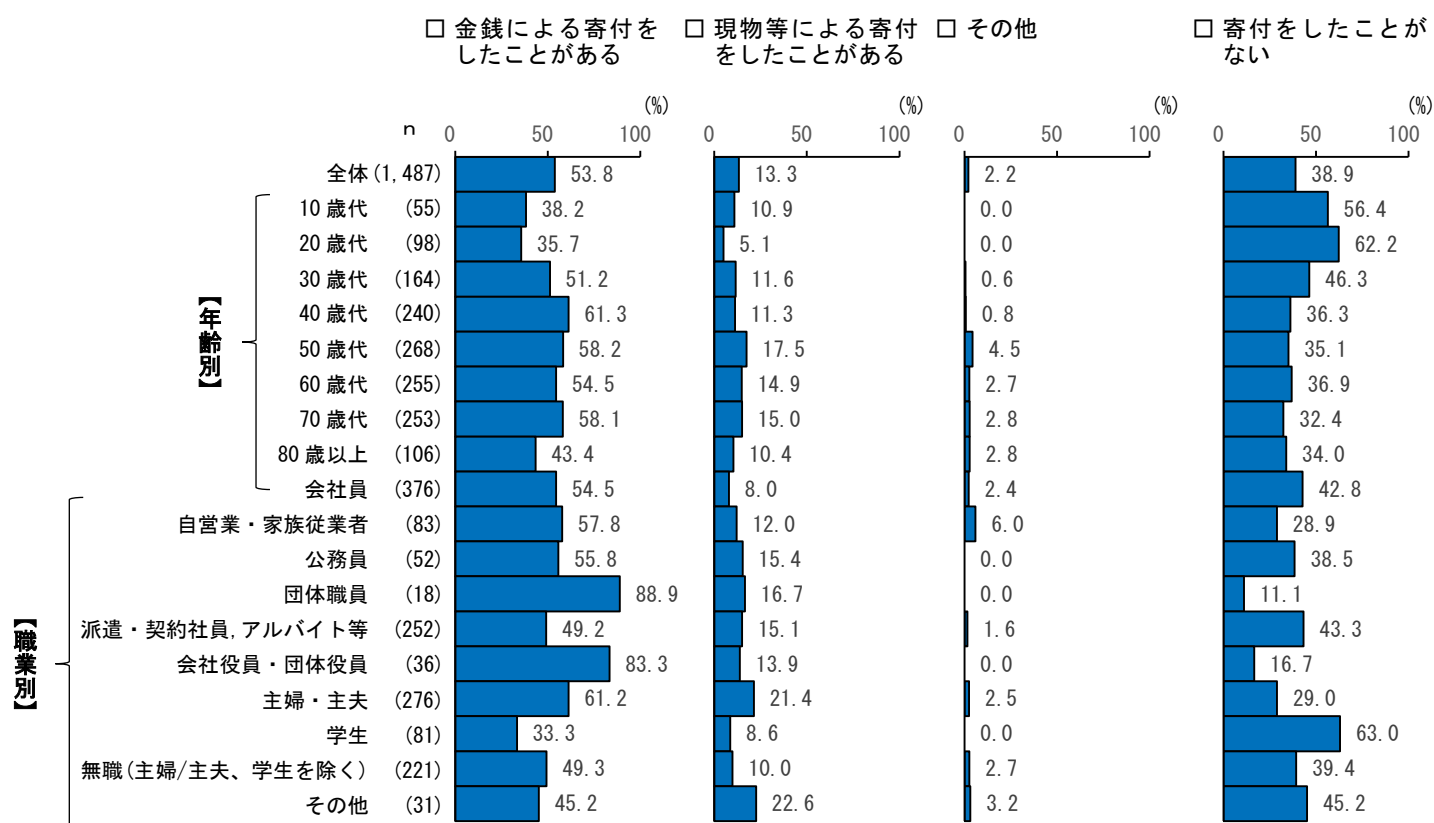
問4-1 あなたは寄付（募金、現物寄付等）をしたことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

【図表70：寄付経験の有無】



寄付経験の有無については、「金銭による寄付をしたことがある」が53.8%で、前回調査（平成29年度）の57.7%より3.9ポイント減っている。また、「現物等による寄付をしたことがある」は13.3%で、こちらは前回調査（平成29年度）の14.9%とほぼ変わらない。

【図表71：年齢別・職業別／寄付経験の有無】

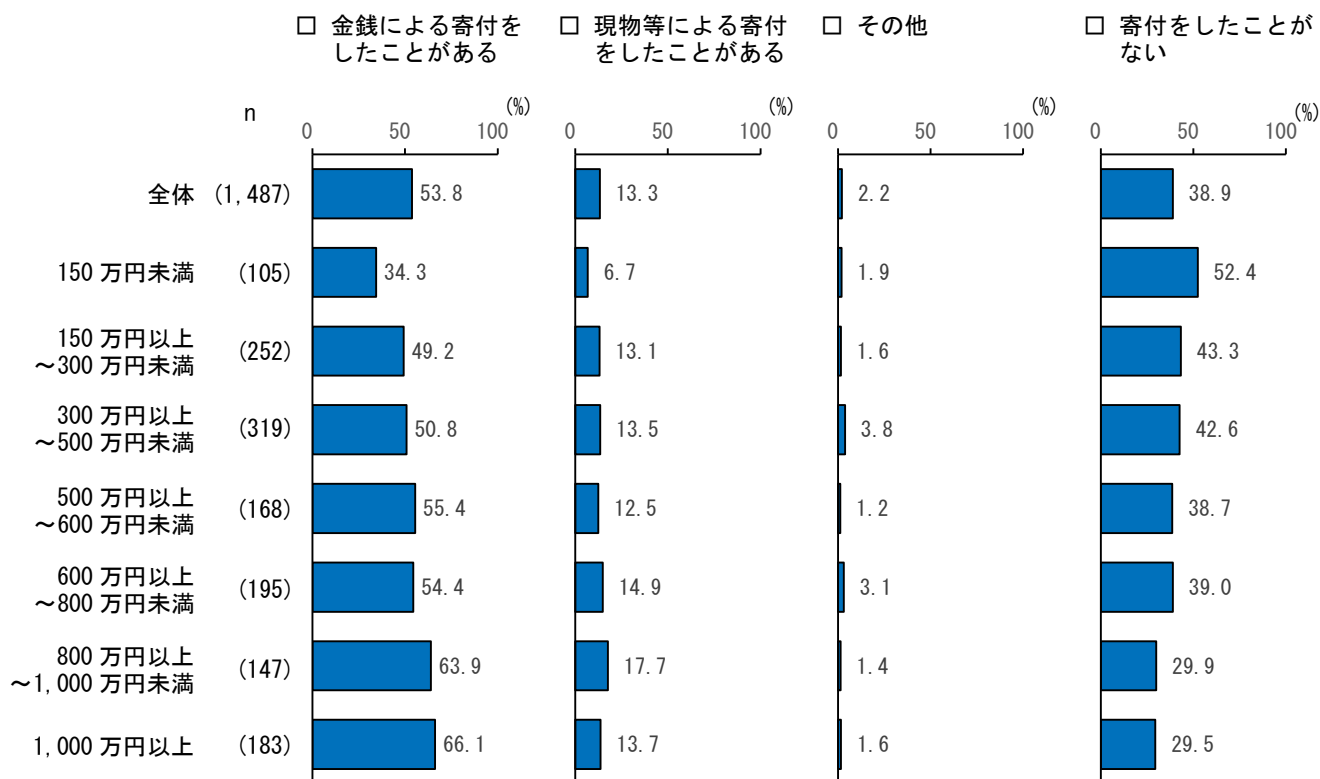


「金銭による寄付をしたことがある」割合を年齢別にみると、40歳代が61.3%と最も高く、「現物等による寄付をしたことがある」は、50歳代が17.5%と最も高くなっている。

「金銭による寄付をしたことがある」を職業別にみると、「主婦・主夫」(61.2%)は6割を超えて高くなっている。

一方、「寄付をしたことがない」は、10歳代(56.4%)、20歳代(62.2%)、「学生」(63.0%)などの割合が高い。

【図表72：年収区分別／寄付経験の有無】



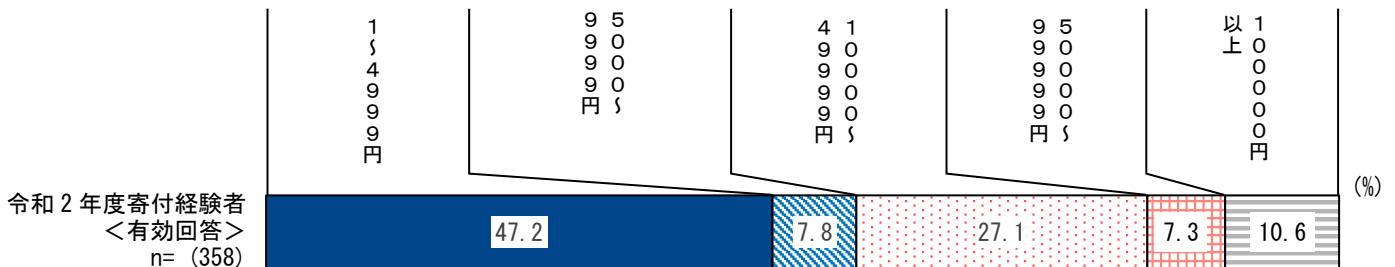
「金銭による寄付をしたことがある」割合を年収区別にみると、「1,000万円以上」が66.1%と最も高く、おおむね年収が上がるにつれ高くなっている。「現物等による寄付をしたことがある」については、「150万円未満」が6.7%と他の年収区分に比べ低くなっている。

(2) 令和2年度に寄付した金額、回数、現物を寄付した回数

【問4-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きます】

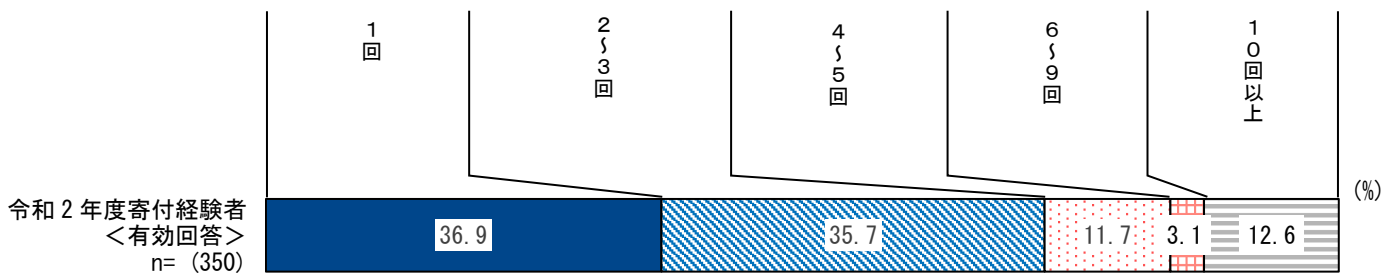
問4-2 令和2年度（令和2年4月~令和3年3月）に寄付をした金額（金銭による寄付のみ）、金銭による寄付をした回数、現物等による寄付をした回数をご記入ください。

【図表73：個人の年間寄付金額】



個人の年間寄付金額は、「1~4,999円」が47.2%と最も高く、次いで「10,000~49,999円」(27.1%)、「5,000~9,999円」(7.8%)、「50,000~99,999円」(7.3%)、「100,000円以上」(10.6%)となっている。なお、寄付額の平均は32,176円となっている。

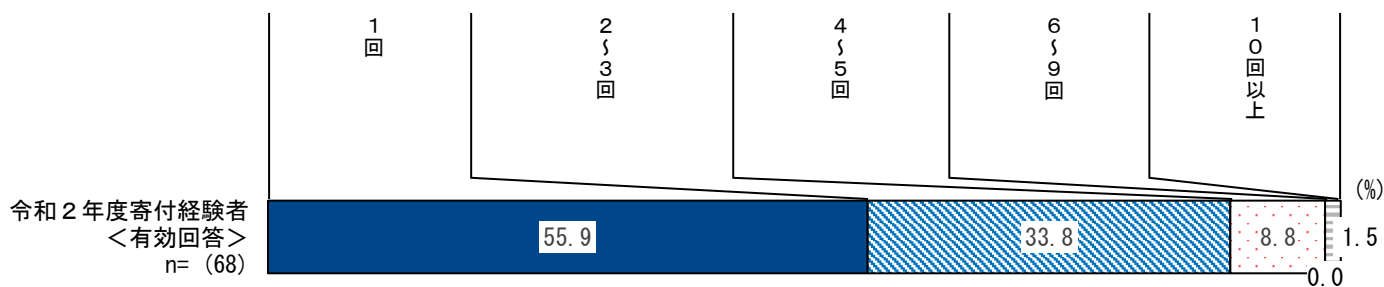
【図表74：個人の年間金銭寄付回数】



個人の年間金銭寄付回数については、「1回」が36.9%と最も高く、次いで「2~3回」(35.7%)、「10回以上」(12.6%)、「4~5回」(11.7%)、「6~9回」(3.1%)となっている。なお、寄付回数の平均は3.5回となっている。

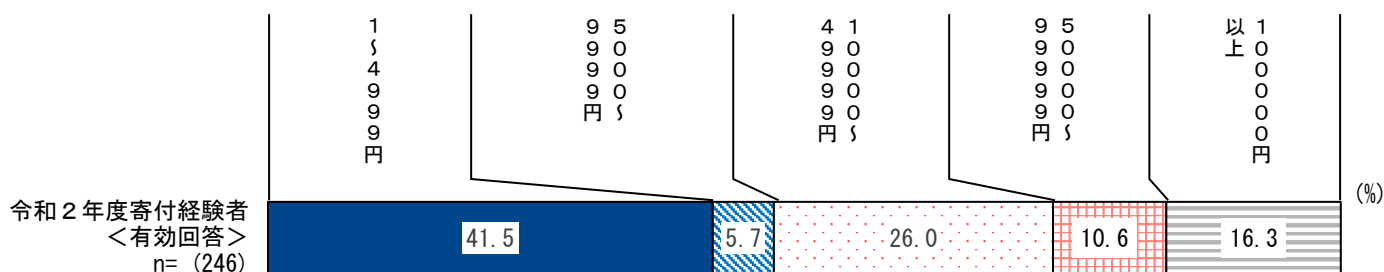
第2章 調査結果の詳細

【図表75：個人の年間現物等寄付回数】



年間現物等寄付回数については、「1回」が55.9%と最も高く、次いで「2～3回」(33.8%)、「4～5回」(8.8%)、「10回以上」(1.5%)、「6～9回」(0.0%)となっている。

【図表76：世帯全体の年間寄付金額】



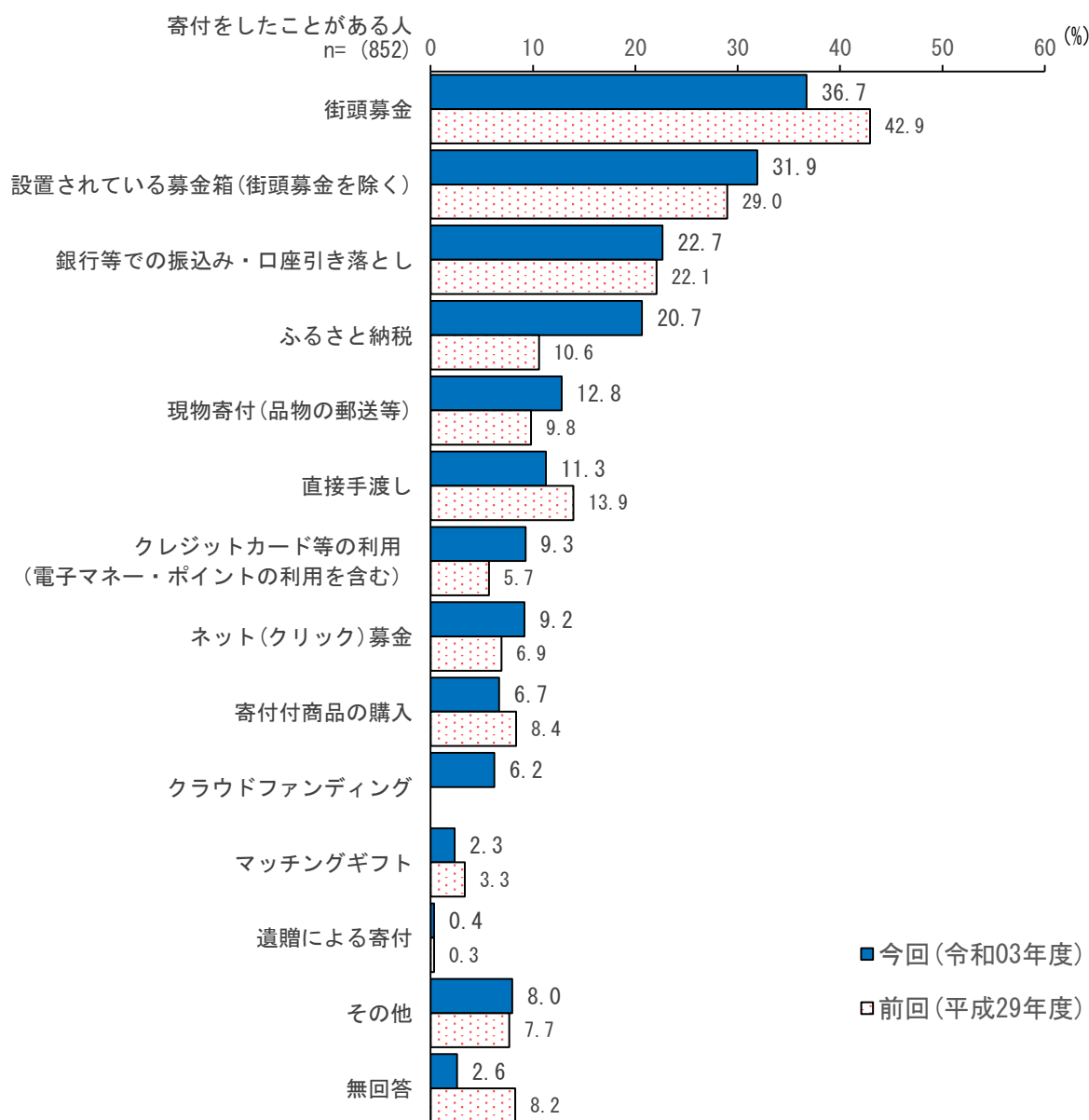
世帯全体の年間の寄付金額は、「1～4,999円」が41.5%と最も高く、次いで「10,000～49,999円」(26.0%)、「100,000円以上」(16.3%)、「50,000～99,999円」(10.6%)、「5,000～9,999円」(5.7%)となっている。

(3) 寄付を行った方法

【問4-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

問4-3 あなたが、寄付を行った方法は何かですか。(あてはまるものすべてに○)

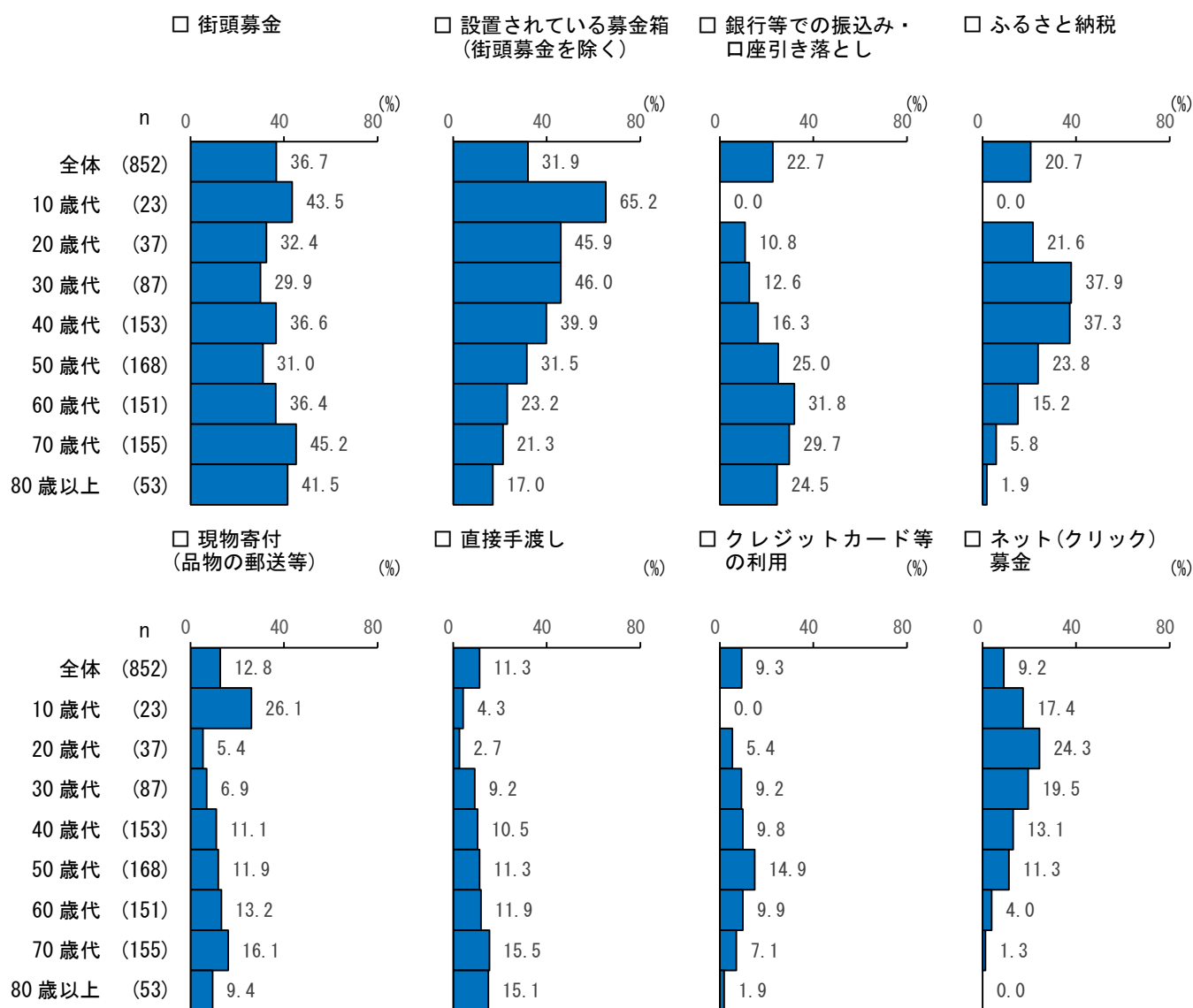
【図表77：寄付を行った方法】



寄付を行った方法については、「街頭募金」が36.7%と最も高く、次いで、「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」(31.9%)、「銀行等での振込み・口座引き落とし」(22.7%)の順となっている。

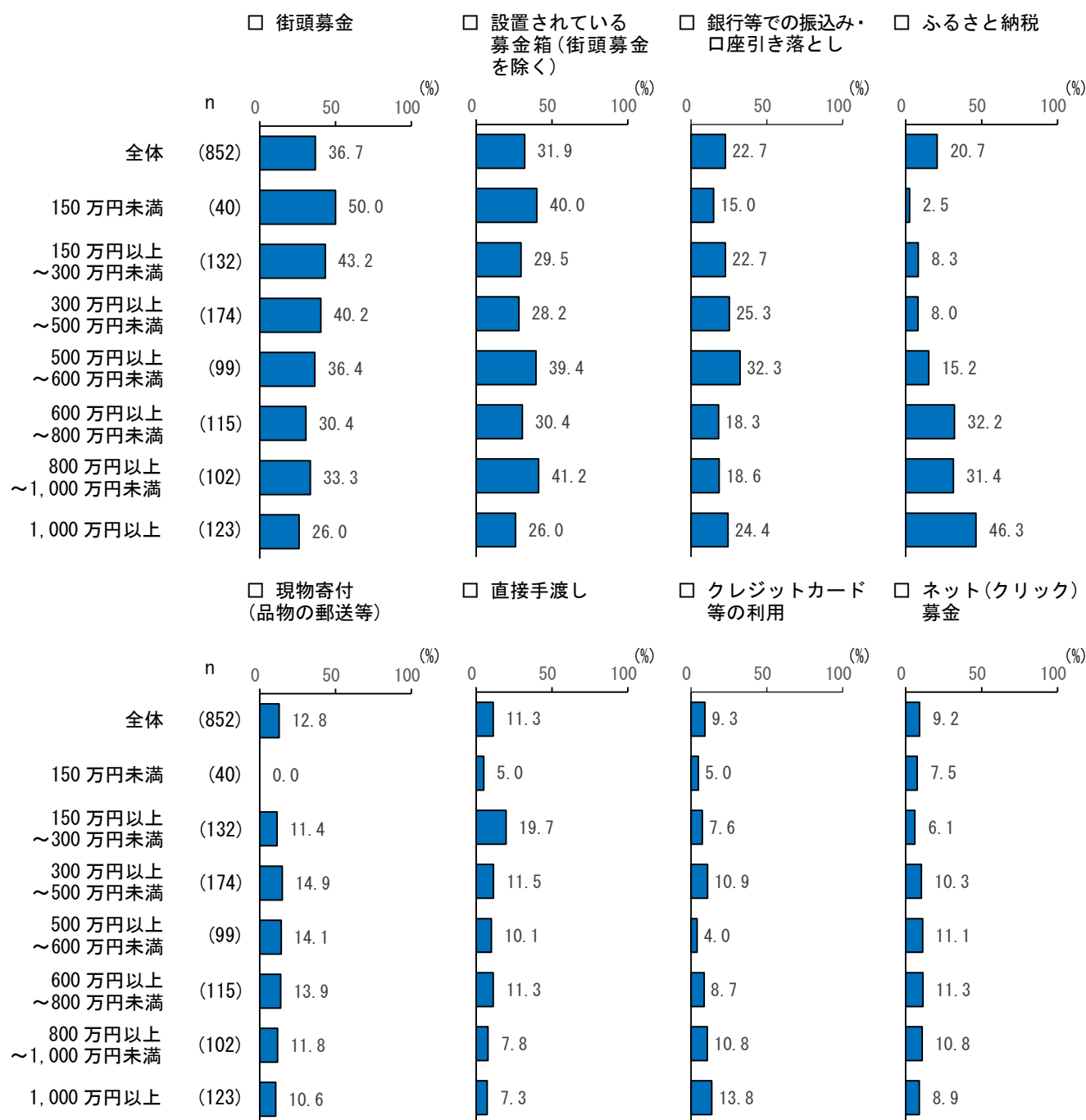
前回調査(平成29年度)と比べると、「街頭募金」「直接手渡し」の割合が減り、「ふるさと納税」「クレジットカード等の利用(電子マネー・ポイントの利用を含む)」が増えている。

【図表78：年齢別／寄付を行った方法】上位8項目



「街頭募金」を年代別にみると、70歳代（45.2%）および80歳以上（41.5%）で4割以上となっている。「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」は、30歳代で46.0%となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。一方、「銀行等での振込み・口座引き落とし」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高くなっており、60歳代が31.8%と最も高い。

【図表79：年収区分別／寄付を行った方法】上位8項目



「街頭募金」を年収区分別にみると、「150万円未満」(50.0%)が最も高く、次いで「150万円以上～300万円未満」(43.2%)、「300万円以上～500万円未満」(40.2%)が4割以上となっている。

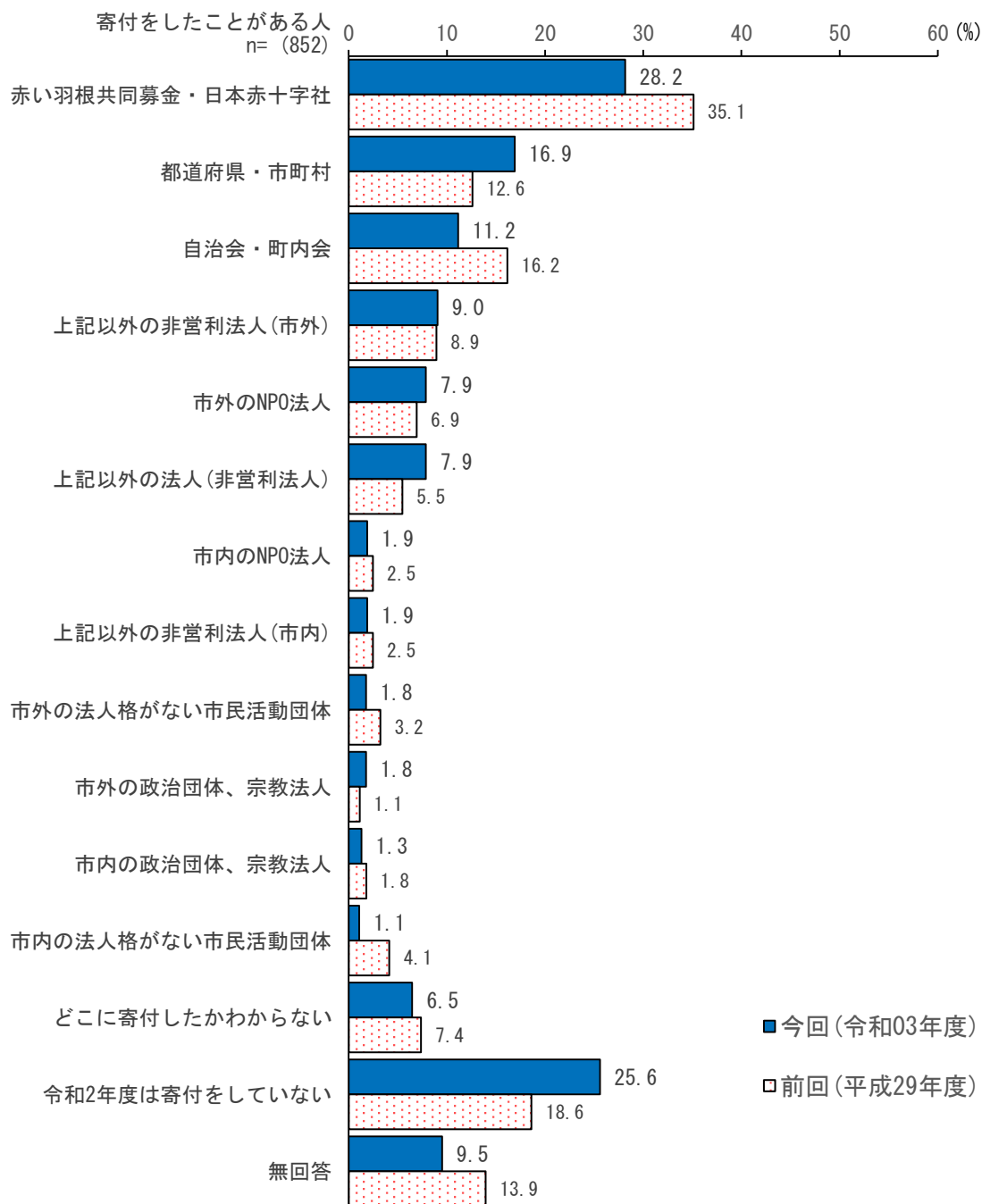
「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」は、「800万円以上～1,000万円未満」(41.2%)、「150万円未満」(40.0%)、「500万円以上～600万円未満」(39.4%)の割合が高い。

「銀行等での振込み・口座引き落とし」は、「500万円以上～600万円未満」が32.3%と最も高くなっている。

(4) 令和2年度に寄付をした団体

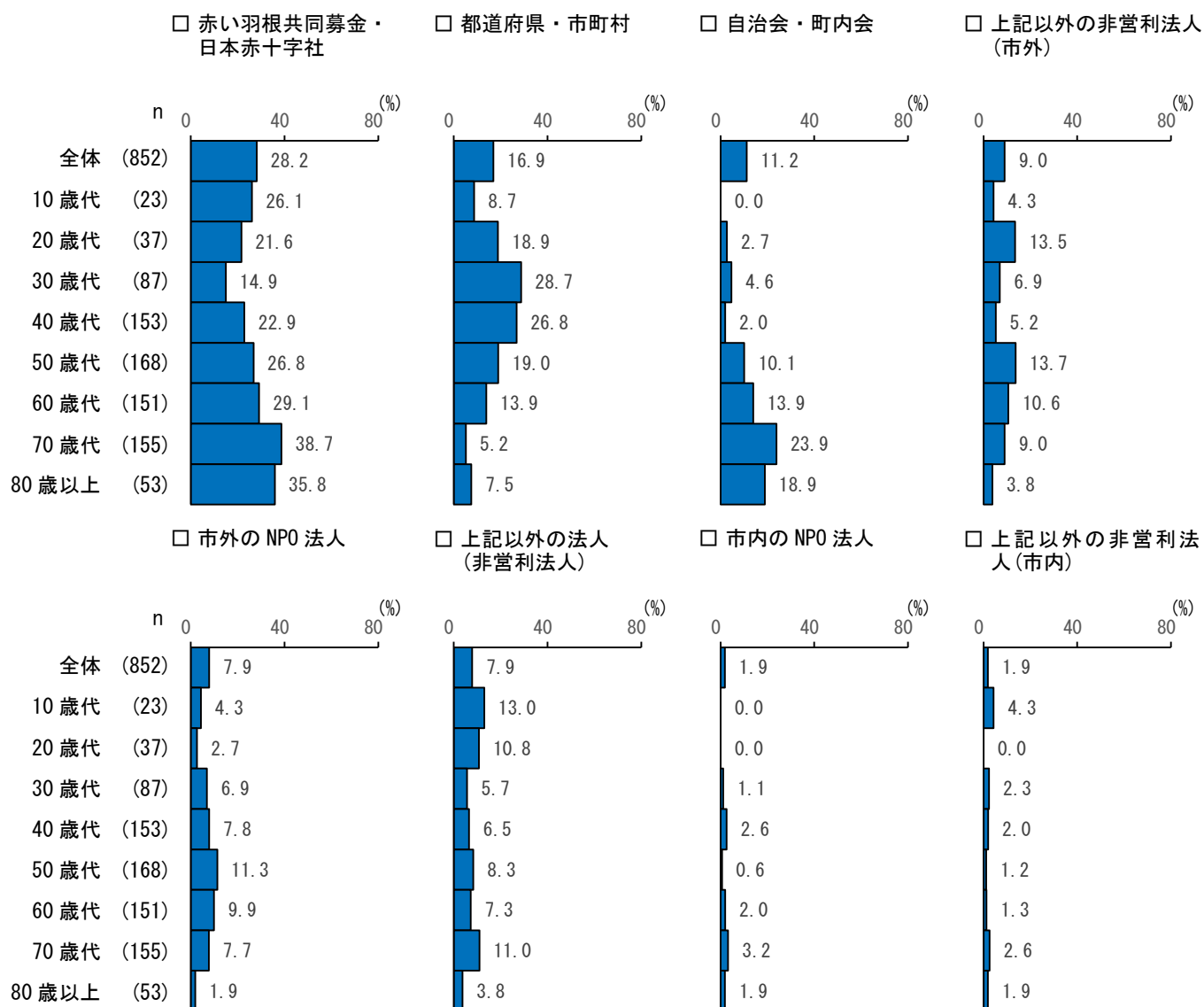
【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-4 あなたが、令和2年度（令和2年4月～令和3年3月）に寄付をした団体はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表80：令和2年度に寄付をした団体】



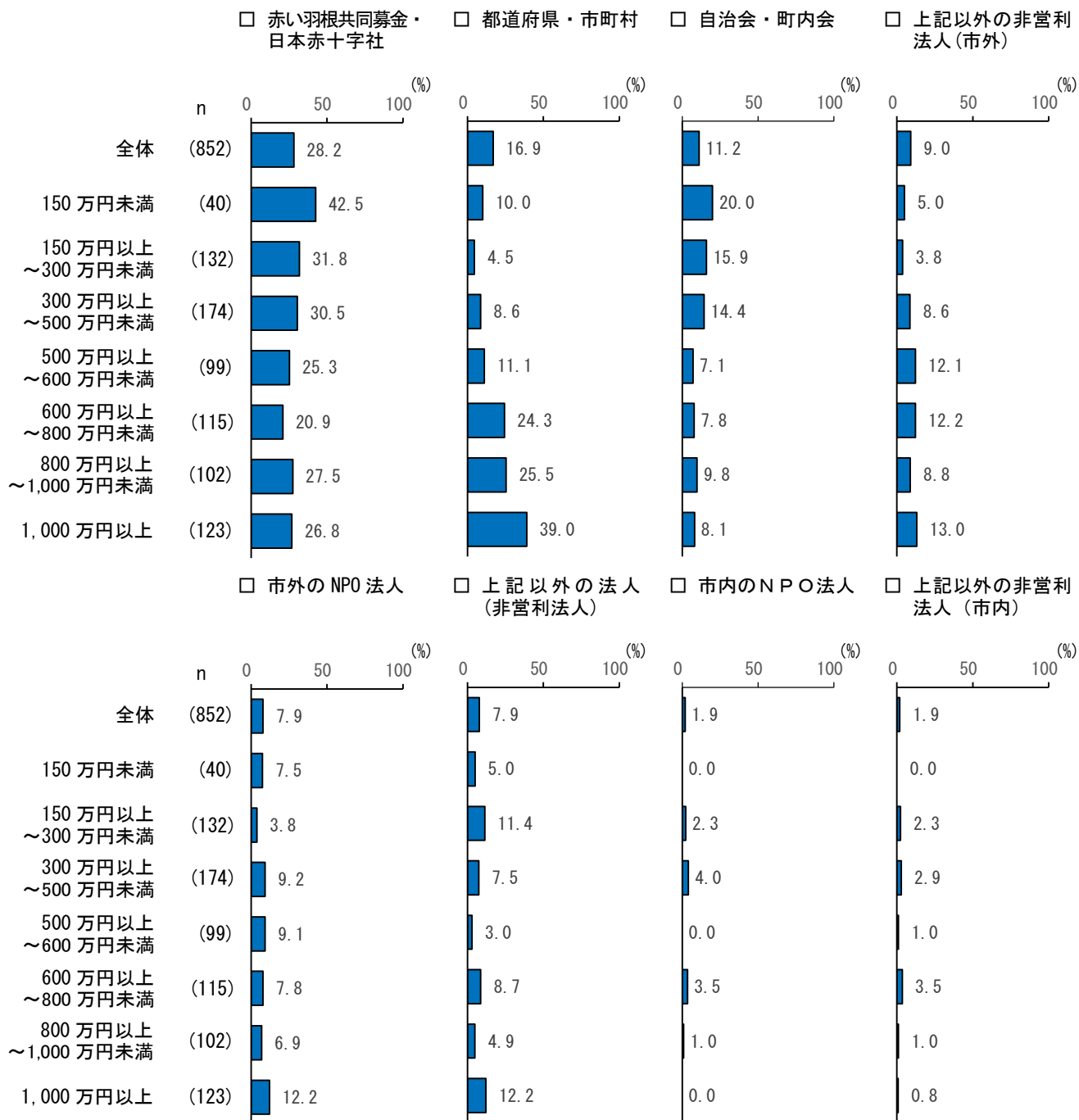
令和2年度に寄付をした団体については、「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」が28.2%と最も高く、次いで、「都道府県・市町村」(16.9%)、「自治会・町内会」(11.2%)の順となっている。

【図表 8 1 : 年齢別／令和 2 年度に寄付をした団体】上位 8 項目



「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」を年代別にみると、70歳代が38.7%と最も高く、次いで、80歳以上(35.8%)、60歳代(29.1%)となっている。「都道府県・市町村」は、30歳代が28.7%と最も高く、次いで、40歳代(26.8%)、50歳代(19.0%)となっている。「自治会・町内会」は、70歳代(23.9%)および80歳以上(18.9%)で割合が高くなっている。

【図表82：年収区分別／令和2年度に寄付をした団体】上位8項目



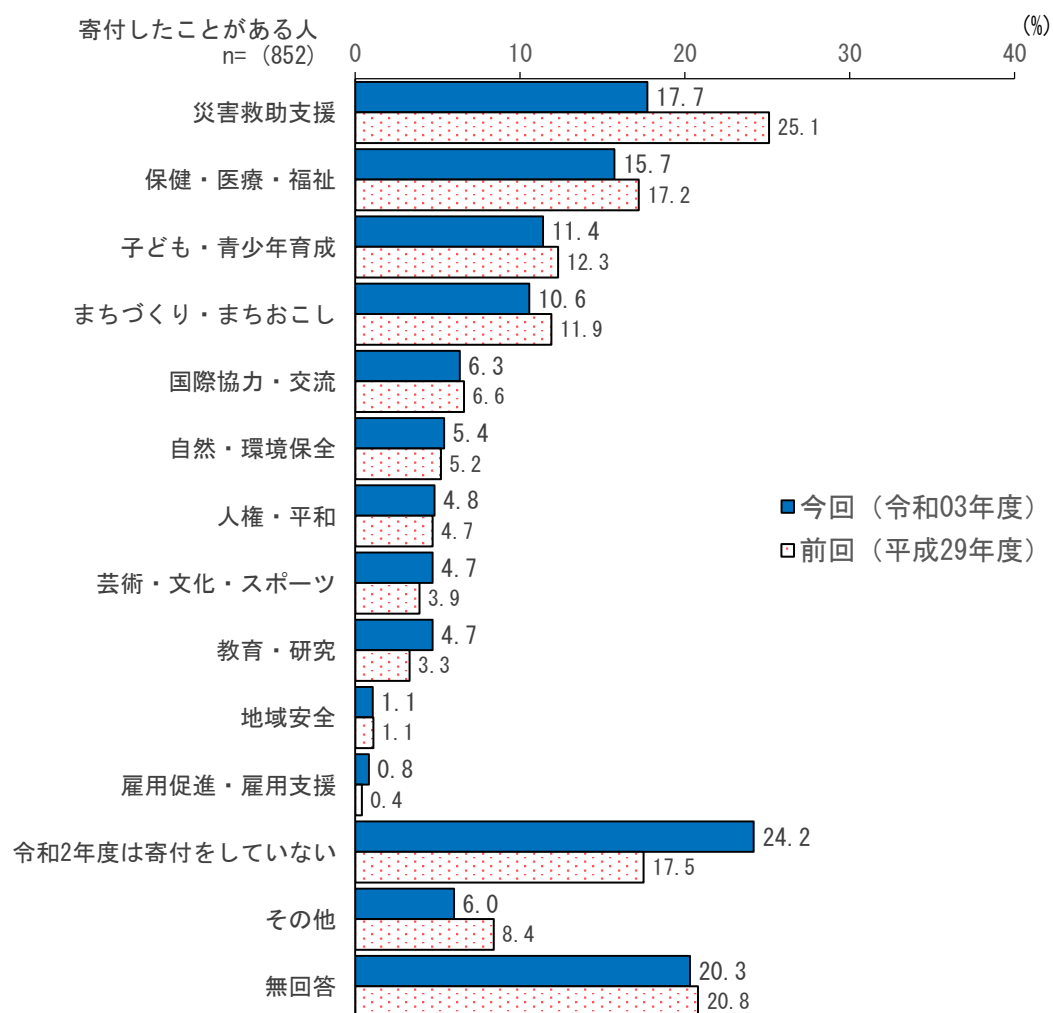
「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」を年収区分別にみると、「150万円未満」(42.5%)が最も高く、次いで「150万円以上～300万円未満」(31.8%)、「300万円以上～500万円未満」(30.5%)で3割を超えている。「都道府県・市町村」は、「1,000万円以上」が39.0%と最も高い一方、「自治会・町内会」では「150万円未満」が20.0%と最も高くなっている。

(5) 令和2年度に寄付をした分野

【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

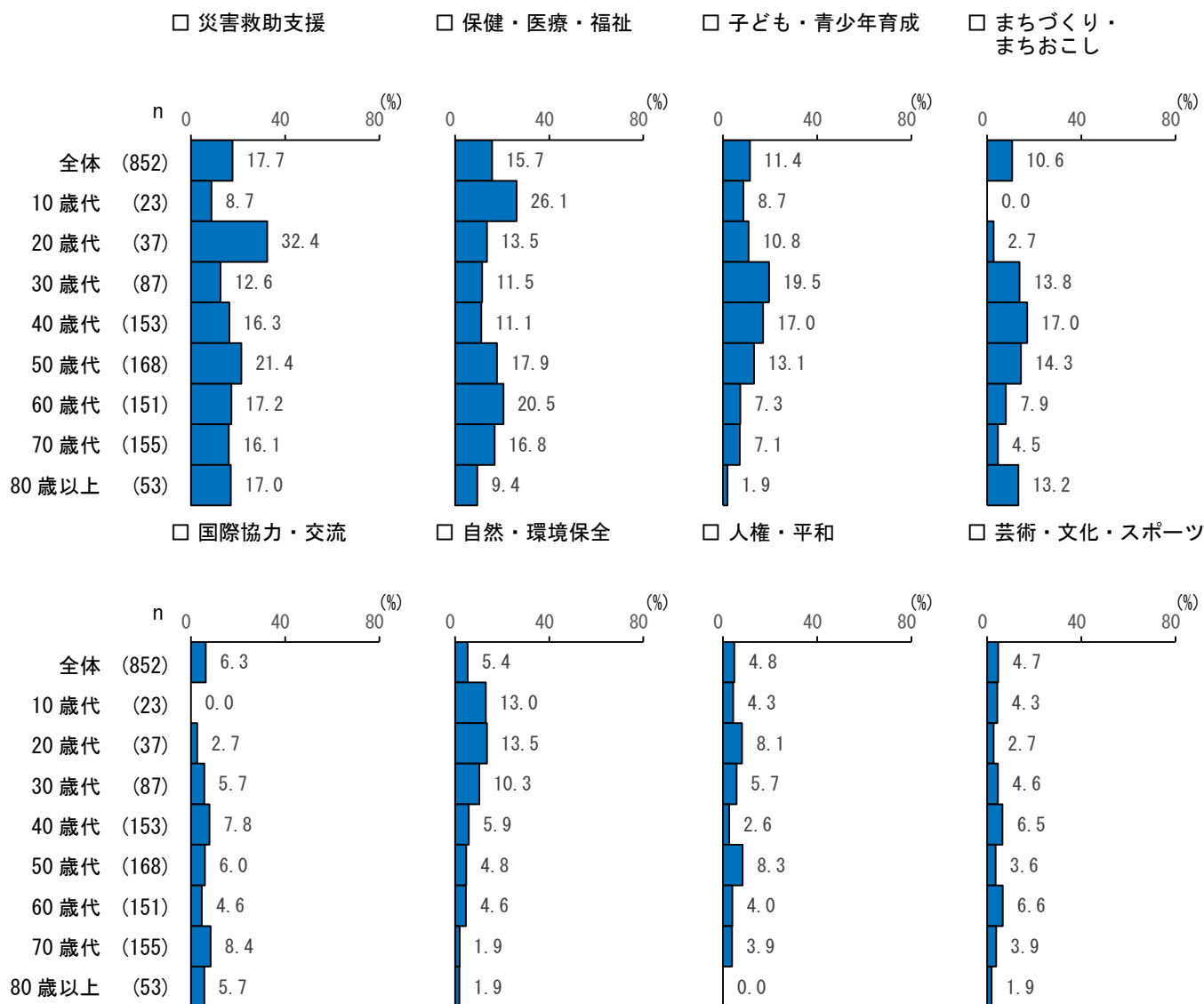
問4-5 あなたが、令和2年度（令和2年4月～令和3年3月）に寄付をした分野はどちらですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表83：令和2年度に寄付をした分野】



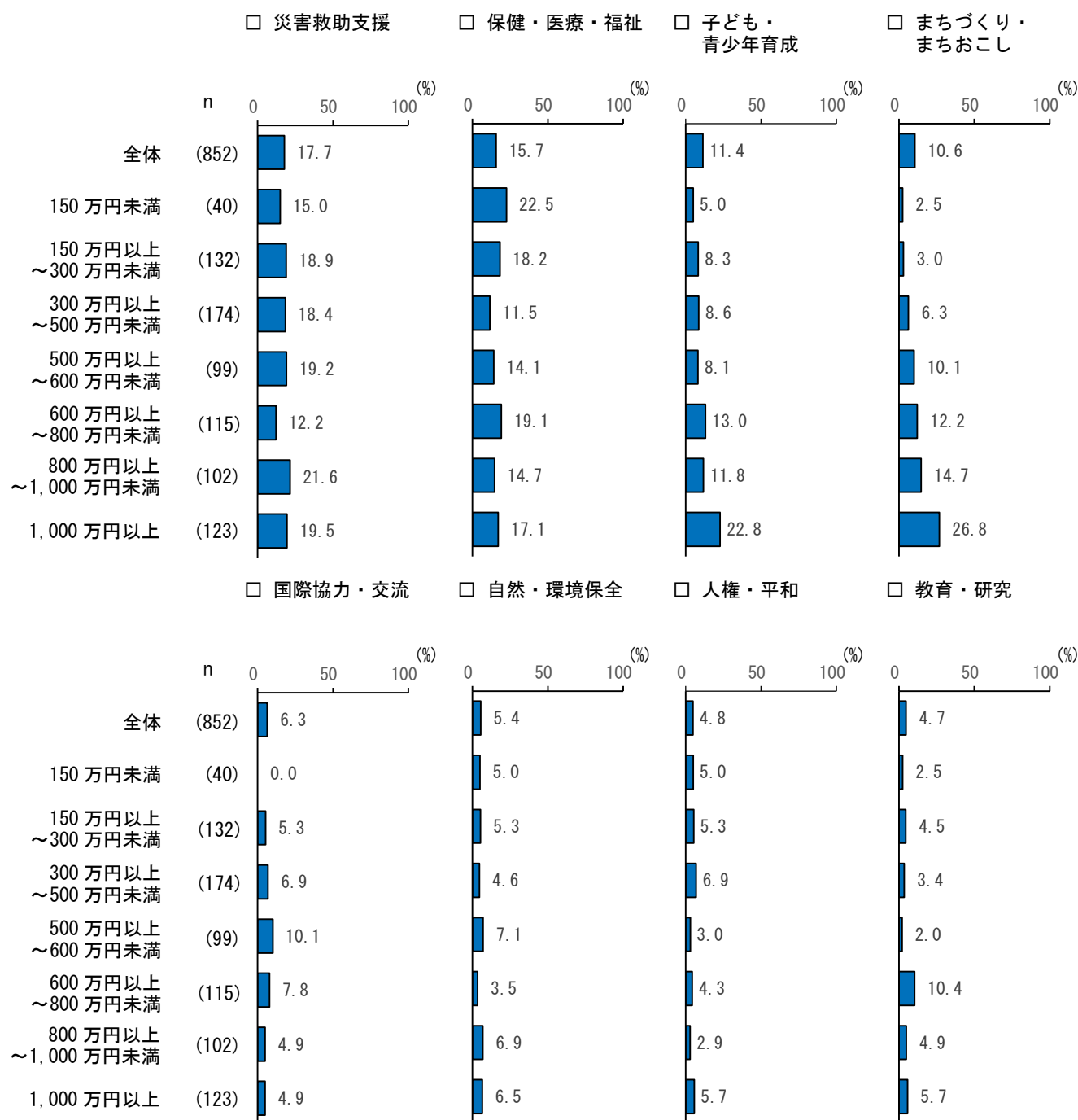
令和2年度に寄付をした分野については、「災害救助支援」が17.7%と最も高く、次いで、「保健・医療・福祉」(15.7%)、「子ども・青少年育成」(11.4%)、「まちづくり・まちおこし」(10.6%)の順となっている。

【図表84：年齢別／令和2年度に寄付をした分野】上位8項目



「災害救助支援」を年代別にみると、30歳代（12.6%）が他の年代に比べてやや低くなっている。「保健・医療・福祉」については、60歳代の割合が20.5%と高く、「子ども・青少年育成」では、30歳代（19.5%）、40歳代（17.0%）、50歳代（13.1%）が他の年代より高くなっている。

【図表85：年収区分別／令和2年度に寄付をした分野】上位8項目



「災害救助支援」を年収区別にみると、「800万円以上～1,000万円未満」が21.6%と最も高く、次いで、「1,000万円以上」(19.5%)、「500万円以上～600万円未満」(19.2%)となっている。

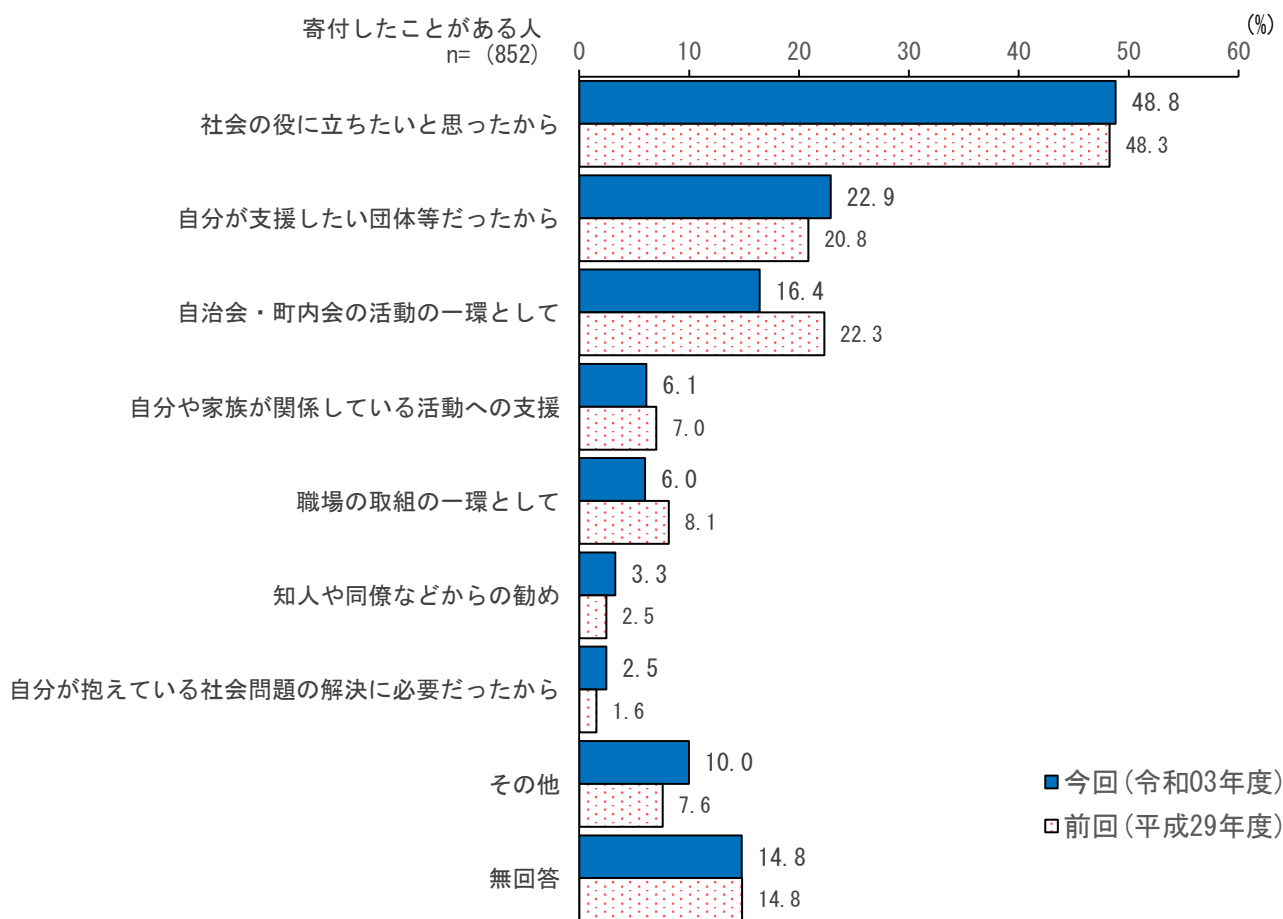
「保健・医療・福祉」では、「150万円未満」(22.5%)や「600万円以上～800万円未満」(19.1%)、「150万円以上～300万円未満」(18.2%)の割合が高くなっている。

「子ども・青少年育成」は、「1,000万円以上」が22.8%と最も高くなっている。

(6) 寄付をした理由

【問4-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-6 あなたが寄付をした理由はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

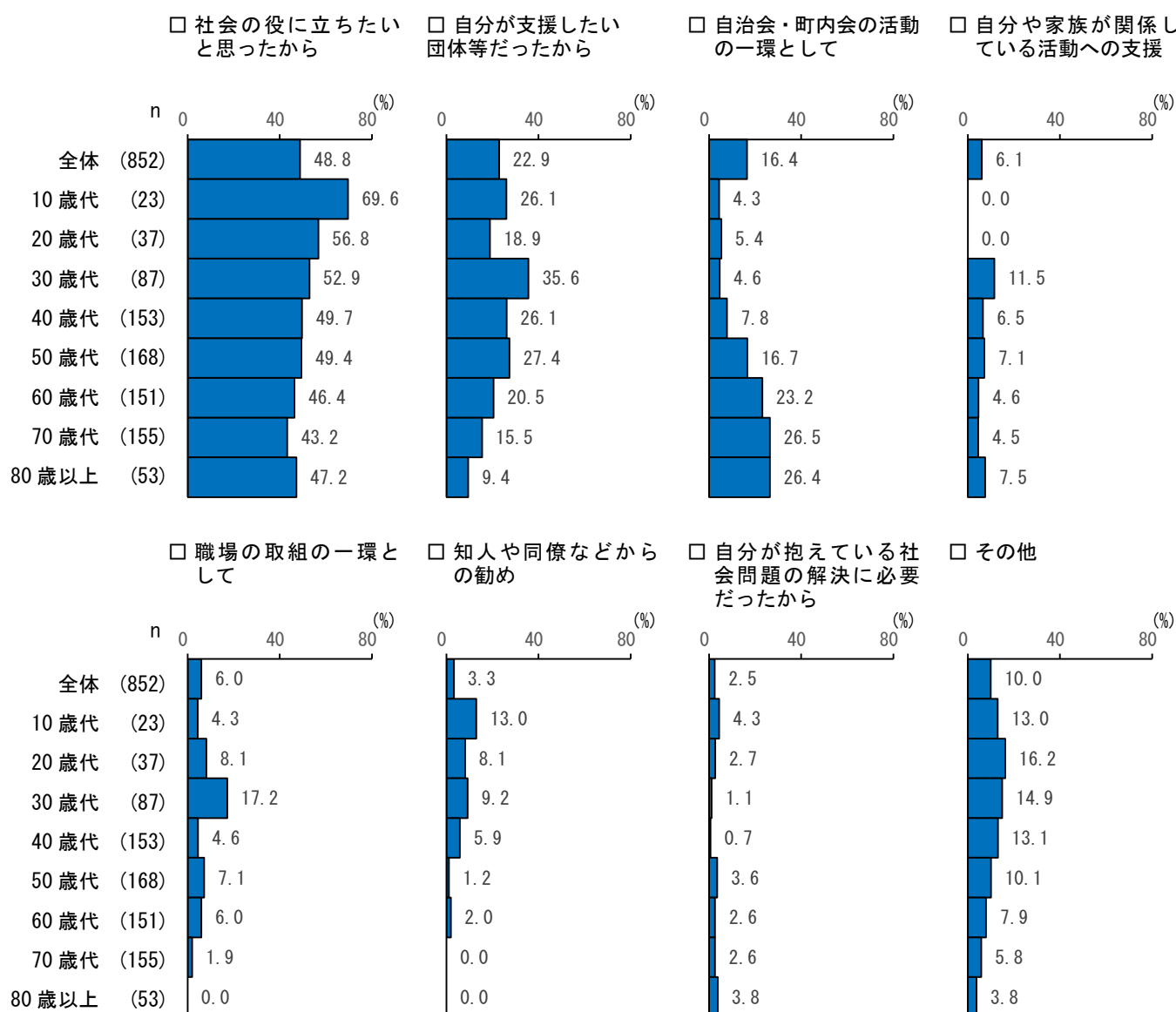
【図表86：寄付をした理由】



寄付をした理由については、「社会の役に立ちたいと思ったから」が48.8%と最も高くなっており、前回調査（平成29年度）の48.3%より0.5ポイント上がっている。

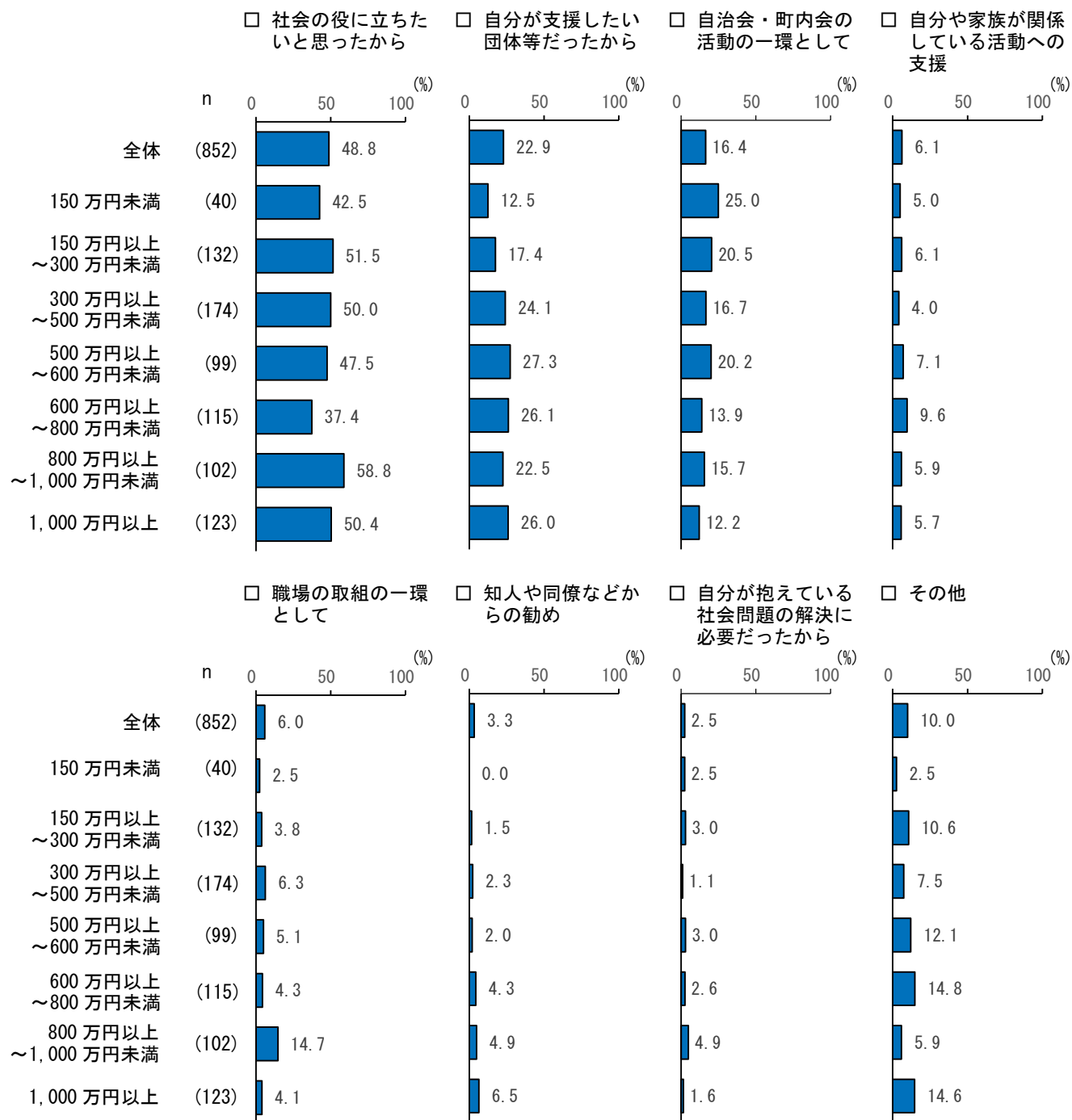
続いて割合が高いのは、「自分が支援したい団体等だったから」（22.9%）、「自治会・町内会の活動の一環として」（16.4%）の順となっている。

【図表87：年齢別／寄付をした理由】



「社会的役に立ちたいと思ったから」を年代別にみると、20歳代（56.8%）と30歳代（52.9%）がほぼ同程度の割合となっている。また、「自分が支援したい団体等だったから」については、30歳代（35.6%）が最も高く3割を超えている。

【図表88：年収区分別／寄付をした理由】



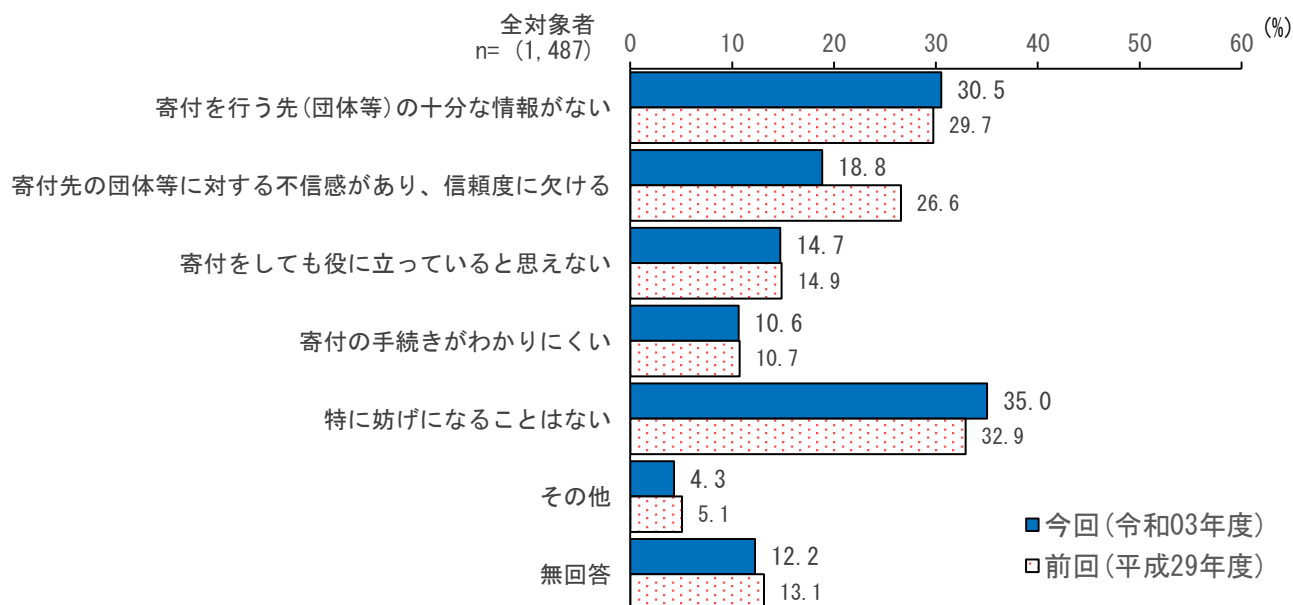
「社会的役に立ちたいと思ったから」を年収区分別にみると、「800万円以上～1,000万円未満」が58.8%と最も高く、一方で他の年収区分と比べて「600万円以上～800万円未満」(37.4%)がやや低くなっている。

「自分が支援したい団体等だったから」では、「500万円以上～600万円未満」(27.3%)や「600万円以上～800万円未満」(26.1%)、「1,000万円未満」(26.0%)の割合が高くなっている。

(7) 寄付をするにあたり妨げとなること

問4-7 あなたが寄付をするにあたり妨げになることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

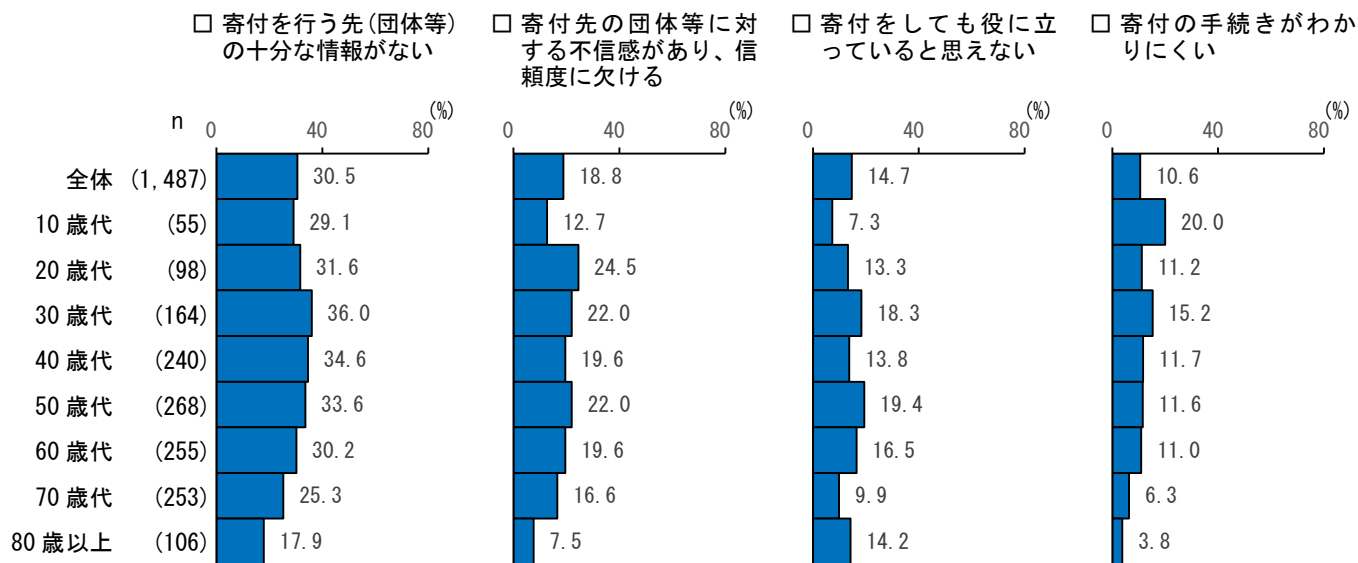
【図表89：寄付をするにあたり妨げとなること】



寄付をするにあたり妨げとなることについては、「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」が30.5%、次いで「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」(18.8%)、「寄付をしても役に立っていると思えない」(14.7%)、「寄付の手続きがわかりにくい」(10.6%)の順となっている。

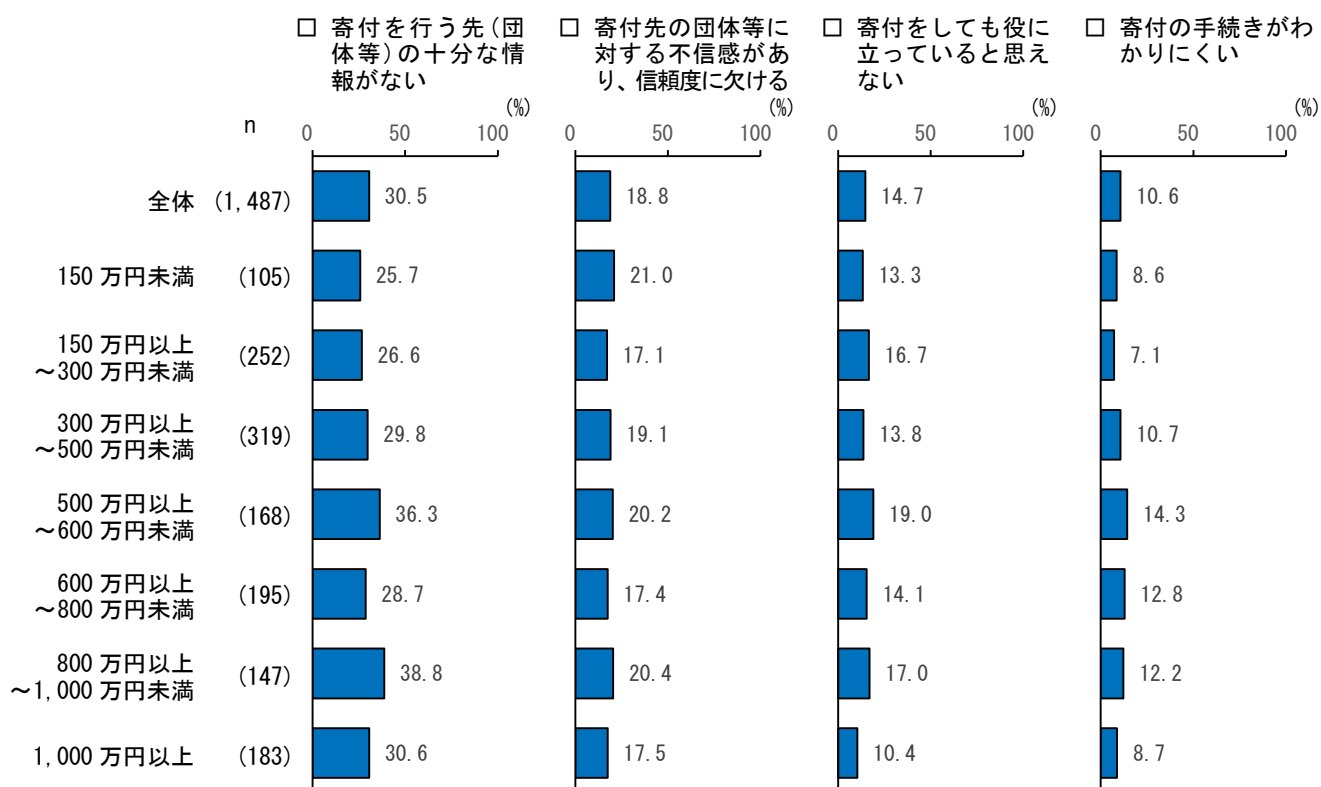
なお、「特に妨げになることはない」と回答した人は35.0%となっている。

【図表90：年齢別／寄付をするにあたり妨げとなること】



「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」を年代別にみると、30歳代が36.0%と最も高く、次いで、40歳代(34.6%)、50歳代(33.6%)、20歳代(31.6%)、60歳代(30.2%)が3割を超えている。「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」は、20歳代(24.5%)、30歳代(22.0%)、50歳代(22.0%)で2割を超えている。

【図表91：年収区分別／寄付をするに当たり妨げとなること】



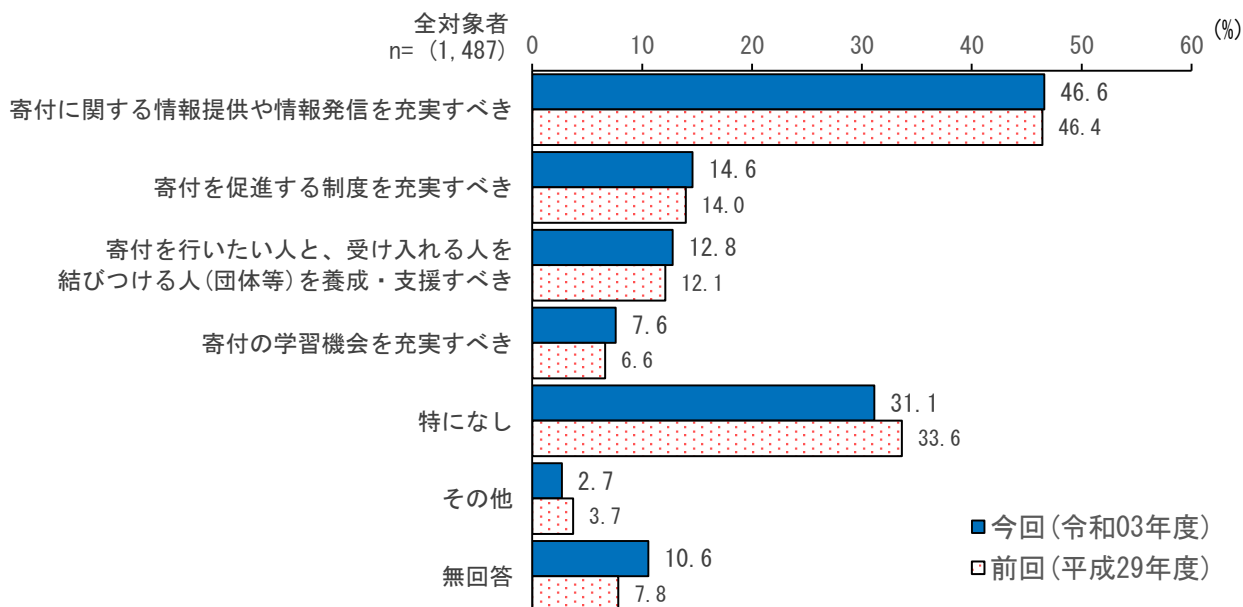
「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」を年収区別にみると、「800万円以上～1,000万円未満」が38.8%と最も高く、他の年収区分においても3割前後となっている。

「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」は、どの年収区分においても2割前後となっている。

(8) 寄付促進のために市に望むこと

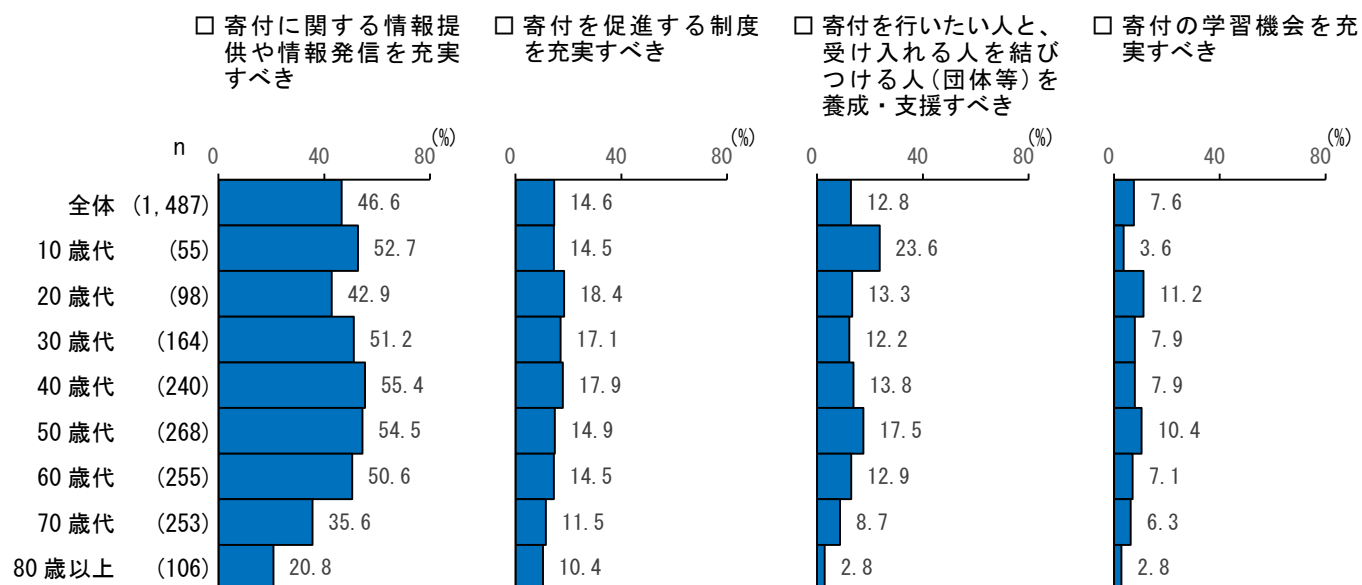
問4-8 寄付促進のために、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表9-2：寄付促進のために市に望むこと】



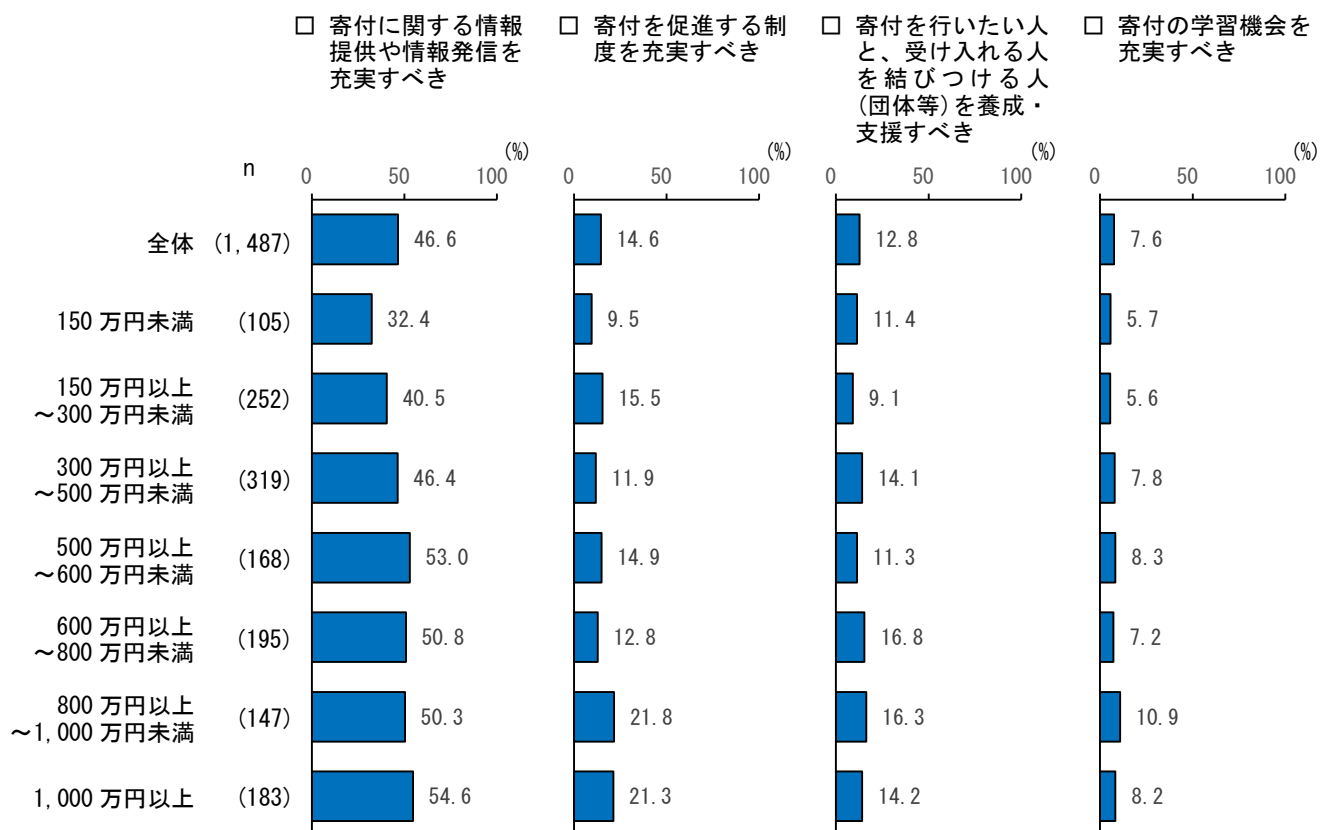
寄付促進のために市に望むことについては、「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が46.6%と最も高く、次いで「寄付を促進する制度を充実すべき」(14.6%)、「寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(12.8%)、「寄付の学習機会を充実すべき」(7.6%)の順となっている。なお、「特になし」と回答した人は31.1%となっている。

【図表93：年齢別／寄付促進のために市に望むこと】



「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年代別にみると、10歳代および30～60歳代が5割前後と高くなっている。「寄付を促進する制度を充実すべき」は、20歳代（18.4%）、40歳代（17.9%）、30歳代（17.1%）、50歳代（14.9%）などとなっている。

【図表94：年収区分別／寄付促進のために市に望むこと】



「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年収区分別にみると、500万円以上のすべての年収区分において5割を超えている。

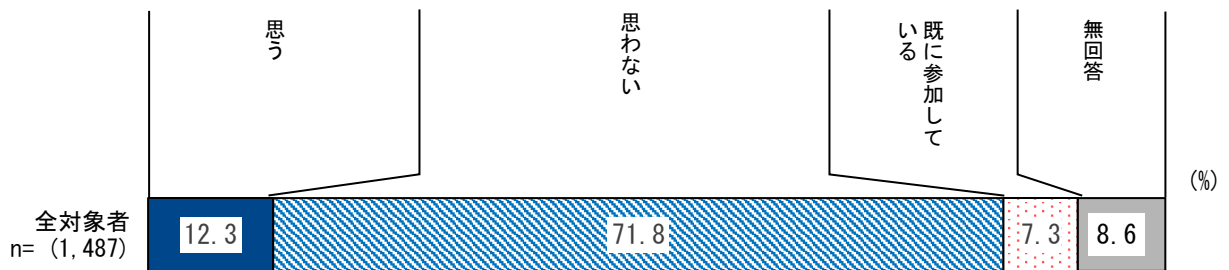
「寄付を促進する制度を充実すべき」は、「800万円以上～1,000万円未満」が21.8%と最も高く、次いで、「1,000万円以上」(21.3%)、「150万円以上～300万円未満」(15.5%)の順となっている。

6. その他

(1)新型コロナウイルスによる地域活動や市民活動への影響

問5-1 新型コロナウイルス感染症の影響をきっかけに、地域活動や市民活動などに参加したいと思いますか。(一つに○)

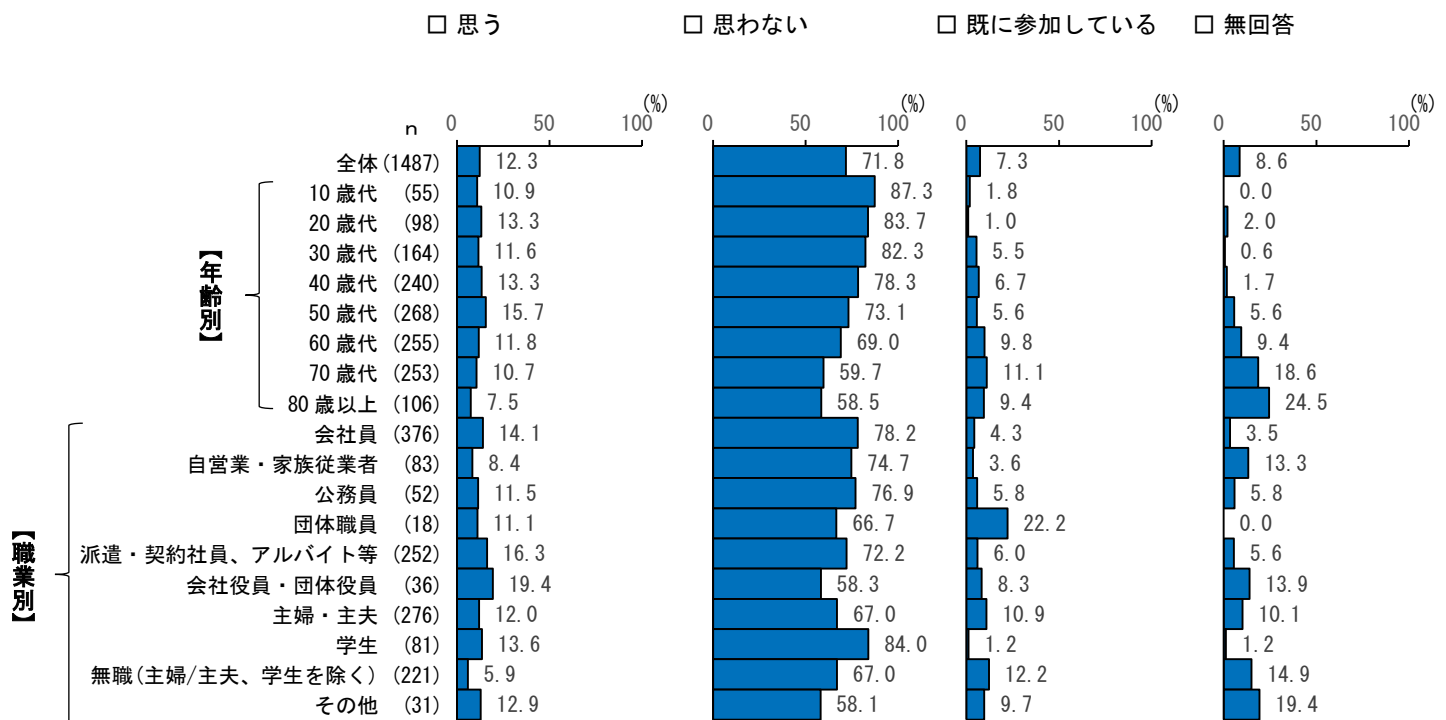
【図表95：新型コロナウイルスの影響をきっかけに、地域活動や市民活動などに参加したいと思うか】



新型コロナウイルス感染症の影響をきっかけに、地域活動や市民活動などに参加したいと思うかについては、「思う」が12.3%、「思わない」が71.8%となり、半数以上が「思わない」と答えている。

また、新型コロナウイルス感染症の影響に関わらず、「既に参加している」との回答が7.3%あった。

【図表96：年齢別・職業別／地域活動や市民活動などに参加したいと思うか】



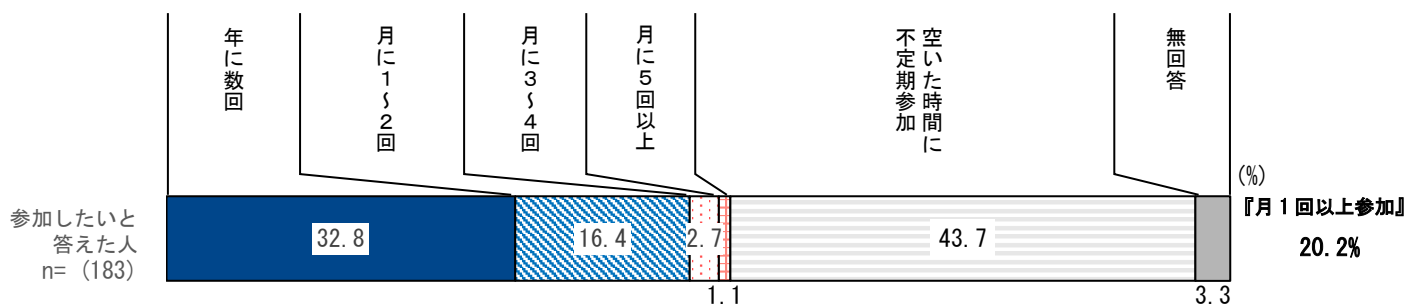
地域活動や市民活動などに参加したいと思うかの割合を年齢別に見ると、「思う」は50歳代(15.7%)が最も高い割合を示しているものの、全ての年代で2割を下回っている。「思わない」は10歳代~30歳代で80%を超え、年齢が若くなるほど割合が高くなる傾向にある。

職業別に見た場合も「思う」が全ての職種で2割を下回っており、「思わない」は学生(84.0%)、会社員(78.2%)、公務員(76.9%)、自営業・家族従業者(74.7%)、派遣・契約社員、パートタイム従業者、アルバイト(72.2%)が7割を超えている。

【問5-1で「1. 思う」に○をつけた方にお聞きします】

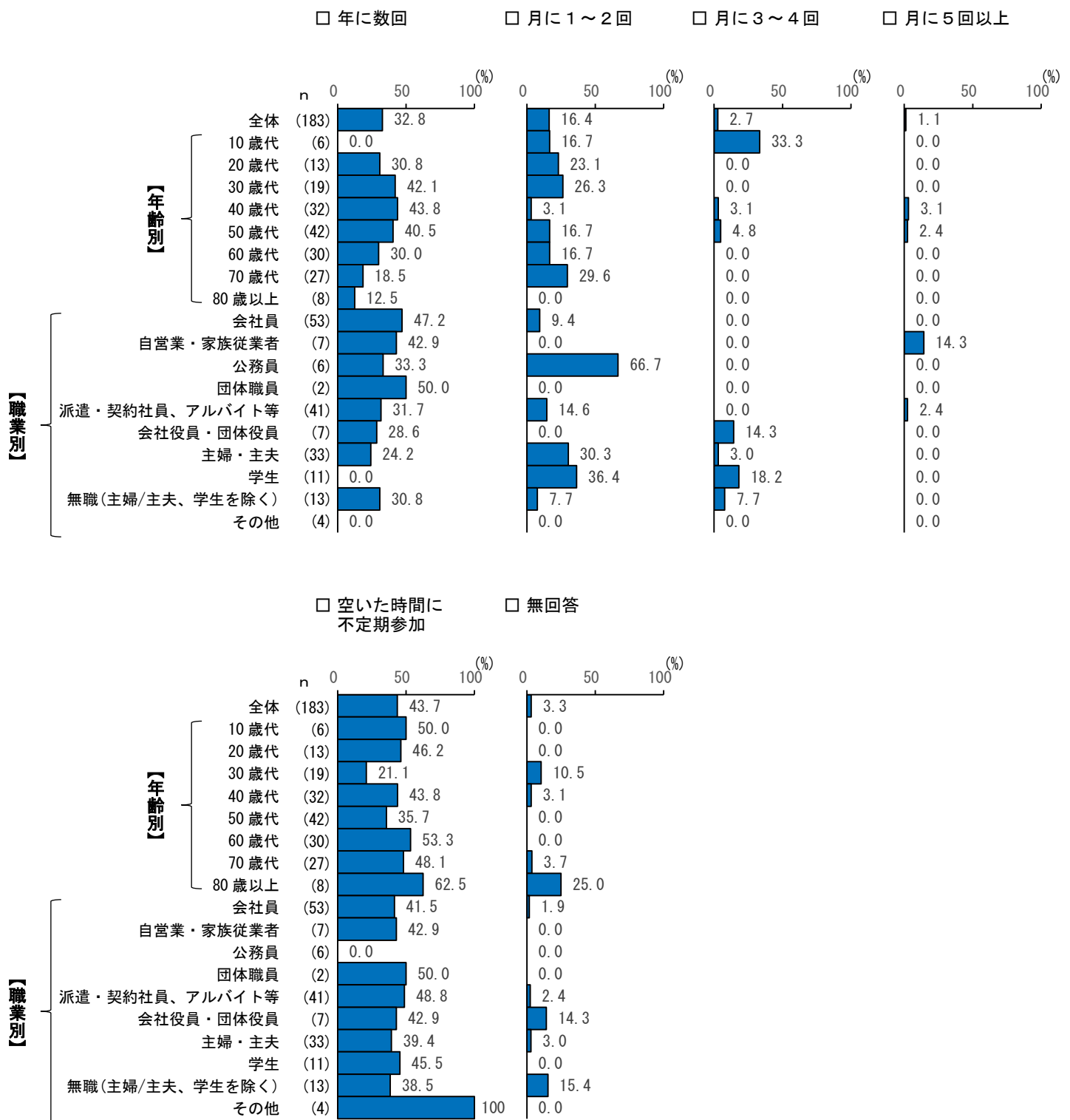
問5-2 どれくらいの頻度で参加したいと思いますか。(一つに○)

【図表97：地域活動や市民活動にどれくらいの頻度で参加したいか】



新型コロナウイルス感染症の影響をきっかけに地域活動や市民活動などに参加する場合、月1回以上の頻度で参加したいと思うと回答したのは20.2%だった。その内、「月に1~2回」が16.4%、「月に3~4回」が2.7%、「月に5回以上」が1.1%という結果となった。

【図表98：年齢別・職業別／地域活動や市民活動にどれくらいの頻度で参加したいか】



年齢別・職業別はサンプル数が少ないため参考として表示するにとどめる。

(2) 自由意見

問5-1 その他、何かご意見等がございましたらお書きください。

自由意見について、187人からの回答があった。「その他」を除き回答の多かった内容は、「このアンケートについて」「市民活動・ボランティア活動について」「市民活動情報の発信について」「新型コロナウイルスについて」の順であった。

内容	件数
市民活動・ボランティア活動について (例：機会があれば参加したい、自分の生活で参加できない等)	31
このアンケートについて(例：アンケートに答えるのが難しい等)	45
市民活動情報の発信について(例：情報提供の充実等)	23
寄付対象団体や寄付金の流れについて(例：募金が正しく使われているか等)	5
まちづくりについて(例：道路整備、町の施設の充実等)	6
自治会・町内会活動や地域コミュニティについて (例：活動の負担が大きい等)	10
高齢者や障がい者施策について (例：高齢者や障がいがある方向け支援の充実等)	14
文化・スポーツイベントの開催や文化・スポーツ施設の整備について (例：ホールの整備等)	10
藤沢市の環境整備について(例：樹木の管理等)	13
藤沢市の財政について(例：税金が高い等)	19
市職員について(例：職員の地域活動等)	1
児童施策について(例：子ども向け支援の充実等)	2
市民のマナーの改善について(例：住民のモラルやマナー等)	1
防災活動について(例：消防団等)	6
防犯について(例：地域の安全安心)	8
上記以外の市政について	7
新型コロナウイルスについて(例：感染への不安や対策への関心・要望等)	23
その他	28

※ 1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。